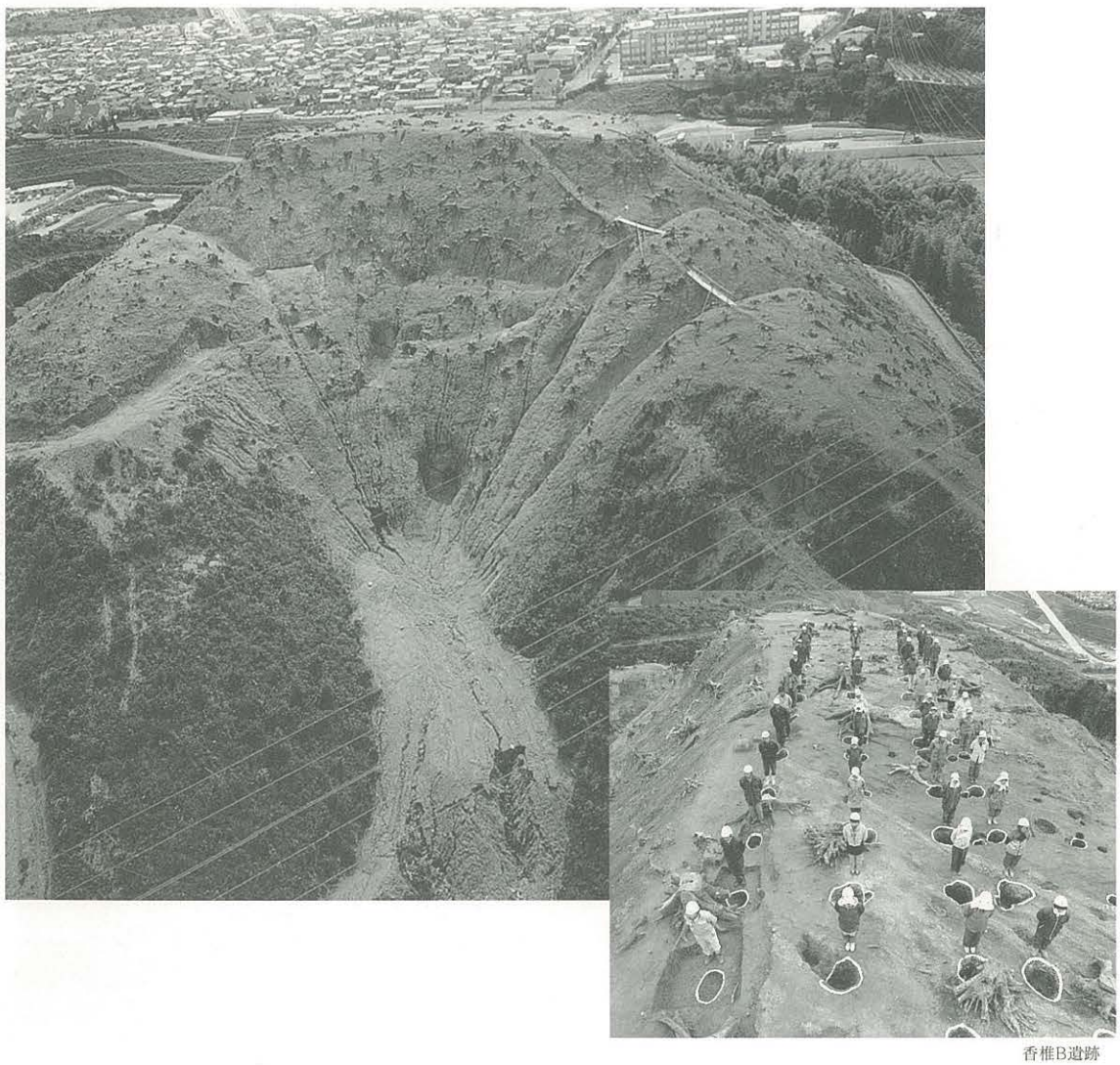
福岡市埋蔵文化財年報
Vol.12

－平成９(1997)年度－



香椎B遺跡

1999

福岡市教育委員会

序

福岡市においては、文化財保護法の趣旨に基づき、埋蔵文化財の適正な保存と活用を図ることを目的として、公共及び民間の各種開発事業の事前審査、記録保存のための緊急調査、重要遺跡確認調査等を実施しております。

平成９年度は、平成不況と呼ばれる状況下で、開発事業の相対的な減少傾向がみられたにもかかわらず、道路や下水道整備等の都市基盤整備を中心とした公共事業や、民間の小規模な開発事業に起因する緊急調査は例年以上の件数を数えました。これは、埋蔵文化財の周知化がある程度進むとともに、開発関係各位の文化財保護に対するご理解が深められつつある状況を示していると思われます。

本書は、平成９年度における埋蔵文化財保護行政の概要報告です。本書が文化財保護のより一層のご理解の一助となり、また学術的資料として活用いただければ幸いです。

平成11年３月31日
福岡市教育委員会
教育長　町田　英俊

例　言

１．本書は、平成９年度に教育委員会埋蔵文化財課が実施した事業のうち、開発事業に伴う事前審査概要と発掘調査の概要報告、本報告、及び文化財整備課が所管した新指定文化財の概要報告である。

２．本書に記載ある報告のうち、調査番号9709･9710･9728･9747･9749･9753については、この年報をもって、本報告とする。その他については別途本報告書が刊行される予定である。刊行予定年度は各文末に記載している。

３．各報告の表題の番号及び略号は下記内容を表示している。
【例】9701藤崎遺跡群第28次調査（FUA-28）
（調査番号）　（遺跡略号）

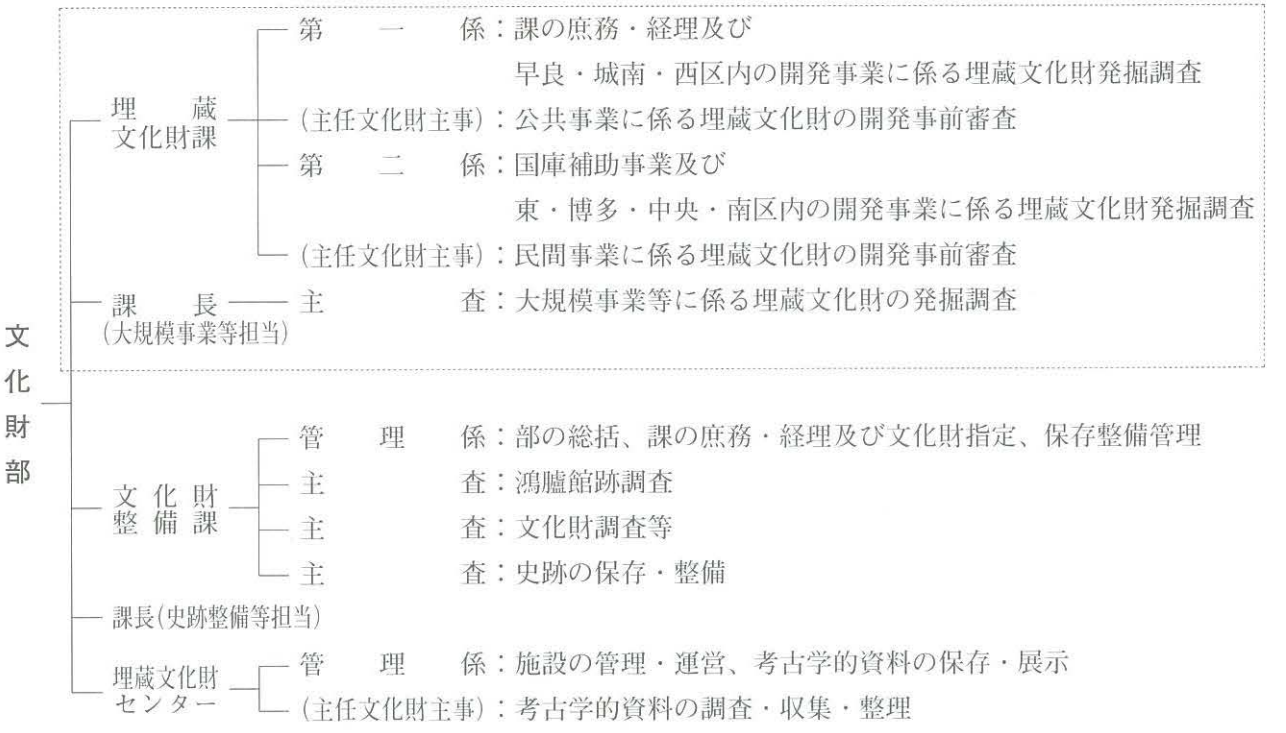
４．調査地点位置図のキャプションは下記の内容を表示している。
【例】81室見.307 1:8000
「81」は福岡市文化財分布地図図幅番号
「室見」は福岡市文化財分布地図図幅名称
「307」は遺跡登録番号

５．本書の編集は、事前審査担当者の協力の下に田中壽夫が行った。なお、発掘調査報告は各調査担当者が分担執筆し、Ⅲについては文化財整備課三木隆行・濱石哲也が執筆した。

目　次

Ⅰ　開発事前審査 ･･･ 1
　１）平成９年度の概要 ･･･ 1
　２）試掘調査一覧 ･･･ 2
Ⅱ　発掘調査の概要 ･･･ 10
　１）平成９年度の概要 ･･･ 10
　２）平成９年度発掘調査一覧 ･･･ 11
　３）各調査の概要及び調査報告 ･･･ 15
Ⅲ　平成９年度の指定文化財 ･･･ 100
附　平成９年度刊行報告書一覧 ･･･ 104

平成９年度文化財部の組織



埋蔵文化財課の構成

（下線のある職員は９年度事前審査担当）

埋蔵文化財課長：荒巻輝勝
第一係長：二宮忠司
主任文化財主事：飛高憲雄　井澤洋一　杉山富雄
係員：（文化財主事）　荒牧宏行　加藤良彦　米倉秀紀　池田祐司　加藤隆也
中村啓太郎　久住猛雄　大塚紀宜　星野恵美
（事務）　内野保基　小森彰　浅原千晶（９年10月末迄）　河野淳美
第二係長：山口譲治
主任文化財主事：力武卓治　松村道博
係員：（文化財主事）　大庭康時　瀧本正志　佐藤一郎　宮井善朗　長家　伸
：榎本義嗣　屋山　洋　田上勇一郎　本田浩二郎　井上繭子
課長（大規模事業等担当）：山崎純男
主査：池崎譲二
係員：（文化財主事）　小林義彦　菅波正人　松浦一之介

Ⅰ　開発事前審査

土木工事等の各種開発事業に係る埋蔵文化財の取扱については、福岡市文化財分布地図を基本資料とし、これまでの発掘調査および試掘調査等の成果を参考にしながら、埋蔵文化財の有無確認・保存措置に係わる協議等の事前審査を行っている。

文化財分布地図は、周知化を図ることを目的に、本市開発関係部局および公共機関等に配布している。公共事業については、次年度予定の事業計画の照会を行い、市域内における公共事業を全般的に把握し、埋蔵文化財の保存上問題となると思われる事業にはその取扱について関係部局に協議を求めている。民間の開発事業については、都市計画法に基づく1,000㎡以上の開発事業、建築基準法に基づく建築事業等を対象として事前協議を求めている。また、計画策定段階での開発業者や、不動産取引関係者、一般市民等の分布地図閲覧や埋蔵文化財に係わる照会にも窓口で応じている。

1）平成９(1997)年度の概要

平成９年度の公共および民間開発事業等に伴う事前審査申請件数は、公共事業689件、民間事業566件の計1255件であった。また、事前審査窓口に備え付けた『文化財分布地図』の閲覧及び開発予定地における埋蔵文化財の有無に係わる照会等はは1873（照会地が明らかなもの1844件）であった。窓口における照会は不動産売買取引に伴うものが多くなっており、周知化が進むにつれその傾向が高まることが予想される。

事業別割合では、公共事業が昨年度と比較して23.3%減少している。民間事業はほぼ同数である。全市的には昨年度と同じく西部地区に申請件数が偏る傾向がある。各区別にみると、西区が271件で最も多く、次いで博多区の263件、早良区の222件となる。南区は129件で昨年に比較し35%以上減少している。下水道敷設等の公共事業の減少によるものである。中央区は遺跡の数が少ないことにもよるが、98件と少ない。東区は昨年よりわずかに減少している。

事前審査の内訳をみると、申請件数の69.7%にあたる874件が書類審査の結果埋蔵文化財に影響がないと判断された。書類審査により、要本調査と判断されたのは９件である。試掘調査は236件実施したが、開発により保存上支障をきたし、調査が必要と判断されたのは48件である。その他については慎重工事、工事立会で対処した。工事立会は昨年度と比べ大幅に増加している。審査継続中の件数が多いのは、開発に先立って事前協議を行う傾向が高まっているためで、特に土地売買の事例が目立っている。

事前審査件数の推移　（件）

	H.4	H.5	H.6	H.7	H.8	H.9
民　間	443	511	478	560	561	566
公　共	653	709	640	739	899	689
合　計	1,096	1,220	1,118	1,299	1,460	1,255

注．試掘実施件数は236件である。うち、開発同意件数が175件、要本調査と判断された件数が48件、その他工事立会等が15件である。

要調査と判断された57件の内訳件数は、書類審査によるものが９件、試掘調査によるものが48件である。

窓口での遺跡の有無等の照会件数は1873件であるが、表ではそのうち照会先が明らかな1844件を示した。

平成9年度事前審査内訳(（　）内は８年度以前受付)

区	事業種別	開発同意内訳				要調査	審査継続中	計画取り下げ	受付合計	窓口照会
		書類	試掘	踏査	工事立会					
東区	公共	82	7	0	5	2	3	0	99	
	民間	54	18	2	2	5	5	1	87	268
南区	公共	55	6	0	0	1	7	0	69	
	民間	37	18	0	0	5	1	1	62	287
博多区	公共	55	4	0	6	7	7	0	79	
	民間	90	46	4	16	21	9	1	187	376
中央区	公共	73	1	0	0	0	2	0	76	
	民間	13	4	1	4	0	0	0	22	292
城南区	公共	40	4	0	0	0	5	0	49	
	民間	14	8	6	0	1	3	2	34	180
早良区	公共	100	6	0	1	1	7	0	115	
	民間	62	29	3	4	8	1	0	107	275
西区	公共	158	8	0	26	2	10	0	204	
	民間	41	15(1)	1	3	4	0	0	67	166
合計	公共	563	34	0	38	13	64	0	689	
	民間	311	141	17	29	44	19	5	566	1844

2）試掘調査一覧(区別)

①西区

試掘番号	調査番号	受付番号	申請地	申請面積(㎡)	開発目的	遺跡登録番号		遺跡名	試掘調査日	結果	判断
1	9808	9-1- 18	西区大字小田字ﾐﾄﾞﾘ･木原	1,568.0	小田地区処理施設	127	760	小田C遺跡	1997.12.05	遺構有り	要本調査
2	—	9-1- 24	西区泉地内	2,000.0	道路建設	13	689	周船寺遺跡群	1997.05.21	遺構なし	慎重工事
3	—	9-1- 30	西区横浜地内	2,500.0	道路建設	111	116	今山遺跡	1997.06.13	遺構なし	慎重工事
4	—	9-1- 92	西区横浜１丁目	2,000.0	自転車道新設	111	621	今宿遺跡群	1997.06.11	遺構なし	慎重工事
5	9745	9-1- 348	西区羽根戸地内	35,500.0	配水池	90	576	羽根戸南古墳群E･F群	1997.05.28	遺構有り	要本調査
6	—	9-1- 783	西区今宿字新貝	1,646.0	公園整備	112	625	大塚遺跡群	1997.07.16	遺構有り	慎重工事
7	—	9-1- 810	西区拾六町２丁目	1,000.0	道路拡幅	91	—	包蔵地外	1997.11.05	遺構なし	開発同意
8	—	9-1- 853	西区戸切・橋本地内	80,000.0	車両基地	91	—	包蔵地外	1998.03.04	遺構なし	開発同意
9	—	9-1-2040	西区下山門４丁目14-38	760.0	公民館建設	90	—	包蔵地外	1997.11.05	遺構なし	開発同意
10	—	8-2- 541	西区大字飯氏字屋形939-1外７筆	2,422.0	変電所	132	689	周船寺遺跡群	1997.03.19･4.4	遺構有り	慎重工事
11	9746	9-2- 1	西区大字女原地内279-1他	3,880.0	宅地造成	120	688	女原遺跡	1997.05.07	遺構有り	要本調査
12	9710	9-2- 11	西区大字飯氏字下カリ町988-1外５筆	5,273.0	共同住宅	131	689	周船寺遺跡群	1997.04.15	遺構有り	要本調査
13	—	9-2- 25	西区大字千里字中原49-1外	9,077.8	老人保健施設	121	2586	千里中原	1997.05.07	遺構有り	慎重工事
14	—	9-2- 56	西区飯盛字城ノ尾666-2外７筆、同所66	3,427.0	病院新築	93	408	飯盛谷Ａ	1997.06.17	遺構なし	慎重工事
15	—	9-2- 81	西区横浜１丁目17･30・31	1,961.2	戸建住宅	119	—	包蔵地外	1997.06.09	遺構なし	慎重工事
16	—	9-2- 87	西区拾六町２丁目341-1	3,118.0	公衆浴場	91	388	拾六町亀田	1997.06.17	遺構なし	慎重工事
17	—	9-2- 102	西区今宿青木字土山1024-2,1023-4	912.4	店舗	112	629	鋤崎遺跡	1997.06.09	遺構なし	慎重工事
18	—	9-2- 166	西区今宿３丁目889,890-1	529.0	社屋建設	112	621	今宿遺跡群	1997.09.11	遺構有り	工事立会
19	—	9-2- 166	西区今宿３丁目889,890-1	529.0	社屋建設	112	621	今宿遺跡群	1997.09.11	遺構有り	工事立会
20	—	9-2- 204	西区今津字町1831	224.8	専用住宅	118	675	今津A遺跡	1997.08.21	遺構有り	慎重工事
21	—	9-2- 219	西区大字飯氏字上カリ町979-1	2,032.0	共同住宅	131	689	周船寺遺跡群	1997.08.21	遺構なし	開発同意
22	—	9-2- 237	西区周船寺１丁目516-11	368.0	店舗付共同住宅	131	689	周船寺遺跡群	1997.09.18	遺構なし	慎重工事
23	—	9-2- 244	西区拾六町５丁目978-1	1,278.0	宅地造成	103	375	大林遺跡群	1997.09.02	遺構有り	本調査・要協議
24	—	9-2- 245	西区周船寺２丁目425-1の一部	252.5	店舗	120	689	周船寺遺跡群	1997.09.25	遺構有り	慎重工事
25	—	9-2- 254	西区拾六町４丁目916-1他4筆	1,825.0	宅地造成	104	384	湯納遺跡	1997.09.07	遺構有り	慎重工事
26	—	9-2- 337	西区大字元岡1578-1	720.0	観音堂建設	130	744	元岡古墳群D	1997.11.28	遺構有り	工事立会
27	—	9-2- 357	西区今宿２丁目924-1外	1,344.4	店舗	112	621	今宿遺跡群	1997.11.20	遺構なし	開発同意
28	—	9-2- 384	西区今宿青木31-1,30-3	1,925.0	事務所	112	628	青木遺跡群	1997.12.09	遺構なし	開発同意
29	—	9-2- 441	西区大字千里字中原49-1外９筆、国道区域49-	3,247.7	老人保健施設	121	2586	千里中原	1998.01.14	遺構なし	開発同意
30	—	9-2- 531	西区姪浜３丁目11-5	232.3	共同住宅	89	367	姪浜遺跡群	1998.03.31	遺構なし	慎重工事

②早良区

試掘番号	調査番号	受付番号	申請地	申請面積(㎡)	開発目的	遺跡登録番号		遺跡名	試掘調査日	結果	判断
31	—	9 - 1 - 10	早良区四箇	3,200.0	道路新設	84	425	四箇大町遺跡	1997.9.4･5.22	遺構なし	慎重工事
32	—	9 - 1 - 19	早良区四箇地内	3,200.0	道路改良	84	425	四箇大町遺跡	1997.4.30･5.21	遺構なし	開発同意
33	9722	9 - 1 - 26	早良区東入部地内	3,200.0	道路拡幅	85	—	包蔵地外	1997.04.30	遺構有り	要本調査
34	—	9 - 1 - 114	早良区曲淵708-3	55.6	分団格納庫建て替え	26	311	原遺跡群	1997.08.19	遺構なし	慎重工事
35	—	9 - 1 - 782	早良区四箇水上田	10,000.0	なし	84	320	四箇遺跡群	1997.07.09	なし	慎重工事
36	—	9 - 1 - 804	早良区早良	528.0	道路拡幅	16	791	内野熊山遺跡群	1997.09.17	遺構なし	慎重工事
37	—	9 - 1 - 805	早良区四箇田団地549-11	650.0	公園整備	84	320	四箇遺跡群	1997.09.17	遺構なし	慎重工事
38	9721	8 - 2 - 443	早良区小田部３丁目285,286	964.0	自宅、共同住宅	82	309	有田遺跡群	1997.05.27	遺構有り	要本調査
39	9719	8 - 2 - 522	早良区藤崎１丁目2-7	360.0	共同住宅	81	307	藤崎Ａ遺跡	1997.05.27	遺構有り	要本調査
40	—	9 - 2 - 10	早良区四箇５丁目48-8	331.0	携帯電話基地	84	322	四箇東遺跡群	1997.04.15	遺構なし	開発同意
41	9717	9 - 2 - 17	早良区小田部１丁目126	383.7	専用住宅	82	309	有田遺跡群	1997.05.12	遺構有り	要本調査
42	—	9 - 2 - 39	早良区重留６丁目637-3	416.2	事務所	84	324	重留村下遺跡	1997.05.20	遺構有り	慎重工事
43	9747	9 - 2 - 92	早良区西新５丁目632-6	109.1	専用住宅（鉄筋2階）	72	240	西新町	1997.09.18	遺構有り	要本調査
44	—	9 - 2 - 93	早良区藤崎１丁目33	164.5	店舗	81	307	藤崎Ａ遺跡	1997.06.09	遺構なし	慎重工事
45	9728	9 - 2 - 137	早良区田村３丁目762-1	1,070.0	共同住宅	93	317	包蔵地外	1997.06.26	遺構有り	要本調査
46	—	9 - 2 - 148	早良区田村５丁目1番１他	4,920.8	宅地造成	84	320	四箇遺跡群	1997.07.29	遺構なし	慎重工事
47	—	9 - 2 - 168	早良区有田２丁目16-18,16-40	915.2	倉庫改築	82	314	小田部城跡	1997.07.15	遺構なし	慎重工事
48	—	9 - 2 - 170	早良区重留４丁目4-16	447.6	売買	85	324	重留村下遺跡	1997.07.15	遺構有り	慎重工事
49	—	9 - 2 - 177	早良区有田３丁目43-11	225.5	事務所兼店舗	82	309	有田遺跡群	1997.07.29	遺構なし	慎重工事
50	—	9 - 2 - 178	早良区田村３丁目153-1,154の一部	1,986.8	一戸建宅地造成	84･93	317	田村遺跡群	1997.07.29	遺構なし	慎重工事
51	—	9 - 2 - 233	早良区高取１丁目24,87	203.6	共同住宅	72	240	西新町	1997.09.30	遺構なし	慎重工事
52	—	9 - 2 - 248	早良区野芥２丁目521-15	96.5	専用住宅（３階建て）	83	319	野芥遺跡群	1997.09.11	遺構有り	工事立会
53	—	9 - 2 - 253	早良区有田３丁目526-1	896.0	貸店舗	82	309	有田遺跡群	1997.09.09	遺構なし	慎重工事
54	—	9 - 2 - 275	早良区重留４丁目515-1	1,930.0	戸建分譲	84	324･3	重留村下、重留古墳	1997.10.14	遺構なし	慎重工事
55	—	9 - 2 - 299	早良区南庄３丁目30-8	399.7	専用住宅	81	309	有田遺跡群	1997.10.14	遺構なし	慎重工事
56	—	9 - 2 - 319	早良区南庄３丁目84-1	437.1	共同住宅	81	309	有田遺跡群	1997.10.13	遺構有り	慎重工事
57	9759	9 - 2 - 353	早良区有田１丁目31-6	403.7	共同住宅	82	309	有田遺跡群	1997.11.12	遺構有り	要本調査
58	—	9 - 2 - 362	早良区小田部１丁目237-2	232.3	専用住宅	81	309	有田遺跡群	1997.11.20	遺構有り	慎重工事
59	—	9 - 2 - 391	早良区小田部３丁目397他	1,016.3	専用住宅	82	309	有田遺跡群	1997.12.09	遺構なし	慎重工事
60	—	9 - 2 - 393	早良区百道１丁目807-6,850-3	408.4	共同住宅	81	307	藤崎Ａ遺跡	1998.03.12	遺構なし	開発同意

試掘番号	調査番号	受付番号	申請地	申請面積(㎡)	開発目的	遺跡登録番号		遺跡名	試掘調査日	結果	判断
61	—	9 - 2 - 394	早良区野芥２丁目7-8	924.4	寺院	83	319	野芥遺跡群	1998.01.20	遺構なし	慎重工事
62	—	9 - 2 - 395	早良区田村２丁目1071-1	473.0	駐車場	92	317	田村遺跡群	1998.01.08	遺構有り	慎重工事
63	9803	9 - 2 - 411	早良区有田２丁目14-1の一部外	1,721.0	共同住宅	82	307	有田遺跡群	1998.02.03	遺構有り	要本調査
64	—	9 - 2 - 424	早良区田村２丁目799-1,-3,-4	1,398.0	共同住宅	92	246	田村遺跡群	1998.02.26	遺構なし	開発同意
65	—	9 - 2 - 431	早良区高取１丁目414-3,423-4	100.6	宅地	81	307	藤崎Ａ遺跡	1998.01.08	遺構なし	開発同意
66	—	9 - 2 - 451	早良区有田２丁目	592.4	宅地	82	—	有田遺跡群	1998.01.20	遺構有り	慎重工事
67	—	9 - 2 - 464	早良区飯倉６丁目4-27の一部	173.9	専用住宅新築工事	73	253	飯倉Ｃ遺跡群	1998.03.05	遺構有り	慎重工事
68	—	9 - 2 - 467	早良区藤崎１丁目2-29	775.3	専用住宅	81	2775	藤崎Ａ遺跡	1998.02.10	遺構有り	慎重工事
69	—	9 - 2 - 471	早良区西新７丁目710-2	504.0	売却	72	199	西新町	1998.02.26	遺構有り	慎重工事
70	—	9 - 2 - 474	早良区藤崎１丁目4-7地番(145,15	244.6	宅地	81	—	藤崎Ａ遺跡	1998.01.29	遺構なし	開発同意
71	—	9 - 2 - 481	早良区次郎丸１丁目204-1,217-1,216	4,060.2	宅地造成	83	255	包蔵地外	1998.02.03	遺構なし	開発同意

③城南区

試掘番号	調査番号	受付番号	申請地	申請面積(㎡)	開発目的	遺跡登録番号		遺跡名	試掘調査日	結果	判断
72	—	8 - 1 - 612	城南区梅林	17,000.0	道路建設（外環状）	74	203	飯倉F遺跡群	1998.03.25	遺構なし	慎重工事
73	9800	8 - 1 - 613	城南区梅林４丁目	17,000.0	道路建設（外環状）	74	246	梅林遺跡	1997.10.23	遺構有り	要本調査
74	—	9 - 1 - 6	城南区田島１丁目・２丁目	11,880.0	道路新設	72	246	田島遺跡群	1997.09.30	遺構なし	開発同意
75	—	9 - 1 - 61	城南区樋井川７丁目21-1	755.0	公民館改築	64	—	包蔵地外	1997.04.08	遺構なし	慎重工事
76	—	9 - 1 - 809	城南区七隈７丁目	10,000.0	グランド造成	75	255	五ヶ村池遺跡	1997.10.29	遺構なし	慎重工事
77	—	9 - 2 - 36	城南区樋井川２丁目903-3	710.0	２階建共同住宅	63	203	長尾遺跡	1997.05.20	遺跡なし	慎重工事
78	—	9 - 2 - 40	城南区七隈２丁目1186-1,-2	698.9	戸建住宅宅地造	73	246	飯倉Ｃ遺跡群	1997.05.08	遺跡なし	開発同意
79	—	9 - 2 - 309	城南区七隈２丁目1178-1の一部	300.0	私設道路	73	246	飯倉Ｃ遺跡群	1997.11.25	遺構なし	開発同意
80	—	9 - 2 - 317	城南区神松寺２丁目1111-1～-6,-11	8,613.4	店舗	63	—	包蔵地外	1997.10.30	遺構なし	開発同意
81	—	9 - 2 - 320	城南区干隈２丁目928-4外	814.3	売買	83	319	野芥遺跡群	1997.11.06	遺構なし	開発同意
82	—	9 - 2 - 488	城南区荒江１丁目276-1	689.1	専用住宅	72	243	飯倉B遺跡群	1998.03.05	遺構あり	慎重工事
83	—	9 - 2 - 547	城南区田島３丁目94	264.6	専用住宅	73	249	田島和尚頭遺跡	1998.03.19	遺構なし	慎重工事

④中央区

試掘番号	調査番号	受付番号	申請地	申請面積(㎡)	開発目的	遺跡登録番号		遺跡名	試掘調査日	結果	判断
84	—	9 - 1 - 778	中央区浄水通	985.0	公園整備	61	—	包蔵地外	1997.07.17	遺構なし	慎重工事
85	—	9 - 2 - 78	中央区地行４丁目12-1	189.1	鉄骨造アパート	71	116	元寇防塁	1997.06.12	遺構なし	慎重工事
86	—	9 - 2 - 96	中央区桜坂２丁目261	695.3	専用住宅	61	—	包蔵地外	1997.06.12	遺構なし	慎重工事

試掘番号	調査番号	受付番号	申請地	申請面積(㎡)	開発目的	遺跡登録番号		遺跡名	試掘調査日	結果	判断
87	—	9 - 2 - 231	中央区地行３丁目11-6,-5	216.8	未定	71	116	元寇防塁	1997.12.05	遺構なし	慎重工事
88	—	9 - 2 - 283	中央区赤坂１丁目108-2	203.9	専用住宅	60	193	福岡城跡	1997.11.19	遺構なし	慎重工事
89	—	9 - 2 - 402	中央区大名２丁目1,5,6	534.0	ﾃﾅﾝﾄﾋﾞﾙ	60	193	福岡城跡	1998.03.13	遺構なし	慎重工事
90	—	9 - 2 - 432	中央区伊崎12	268.4	宅地	71	116	元寇防塁	1998.01.26	遺構なし	工事立会

⑤南区

試掘番号	調査番号	受付番号	申請地	申請面積(㎡)	開発目的	遺跡登録番号		遺跡名	試掘調査日	結果	判断
91	—	9 - 1 - 13	南区老司２～４丁目	890.0	道路拡幅	40	149	包蔵地外	1997.06.25	遺構なし	慎重工事
92	—	9 - 1 - 28	南区三宅２・３丁目	3,000.0	道路拡幅	39	—	包蔵地外	1997.09.26	遺構なし	慎重工事
93	—	9 - 1 - 85	南区花畑３丁目	200.0	道路拡幅	53	177	花畑A遺跡	1997.12.04	遺構なし	慎重工事
94	—	9 - 1 - 88	南区井尻２・３丁目	6,400.0	新設道路	25	103	笹原遺跡	1997.09.24	遺構なし	慎重工事
95	—	9 - 1 - 117	南区井尻団地内	7,000.0	公営共同住宅	13	2638	井尻廃寺	1997.12.17	遺構有り	要本調査
96	—	9 - 1 - 780	南区井尻４丁目地内	2,290.0	公園整備	25	—	包蔵地外	1997.07.18	遺構なし	開発同意
97	—	9 - 1 - 781	南区弥永３丁目地内	1,349.0	公園整備	41	158	警弥郷B遺跡群	1997.07.25	遺構なし	開発同意
95	—	9 - 2 - 13	南区野多目２丁目159-11,162-1,-7	1,174.0	共同住宅	40	—	包蔵地外	1997.06.12	遺跡なし	開発同意
99	—	9 - 2 - 64	南区高木１丁目648-2,655-2	510.3	宅地造成	38	—	包蔵地外	1997.06.05	遺構なし	慎重工事
100	—	9 - 2 - 84	南区井尻５丁目24-24	649.5	専用住宅	25	90	井尻Ｂ遺跡	1997.07.01	遺構有り	慎重工事
101	9737	9 - 2 - 111	南区和田１丁目512-1他	1,582.7	共同住宅	39	147	野多目Ｃ遺跡群	1997.06.23	遺構有り	要本調査
102	—	9 - 2 - 123	南区三宅２丁目900	571.8	宅地分譲	39	139	三宅Ｂ遺跡	1997.06.23	遺構有り	慎重工事
103	—	9 - 2 - 141	南区井尻５丁目179-2	345.7	共同住宅	25	90	井尻Ｂ遺跡	1997.10.21	遺構有り	慎重工事
104	—	9 - 2 - 151	南区横手３丁目16-6	432.3	共同住宅	39	99	横手遺跡	1997.07.01	遺構なし	慎重工事
105	—	9 - 2 - 198	南区弥永４丁目8-3	661.2	ビル建築	41	158	警弥郷B遺跡群	1997.08.26	遺構なし	慎重工事
106	9745	9 - 2 - 220	南区井尻１丁目292-3,-5.294-13	499.0	共同住宅	25	90	井尻Ｂ遺跡	1997.08.26	遺構有り	慎重工事
107	—	9 - 2 - 225	南区柏原５丁目20-1,-2,-3,-4,2	3,139.1	宅地造成	54	—	包蔵地外	1997.09.02	遺構有り	慎重工事
108	9745	9 - 2 - 239	南区井尻５丁目6-33	188.4	共同住宅	25	90	井尻Ｂ遺跡	1997.08.26	遺構有り	要本調査
109	9757	9 - 2 - 293	南区五十川２丁目551-3,-4,552,55	854.0	共同住宅	24	88	五十川遺跡	1997.11.11･25	遺構有り	要本調査
110	—	9 - 2 - 305	南区弥永１丁目793番地	390.0	共同住宅	41	151	警弥郷Ａ遺跡	1997.11.25	遺構有り	慎重工事
111	—	9 - 2 - 342	南区長丘３丁目3-2-,3-3,3-4	10,492.6	共同住宅	52	—	包蔵地外	1997.12.18	遺構なし	開発同意
112	—	9 - 2 - 360	南区日佐５丁目389	730.8	上日佐	40	150	上日佐	1997.12.11	遺構有り	慎重工事
113	—	9 - 2 - 388	南区長丘３丁目3-1	3,808.3	共同住宅	52	—	包蔵地外	1997.12.08	遺構なし	開発同意
114	9758	9 - 2 - 389	南区井尻１丁目711-2,712-2	448.5	専用住宅	25	—	包蔵地外	1997.12.04	遺構有り	要本調査
115	—	9 - 2 - 412	南区老司１丁目382-10,11,12	287.0	テナント、共同住宅	40	147	野多目Ｃ遺跡群	1998.01.08	遺構なし	開発同意

試掘番号	調査番号	受付番号	申請地	申請面積(㎡)	開発目的	遺跡登録番号		遺跡名	試掘調査日	結果	判断
116	—	9 - 2 - 440	南区五十川２丁目282-2,281-3	83.9	宅地	24	88	五十川遺跡	1998.01.27	遺構有り	慎重工事
117	—	9 - 2 - 452	南区若久１丁目185-1他	3,868.0	共同住宅	52	171	若久Ａ遺跡	1998.02.12,17	遺構なし	開発同意
118	—	9 - 2 - 482	南区井尻４丁目940の一部	441.7	公民館	25	101	井尻Ｃ遺跡	1998.01.30	遺構有り	慎重工事
119	—	9 - 2 - 501	南区和田３丁目71-1,-4,72-1,-2	2,536.8	戸建分譲住宅	8	139	三宅Ｂ遺跡	1998.03.17	遺構なし	慎重工事
120	—	9 - 2 - 511	南区日佐４丁目70-1,71-1	236.0	倉庫	40	100	日佐	1998.03.10	遺構なし	開発同意

⑥博多区

試掘番号	調査番号	受付番号	申請地	申請面積(㎡)	開発目的	遺跡登録番号		遺跡名	試掘調査日	結果	判断
121	—	6 - 1 - 559	博多区下川端地内	2,100.0	駐車場建設	49	121	博多遺跡群	1997.05.22	遺構有り	工事立会
122	—	7 - 1 - 622	博多区下月隈地内	900.0	空港整備	10	30	下月隈遺跡群	1998.01.28	遺構有り	慎重工事
123	—	7 - 1 - 626	博多区上川端109	11,837.0	公園整備	49	121	博多遺跡群	1998.01.20	遺構有り	工事立会
124	9800	9 - 1 - 0	博多区奈良屋町地内	26,000.0	学校建て替え	49	121	博多遺跡群	1997.08.27	遺構有り	要本調査
125	9775	9 - 1 - 45	博多区吉塚１丁目地内	3,893.0	団地建設	35	122	堅粕遺跡群	1998.10.1･21	遺構有り	要本調査
126	9820	9 - 1 - 71	博多区東那珂２丁目地内	459.0	道路新設	23	2635	東那珂遺跡	1997.08.06	遺構有り	要本調査
127	9723	9 - 1 - 78	博多区吉塚２丁目地内	8,160.0	都市計画道路拡	35	—	包蔵地外	1997.01.21	遺構有り	要本調査
128	—	9 - 1 - 794	博多区上月隈・下月隈地内	5,900.0	道路新設	10	32	上月隈遺跡群	1997.07.07	遺構有り	要本調査
129	—	9 - 1 - 798	博多区上臼井柳井348	1,366.0	電源局舎新築	22	—	包蔵地外	1997.08.01	遺構なし	慎重工事
130	—	9 - 1 - 806	博多区東光寺１丁目60	1,000.0	独身寮新築	37	85	那珂遺跡群	1997.09.10	遺構有り	要本調査
131	—	9 - 1 - 837	博多区下月隈地内	110.0	下水道敷設	10	30	下月隈A遺跡	1997.12.22	遺構なし	工事立会
132	—	9 - 1 - 838	博多区上月隈地内	200.0	下水道新設	24	32	上月隈遺跡群	1997.12.22	遺構なし	工事立会
133	—	9 - 1 - 839	博多区板付２丁目地内	250.0	下水道新設	24	94	板付遺跡	1997.12.22	遺構有り	工事立会
134	—	9 - 1 - 855	博多区博多駅前１丁目363他２筆	278.0	立体駐車場	36	121	博多遺跡群	1998.01.09	遺構なし	開発同意
135	—	9 - 1 - 857	博多区立花寺地内	165.0	送水管敷設	11	2626	立花寺Ｂ遺跡	1998.02.18	遺構なし	慎重工事
136	—	9 - 1 - 778	博多区博多駅前２丁目地内	2,000.0	公園整備	49	121	博多遺跡群	1998.01.20	遺構なし	開発同意
137	—	6 - 2 - 231	博多区竹下３丁目1	9,800.0	工場	38	85	那珂遺跡群	（試掘済）	遺構有り	要本調査
138	9714	7 - 2 - 525	博多区東那珂１丁目19-28	530.1	専用住宅	23	2635	東那珂遺跡	1997.04.24	遺構有り	要本調査
139	—	8 - 2 - 332	博多区板付２丁目12-47	220.1	共同住宅	24	94	板付遺跡	1997.04.09	慎重工事	慎重工事
140	9707	8 - 2 - 509	博多区元町１丁目11,8-4,8-5	256.4	共同住宅	13	51	南八幡遺跡群	1997.04.02	遺構有り	要本調査
141	—	8 - 2 - 536	博多区豊１丁目66-1	1,000.0	売買	35	124	豊遺跡	1997.05.19	遺構なし	慎重工事
142	—	8 - 2 - 544	博多区大字金武字ヤク22-1,-4	3,486.7	工場建設	12	2617	持田ヶ浦遺跡	1997.04.02	遺構有り	慎重工事
143	—	8 - 2 - 548	博多区東比恵３丁目204	905.0	売買	36	84	榎田遺跡	1997.04.22	遺構有り	慎重工事

試掘番号	調査番号	受付番号	申請地	申請面積(㎡)	開発目的	遺跡登録番号		遺跡名	試掘調査日	結果	判断
144	—	9-2- 5	博多区竹下5丁目162,163,164	487.8	専用住宅	38	85	那珂遺跡群	1997.04.09	遺構有り	慎重工事
145	—	9-2- 12	博多区板付2丁目9-7	667.0	売買	24	94	板付遺跡	1997.05.12	遺構有り	要本調査
146	—	9-2- 19	博多区吉塚1丁目30の一部	315.0	共同住宅	35	122	堅粕遺跡群	1997.10.02	遺構有り	慎重工事
147	—	9-2- 20	博多区堅粕5丁目304-1	296.3	事務所ビル	36	123	吉塚遺跡群	1997.04.22	遺構有り	工事立会
148	—	9-2- 34	博多区大字金隈字イカ163-2,164-1	1,652.9	売買	12	2617	持田ヶ浦遺跡	1997.05.19	遺跡なし	開発同意
149	—	9-2- 46	博多区板付2丁目13-7,13-22	1,490.9	共同住宅	24	94	板付遺跡	1997.06.05	遺構なし	工事立会
150	—	9-2- 57	博多区博多駅南6丁目9-4,-7,10-10,14-6,15	12,283.5	売買	37	127	比恵遺跡群	1997.06.03	遺構有り	要本調査
151	—	9-2- 60	博多区井相田2丁目2-3	836.6	事務所ビル	11·12	37	仲島遺跡群	1997.06.05	遺構なし	慎重工事
152	—	9-2- 76	博多区板付4丁目7-28	1,076.5	RC4階共同住	24	97	板付水田隣地	1997.06.19	遺構有り	慎重工事
153	9724	9-2- 82	博多区那珂1丁目792-1	773.0	共同住宅	37	85	那珂遺跡群	1997.06.19	遺構有り	要本調査
154	—	9-2- 86	博多区博多駅南2丁目92番	479.1	売買	37	127	比恵遺跡群	1997.07.10	遺構なし	慎重工事
155	—	9-2- 105	博多区三筑2丁目19-2,-3,-11	2,571.3	校舎増築	25	104	三筑遺跡	1997.06.19	遺構有り	慎重工事
156	—	9-2- 113	博多区那珂1丁目76番	114.2	事務所新築	37	85	那珂遺跡群	1997.07.09	遺構なし	慎重工事
157	9777	9-2- 114	博多区御供所町5-20	355.0	共同住宅	49	121	博多遺跡群	1997.06.20	遺構有り	要本調査
158	—	9-2- 126	博多区三筑2丁目1-41	1,288.0	共同住宅	25	104	三筑遺跡	1997.08.12	遺構なし	慎重工事
159	—	9-2- 134	博多区吉塚本町426	125.0	共同住宅	35	123	吉塚遺跡群	1997.08.05	遺構なし	慎重工事
160	—	9-2- 146	博多区博多駅南4丁目9-35	2,176.3	事務所新設	37	127	比恵遺跡群	1997.08.05	遺跡有り	慎重工事
161	—	9-2- 152	博多区須崎町235,234-1,-2	217.6	店舗付共同住宅	48	121	博多遺跡群	1997.07.10	遺構なし	慎重工事
162	—	9-2- 154	博多区堅粕4丁目535-1	198.0	共同住宅	35	123	吉塚遺跡群	1997.07.09	遺構有り	要本調査
163	—	9-2- 155	博多区東比恵3丁目145-1,145-2	1,520.3	工場新築	36	84	榎田遺跡	1997.07.08	遺構有り	慎重工事
164	—	9-2- 156	博多区下呉服町283	369.4	共同住宅	48	121	博多遺跡群	1997.07.10	遺構なし	慎重工事
165	9739	9-2- 164	博多区博多駅南6丁目17-5	303.2	共同住宅	37	127	比恵遺跡群	1997.07.22	遺構有り	要本調査
166	—	9-2- 165	博多区板付3丁目4-25.-26	2,479.3	共同住宅	24	94	板付遺跡	1997.08.26	遺構なし	慎重工事
167	—	9-2- 169	博多区吉塚5丁目111,115	4,855.3	寺院建設	35	—	包蔵地外	1997.12.18	遺構なし	工事立会
168	—	9-2- 193	博多区那珂3丁目426	927.0	売買	24	85	那珂遺跡群	1997.07.31	遺構なし	慎重工事
169	—	9-2- 195	博多区東比恵3丁目1,10,11	4,126.0	売買	36	2776	東比恵3丁目遺跡	1997.07.24	遺構有り	慎重工事
170	—	9-2- 203	博多区那珂1丁目22-21	138.5	専用住宅	23	85	那珂遺跡群	1997.07.31	遺構有り	工事立会
171	—	9-2- 205	博多区博多駅東3丁目149	204.0	賃貸ビル	36	126	駅東生産遺跡	1997.08.12	遺構有り	慎重工事
172	—	9-2- 216	博多区住吉3丁目6,7,8,9,10,11,17	1,914.9	売買	49	—	包蔵地外	1997.08.19	遺構なし	開発同意
173	—	9-2- 222	博多区昭南町3丁目3	150.3	専用住宅	13	51	南八幡遺跡群	1997.10.16	遺構有り	慎重工事
174	—	9-2- 238	博多区博多駅南5丁目9-7,8,13	284.3	店舗（一階建て）	37	127	比恵遺跡群	1997.09.09	遺構有り	慎重工事

試掘番号	調査番号	受付番号	申請地	申請面積（㎡）	開発目的	遺跡登録番号		遺跡名	試掘調査日	結果	判断
175	9767	9 - 2 - 249	博多区冷泉町4-20	706.4	貸事務所ビル	49	121	博多遺跡群	1997.09.16	遺構有り	要本調査
176	—	9 - 2 - 262	博多区堅粕４丁目6-31	290.0	鉄骨造アパート	36	123	吉塚遺跡群	1997.11.04	遺構有り	工事立会
177	—	9 - 2 - 263	博多区奈良屋町106,107,104,105	487.0	共同住宅	48	121	博多遺跡群	1997.09.16	遺構有り	工事立会
178	—	9 - 2 - 270	博多区東那珂３丁目67-1	1,003.4	賃貸事務所建築	23	2635	東那珂遺跡	1997.09.25	遺構なし	慎重工事
179	—	9 - 2 - 278	博多区博多駅南６丁目23-6,24-2,25-4外5筆	3,795.4	事務所、ショールーム	37	127	比恵遺跡群	1997.10.02	遺構なし	慎重工事
180	—	9 - 2 - 289	博多区麦野４丁目9-14	299.0	未定	12	48	麦野Ａ遺跡群	1997.10.16	遺構有り	慎重工事
181	—	9 - 2 - 291	博多区麦野６丁目23-3	292.2	未定	12	50	麦野Ｃ遺跡群	1997.10.16	遺構有り	慎重工事
182	—	9 - 2 - 304	博多区綱場町38,39-1,-2,-3	241.2	立体駐車場	49	121	博多遺跡群	1997.11.04	遺構有り	慎重工事
183	—	9 - 2 - 307	博多区榎田２丁目4-1,-2,-3,-9,-22	2,980.0	工場	22	84	榎田遺跡	1997.10.03	遺構有り	工事立会
184	—	9 - 2 - 326	博多区東比恵３丁目294,295	1,537.8	新築	36	—	包蔵地外	1997.11.04	遺跡有り	慎重工事
185	—	9 - 2 - 330	博多区東比恵３丁目136-1,137-1外	6,170.5	店舗	36	84	榎田遺跡	1997.11.18	遺構有り	慎重工事
186	—	9 - 2 - 334	博多区上川端町268-1,268-2	248.6	専用住宅	49	121	博多遺跡群	1997.11.06	遺構有り	慎重工事
187	—	9 - 2 - 335	博多区博多駅南３丁目421	601.6	共同住宅	37	127	比恵遺跡群	1997.11.11	遺構なし	開発同意
188	—	9 - 2 - 338	博多区昭南町１丁目45-1	528.8	共同住宅（木造２F）	13	54	雑餉隈遺跡	1997.10.28	遺構有り	慎重工事
189	—	9 - 2 - 343	博多区博多駅南５丁目17-4	2,055.1	社屋増築	37	127	比恵遺跡群	1997.11.18	遺構有り	要本調査
190	—	9 - 2 - 358	博多区祇園町243	256.6	店舗付き住宅	49	121	博多遺跡群	1997.11.18	遺構有り	要本調査
191	—	9 - 2 - 382	博多区吉塚３丁目7	1,027.7	店舗	35	122	堅粕遺跡群	1997.11.26	遺構有り	慎重工事
192	—	9 - 2 - 408	博多区吉塚３丁目380-10	100.8	専用住宅	35	123	吉塚遺跡群	1997.12.19	遺構有り	慎重工事
193	—	9 - 2 - 429	博多区東比恵３丁目	1,253.9	宅地	36	—	包蔵地外	1998.01.22	遺構有り	慎重工事
194	9772	9 - 2 - 438	博多区博多駅南５丁目10-7,10-15	180.0	倉庫増築	37	127	比恵遺跡群	1998.01.27	遺構有り	要本調査
195	—	9 - 2 - 442	博多区榎田２丁目3-37～40	1,637.3	宅地	22	84	榎田遺跡	1998.01.22	遺構有り	慎重工事
196	9769	9 - 2 - 449	博多区博多駅南５丁目12-32	247.5	店舗	37	127	比恵遺跡群	1998.01.22	遺構有り	要本調査
197	—	9 - 2 - 455	博多区博多駅南６丁目25-4,26-1,-2,27-2,28	1,500.0	事務所、工場新築	37	127	比恵遺跡群	1998.01.29	遺構有り	慎重工事
198	—	9 - 2 - 457	博多区大字金隈31-1,33-2	2,994.7	売買	12	2617	持田ヶ浦、持田ヶ浦古墳群	1998.02.05	遺構なし	開発同意
199	—	9 - 2 - 465	博多区須崎４丁目17・18	243.4	新築工事	49	121	博多遺跡群	1998.03.26	遺構なし	慎重工事
200	—	9 - 2 - 466	博多区東比恵３丁目261-1,261-2	773.1	共同住宅	36	84	榎田遺跡	1998.02.05	遺構有り	慎重工事
201	9774	9 - 2 - 493	博多区板付６丁目2-23	198.4	住宅建設	24	95	高畑遺跡	1998.02.12	遺構有り	要本調査
202	9841	9 - 2 - 499	博多区諸岡５丁目20,23,24	1,403.6	共同住宅、宅地	25	103	笹原遺跡	1998.09.14	遺構有り	要本調査
203	9815	9 - 2 - 506	博多区山王２丁目12-12	500.2	事務所、倉庫	37	128	比恵甕棺遺跡	1998.03.17	遺構有り	要本調査
204	—	9 - 2 - 523	博多区東比恵３丁目129-1,130-1	3,394.1	事務所ビル５Ｆ建	36	84	榎田遺跡	1998.03.25	遺構有り	慎重工事

⑦東区

試掘番号	調査番号	受付番号	申請地	申請面積（㎡）	開発目的	遺跡登録番号		遺跡名	試掘調査日	結果	判断
205	9743	9 - 1 - 21	東区土井２丁目	2,900.0	道路新設	8	—	包蔵地外	1997.08.08	遺構有り	要本調査
206	—	9 - 1 - 784	東区香椎字草場	18,000.0	公園整備	17	—	包蔵地外	1998.03.18	なし	慎重工事
207	—	9 - 1 - 803	東区馬出３丁目1-1	21,300.0	学舎建て替え	48	—	包蔵地外	1997.09.12	遺構なし	慎重工事
208	—	9 - 1 - 807	東区土井４丁目	659.0	道路新設	7･8	—	包蔵地外	1997.09.10	遺構なし	慎重工事
209	—	9 - 1 - 835	東区筥松４丁目8	13,785.0	用途未定	33	—	包蔵地外	1997.12.10	遺構なし	開発同意
210	—	9 - 1 - 856	東区西戸崎２丁目92-441	1,183.0	用途未定	69	—	包蔵地外	1998.10.16	遺構なし	開発同意
211	—	9 - 1 -2038	東区三苫３丁目1487-2	912.0	公民館建設	28	—	包蔵地外	1997.11.12	遺構なし	開発同意
212	—	9 - 1 -2050	東区三苫３丁目1465	372.0	施設改築	28	108	三苫遺跡群	1998.01.09	遺構なし	慎重工事
213	—	8 - 2 - 560	東区三苫６丁目1397	567.7	共同住宅	28	108	三苫遺跡群	1997.04.09	遺跡なし	開発同意
214	—	9 - 2 - 22	東区大字志賀島字平1723他２筆、字中道1	3,617.9	更正施設新築	98	365	志賀島、志賀	1997.06.20	遺構なし	慎重工事
215	—	9 - 2 - 35	東区箱崎１丁目2639-2,2639-4の一部	693.1	増築工事	34	2639	箱崎遺跡	1997.06.10	遺構有り	慎重工事
216	—	9 - 2 - 65	東区箱崎３丁目2309	105.8	店舗新築工事	34	2639	箱崎遺跡	1997.07.03	遺構なし	慎重工事
217	—	9 - 2 - 75	東区馬出２丁目621他	365.8	共同住宅	34	2639	箱崎遺跡	1997.06.10	遺構有り	工事立会
218	—	9 - 2 - 143	東区蒲田３丁目735-1	338.9	専用住宅	2	3	蒲田部木原遺跡群	1997.06.26	遺構なし	慎重工事
219	9732	9 - 2 - 171	東区蒲田４丁目376,449～452,453-1	11,186.0	本社ビル	2	3	蒲田部木原遺跡群	1997.07.22	遺構有り	要本調査
220	—	9 - 2 - 189	東区箱崎１丁目2630-1,-2	276.6	事務所	34	2639	箱崎遺跡	1997.08.07	遺構有り	慎重工事
221	—	9 - 2 - 192	東区香椎３丁目1093	2,022.0	売買	17	69	香椎Ａ遺跡	1997.07.31	遺構有り	要本調査
222	—	9 - 2 - 208	東区馬出４丁目45-46	817.2	共同住宅	34	116	元寇防塁隣地	1997.08.07	遺構なし	慎重工事
223	9735	9 - 2 - 209	東区箱崎１丁目2606-3-1	722.8	専用住宅	34	2639	箱崎遺跡	1997.08.04	遺構有り	要本調査
224	—	9 - 2 - 211	東区三苫６丁目1254-1	1,804.0	共同住宅	28	—	包蔵地外	1997.08.28	遺構なし	慎重工事
225	—	9 - 2 - 242	東区和白丘２丁目686-11,-12	643.0	住宅	28	110	塚原遺跡群	1997.08.28	遺構なし	慎重工事
226	9750	9 - 2 - 256	東区馬出５丁目520,521	471.4	売買	34	2639	箱崎遺跡	1997.09.09	遺構有り	要本調査
227	—	9 - 2 - 288	東区箱崎１丁目2940-1	269.1	ビル建築	34	2639	箱崎遺跡	1997.10.16	遺構有り	要協議
228	—	9 - 2 - 302	東区蒲田３丁目768-1外	4,623.7	事務所	2	3	蒲田部木原遺跡群	1997.10.23	遺構有り	慎重工事
229	9802	9 - 2 - 352	東区箱崎１丁目28-15	265.0	共同住宅	34	2639	箱崎遺跡	1998.03.10	遺構有り	要本調査
230	9806	9 - 2 - 364	東区香椎３丁目1335-1外５筆	2,218.0	共同住宅	17	14	香椎B遺跡	1997.11.27	遺構有り	慎重工事
231	—	9 - 2 - 373	東区美和台５丁目634-1の一部他	1,578.9	戸建住宅	27	2746	永浦古墳群Ｂ隣地	1997.11.27	遺構なし	開発同意
232	—	9 - 2 - 417	東区箱崎１丁目2749-1,-2	403.3	学生寮建設	34	2639	箱崎遺跡	1998.03.31	遺構なし	慎重工事
233	—	9 - 2 - 486	東区三苫８丁目105-1外６筆	3,524.0	施設新築	27	109	釘ヶ浦	1998.03.24	遺構なし	慎重工事
234	—	9 - 2 - 518	東区舞松原６丁目60-58の一部	2,239.0	戸建住宅、共同住宅	18	72	多々良大牟田	1998.03.17	遺構なし	慎重工事
235	—	9 - 2 - 535	東区舞松原１丁目60-786外	8,648.5	店舗（３棟）	18	72	多々良大牟田	1998.03.24	遺構なし	慎重工事
236	—	9 - 2 - 553	東区舞松原６丁目60-706	159.8	売買	18	72	多々良大牟田	1998.03.24	遺構なし	慎重工事

Ⅱ　発掘調査の概要

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、西部地域（早良区、城南区、西区）を埋蔵文化財課第一係、東部地区（中央区、博多区、東区、南区）を同第二係が担当している。また、西区元岡一帯にかかる九州大学移転予定地については、別途担当課（大規模事業担当）を置き調査を実施している。

発掘調査にあたっては、「整理収蔵要項」に従い、個々の遺跡に調査番号をつけ、遺構・遺物及び記録類の登録を行っている。調査番号は、西暦年度下２桁と年度中の番号を組み合わせた４桁で表している。１遺跡の調査が複数年にまたがる場合は、開始年度の登録番号のみとなる。なお、複数の遺跡を同一調査事業で調査する場合は、原則として遺跡毎に調査番号を付している。

1）平成９年度の概要

本年度の発掘調査件数は８年度からの継続事業２件、９年度新規事業79件の計81件である。所管課別では、埋蔵文化財課事業では、公共及び民間開発に伴う調査が74件（８年度からの継続事業２件、９年度新規事業72件）、重要遺跡確認調査１件、確認調査２件（圃場整備事業１件、範囲確認１件）である。大規模事業担当課事業では九州大学移転予定地の発掘調査が２件、文化財整備課事業では史跡指定地の現状変更に伴う確認調査が２件（福岡城跡、鴻臚館跡確認調査）である。予算別に内訳をみると、国庫補助事業が23件（国補17件、国補＋民間受託３件、国補＋令達３件）、民間受託事業が31(2)件、公共受託事業が17件、令達事業が９件、市単費事業が１件である。

調査件数は、博多区が最も多く31件、西区16件、早良区15(1)件、城南区２件、中央区２件、東区9(1)件、南区６件である。博多区では博多遺跡群を主として、那珂・比恵遺跡等の周辺での調査が顕著である。東区においては箱崎遺跡の調査事例が増加しつつある（() 内は8年度からの継続事業）。

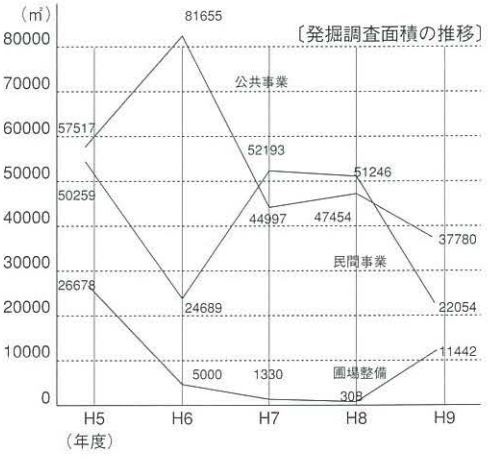
今年度の発掘調査の成果を概観しておきたい。本市の西部に位置する西区大原D遺跡群第５次調査(9729)では、縄文時代草創期の集石遺構、住居跡等を確認した。刺突文や条痕文時とともに多様な石器が出土しており当該期の居住形態を知る上で重要である。福岡空港内の博多区雀居遺跡第12次調査(9715)では、昨年度に引き続き弥生時代の集落跡から家畜小屋と思われる遺構を確認した。これまでの調査で24基を数えており、家畜飼育の開始期を考える上で注意される。博多区那珂遺跡群第62・63次(9711・9724)の調査では、弥生時代の集落構成や古墳時代前期における那珂八幡古墳周辺の墳墓群の在り方を考える上で重要な遺構の発見があった。早良区有田遺跡は早くから早良郡衙が置かれたと推定されていたが、第187・188次調査(9727・9759)では、郡衙域の推定につながる大型建物と柵列及び溝を確認できた。鴻臚館に供給された瓦の生産窯として著名な西区斜ヶ浦瓦窯跡調査(9760)では、窯の構造と規模、及び操業の終末時期が10世紀半ば頃と推定できる成果が得られた。博多遺跡群第104次調査(9766)では、聖福寺境内を画する築地塀と思われる遺構を確認している。一昨年度から実施してきた東区香椎B遺跡(御飯ノ山城跡9677)では、小規模な山城とはいえその全容を明らかにすることができ、中世山城の郭構造の研究にとって大きな成果となった。

発掘調査件数の推移

	H,5	H,6	H,7	H,8	H,9
民　間	36	33	38	45	51(2)
圃場整備	6	1	1	1	2
公　共	30	29	22	31	28

発掘調査面積の推移(新規事業のみによる)

	H,5	H,6	H,7	H,8	H,9
民　間	50,259	24,689	52,193	51,246	22,054
圃場整備	26,678	5,000	1,330	308	11,442
公　共	57,517	81,655	44,997	47,454	37,780
合　計	134,454	111,344	98,520	99,008	71,276



2）平成９年度発掘調査一覧

調査番号	事前審査番号	遺跡名	遺跡略号	調査次数	分布地図遺跡番号 図番	分布地図遺跡番号 番号	調査原因	調査費種別	調査地所在地	開発申請面積㎡	調査対象面積㎡	調査面積㎡	古墳基数	調査期間 調査開始	調査期間 調査終了	担当者
9701	8-2-452	藤崎遺跡群	FUA-28	28	81	307	自宅兼共同住宅	国補	早良区高取2丁目313,314	214.0	214.0	121.3		97.04.02	97.04.18	加藤(隆)
9702	8-2-168	那珂遺跡群	NAK-60	60	37･38	85	専用住宅	国補	博多区東光寺１丁目223	543.1	543.0	158.0		97.04.02	97.06.02	宮井
9703	6-2-112	西山古墳群Ａ群	NSK-A-1	1	94	454	宅地造成	民受	西区大字金武字浦江谷40-3ほか	458,611.0	400.0	400.0	1	97.04.10	97.05.09	菅波
9704	8-2-445	五十川遺跡	GJK-4	4	24	88	共同住宅	民受	南区五十川２丁目1103、110-4、-5	1,823.0	300.0	285.0		97.04.08	97.05.06	長家
9705	8-1-74	大坪南遺跡	OTM-1	1	早17	90	公営住宅建設	公受	早良区内野３丁目316-6	—	560.0	601.0		97.04.07	97.06.07	米倉
9706	—	堅粕遺跡群	KKS-8	8	35	122	道路改良(拡幅)	公受	博多区千代１丁目20地内	—	750.0	542.0		97.04.14	97.05.30	大庭
9707	8-2-509	南八幡遺跡群	MHM-8	8	13	51	自宅兼共同住宅	国補	博多区元町１丁目11,8-4,8-5	256.4	250.0	240.5		97.04.10	97.04.28	力武
9708	8-1-614	今宿遺跡群	IMJ-5	5	112	621	鉄道建設	公受	西区今宿東３丁目地内	28,137.0	28,137.0	397.0		97.04.07	97.06.09	池田,久住
9709	9-2-27	那珂遺跡群	NAK-61	61	37	85	共同住宅	民受	博多区那珂２丁目388-1	1,652.7	20.0	20.0		97.04.14	97.04.14	屋山,大塚
9710	9-2-11	周船寺遺跡群	SSJ-9	9	131	689	共同住宅	国補	西区大字飯氏字下カリ町988-1他	5,273.0	328.0	328.7		97.04.23	97.04.29	大塚
9711	9-2-16	那珂遺跡群	NAK-62	62	37･38	85	宅地造成	民受	博多区那珂１丁目838-1,839-1	1,076.0	1,076.0	10,05.0		97.05.06	97.07.18	長家
9712	8-2-530	箱崎遺跡	HKZ-11	11	34	2639	病院建設	民受	東区箱崎３丁目3266-1・3264-3	745.0	745.0	385.0		97.04.30	97.06.27	榎本
9713	8-2-486	那珂君休遺跡	NKR-8	8	24	86	共同住宅	民受	博多区那珂４丁目312	1,009.0	1,009.0	259.0		97.05.06	97.06.18	本田
9714	7-2-525	東那珂遺跡	HGN-3	3	23	2635	専用住宅	国補	博多区東那珂１丁目19-28の一部	530.1	513.0	114.7		97.05.06	97.05.22	井上
9715	—	雀居遺跡	SAS-12	12	23	2633	空港整備	公受	博多区雀居地内	6,500.0	5,800.0	5,800.0		97.04.18	98.03.25	力武
9716	8-2-469	吉塚遺跡群	YSZ-6	6	36	123	共同住宅	民受	博多区堅粕５丁目429-1外	705.3	600.0	358.0		97.05.26	97.07.11	佐藤
9717	9-2-17	有田遺跡群	ART-185	185	82	309	専用住宅	国補	早良区小田部１丁目126	383.7	200.0	120.0		97.05.26	97.06.09	荒牧
9718	—	峯遺跡群	MIN-2	2	早17	802	圃場整備	令達･国補	早良区大字西字峯地内	18,000.0	18,000.0	10,129.0		97.05.26	97.11.04	加藤(隆),大塚
9719	8-2-522	藤崎遺跡	FUA-29	29	81	307	共同住宅	国補･民受	早良区藤崎１丁目2-7	360.3	360.3	220.0		97.06.09	97.07.04	星野
9720	8-2-524	比恵遺跡群	HIE-62	62	37	127	社屋建設	民受	博多区博多駅南６丁目25-1	555.0	555.0	370.0		97.06.09	97.09.03	宮井
9721	9-2-443	有田遺跡群	ART-186	186	82	309	専用兼共同住宅	民受･国補	早良区小田部３丁目285,286	1,715.9	300.0	252.0		97.06.07	97.07.04	米倉
9722	9-1-26	東入部遺跡群	HGI-12	12	85	343	道路改良	令達	早良区大字東入部1450-1	—	30.0	30.0		97.06.05	97.06.07	米倉
9723	9-1-78	吉塚祝町遺跡	YZI-1	1	35	2779	道路改良	令達	博多区吉塚２丁目地内	—	382.1	382.1		97.06.03	97.10.31	大庭
9724	9-2-82	那珂遺跡群	NAK-63	63	37	85	共同住宅	民受	博多区那珂１丁目792-1	773.0	225.0	214.0		97.06.30	97.07.31	榎本
9725	9-2-161	桑原綿田古墳群	KHN-2	2	139	2781	農地改良	国補	西区大字桑原字錦田1637	254.0	254.0	180.0	1	97.07.07	97.07.24	荒牧
9726	9-1-	東比恵三丁目遺跡	HGH-1	1	36	2776	公営住宅	公受	博多区東比恵３丁目293-1	11,414.0	11,414.0	11,414.0		97.07.01	98.10.03	本田
9727	9-2-153	有田遺跡群	ART-187	187	82	309	専用住宅	国補	早良区有田２丁目12-5	568.0	500.0	494.0		97.07.14	97.09.05	米倉
9728	9-2-137	田村遺跡群	TMR-19	19	84	317	共同住宅	民受	早良区田村３丁目761-1	1,070.0	300.0	315.0		97.07.24	97.08.08	星野
9729	—	大原Ｄ遺跡群	OBD-5	5	128	2590	埋立処分場建設	公受	西区大字今津地内	—	3,300.0	3,223.5		97.07.16	98.03.31	池田,菅波
9730	8-2-443	立花寺Ｂ遺跡群	RGB-4	4	24	2626	ポンプ場建設	公受	博多区大字上月隈地内	964.1	198.0	198.0		97.07.14	97.08.02	井上
9731	4-1-702	大井遺跡	OOI-1	1	21	2631	再開発	公受	博多区大井２丁目４地内	5,000.0	1,780.0	1,773.4		97.07.24	97.10.27	長家,井上

調査番号	事前審査番号	遺跡名	遺跡略号	調査次数	分布地図遺跡番号 図番	番号	調査原因	調査費種別	調査地所在地	開発申請面積㎡	調査対象面積㎡	調査面積㎡	古墳基数	調査期間 調査開始	調査終了	担当者
9732	9-2-171	蒲田部木原遺跡群	KHH-6	6	2	3	倉庫建設	民受	東区蒲田４丁目376,449,450,451,452	11,186.0	1,000.0	1,450.0		97.08.06	97.09.22	長家
9733	8-2-214	橋本一丁田遺跡	HTI-3	3	91	390	ガススタンド	民受	西区橋本１丁目25-3,25-4,26-7,26-	1,990.3	800.0	833.0		97.08.08	97.10.04	荒牧
9734	8-1-614	生ノ松原遺跡	IKM-1	1	103	506	線路拡張	公受	西区生ノ松原１丁目32･33地内	4,100.0	4,100.0	1,100.0		97.07.22	97.11.05	池田,久住
9735	9-2-209	箱崎遺跡	HKZ-12	12	34	2639	専用住宅	国補	東区箱崎１丁目2608-1,-3	722.3	310.0	155.0		97.08.19	97.09.22	榎本
9736	—	福岡城跡	FUE-39	39	60	192	確認調査	市単費	中央区城内1-1	—	450.0	450.0		97.08.15	97.11.30	田中
9737	9-2-111	野多目Ａ遺跡群	NMA-6	6	29	141	共同住宅	民受	南区和田１丁目512-1外	1,582.7	980.0	980.0		97.08.26	97.10.22	佐藤
9738	8-2-473	下和白後口古墳群	SWU-1	1	14	2774	共同住宅	民受･国補	東区和白丘１丁目187-1	5,349.0	650.0	650.0	2	97.08.25	97.09.10	池田,米倉
9739	9-2-164	比恵遺跡群	HIE-63	63	37	127	共同住宅	民受	博多区博多駅南６丁目17-5	303.2	230.0	174.5		97.09.06	98.10.03	宮井
9740	2-2-231	香椎B遺跡群・大日古墳群	KSB-4･DAN-1	4･1	6･17	14 2783	宅地造成	民受	東区香椎寺熊1519,大日地内	216,785.0	1,516.0	1,516.0	2	97.09.04	98.03.31	滝本,田上
9741	—	那珂遺跡群	NAK-64	64	37	85	工場建設	民受	博多区竹下３丁目1-13	—	—	6,700.0		97.09.22	98.08.31	長家
9742	—	梅林遺跡	UBY-1	1	74	2775	道路･地下鉄建	公受	城南区梅林2丁目467-1地内	—	2,250.0	2,150.0		97.10.14	97.03.12	井澤
9743	9-1-21	烏田遺跡	KRS-1	1	8	2777	道路建設	令達	東区土井2丁目地内	2,900.0	200.0	162.0		97.09.24	99.09.25	大庭
9744	—	羽根戸南古墳群Ｅ群･Ｇ群	HMK-E･F		106	576 577	配水池建設	公受	西区羽根戸字龍ノ下486番地他	35,500.0	800.0	800.0	4	97.10.17	97.03.31	米倉,星野
9745	9-2-239	井尻Ｂ遺跡群	IZB-9	9	25	90	共同住宅建	国補	南区井尻５丁目6-33	188.4	188.4	132.5		97.10.06	97.10.15	宮井
9746	9-2-1	女原遺跡群	MBR-5	5	120	688	宅地造成	民受	西区女原字ムロ279-1	3,880.0	250.0	250.0		97.10.07	97.10.27	荒牧
9747	9-2-92	西新町遺跡	NSJ-11	11	71	240	店舗付専用住宅	国補	早良区西新町５丁目632-6	109.1	109.1	52.0		97.10.13	97.10.15	加藤良彦
9748	9-2-247	田村遺跡群	TMR-20	20	83	317	共同住宅建	民受	早良区田村４丁目673-1	907.6	907.6	377.0		97.10.20	97.11.14	加藤良彦
9749	—	桧原遺跡群	HBR-4	4	64･65	215	公園建設	令達	南区桧原地内	—	200.0	200.0		97.10.01	97.10.27	榎本
9750	9-2-256	箱崎遺跡	HKZ-13	13	34	2639	共同住宅	民受	東区馬出５丁目520,521	471.4	297.0	297.0		97.10.27	97.12.02	佐藤
9751	—	福岡城跡	FUE-40	40	60	193	確認調査	令達	中央区城内1-5	—	180.0	180.0		97.08.18	97.09.10	田中
9752	—	博多遺跡群	HKT-102	102	48･49	121	道路建設	公受	博多区上呉服町3	—	212.5	212.5		97.11.11	98.02.20	大庭,本田
9753	9-2-214	高畑遺跡	TKB-15	15	24	95	共同住宅	民受	博多区板付６丁目9-13,10の一部	1,172.0	371.0	254.5		97.11.18	98.01.10	井上
9754	9-2-114	博多遺跡群	HKT-103	103	49	121	駐車場建設	民受	博多区冷泉町２番	1,314.8	1,314.8	72.0		97.12.08	97.02.28	佐藤
9755	—	水町古墳	MIM-1	1	10	2624	空港整備	公受	博多区大字下月隈902地内	—	190	190.0	1	97.12.08	98.03.06	榎本
9756	—	下月隈鳥越遺跡	STO-1	1	10	2778	空港整備	公受	博多区大字下月隈891地内	—	2,000.0	350.0		97.12.08	98.03.06	榎本
9757	9-2-293	五十川遺跡群	GJK-5	5	24	88	共同住宅	国補	南区五十川２丁目553	854.0	96.0	96.0		97.12.04	97.12.11	宮井
9758	9-2-389	井尻Ｂ遺跡群	IZB-10	10	25	90	専用住宅	国補	南区井尻１丁目711-2	448.5	153.0	153.0		97.12.17	98.01.24	宮井
9759	9-2-353	有田遺跡群	ART-188	188	82	309	共同住宅	民受	早良区有田１丁目31－6	403.7	242.0	249.0		97.12.15	97.12.24	加藤(隆)
9760	—	斜ヶ浦瓦窯,斜ヶ浦製鉄遺跡	NNG-4	4	103	515	公園建設	令達･国補	西区生ノ松原４丁目-1760	—	90.0	90.0		97.12.18	98.03.25	加藤(良)
9761	9-2-310	藤崎遺跡	FUA-30	30	81	307	店舗	民受	早良区高取２丁目159	378.6	65.2	65.2		98.01.06	98.01.17	大塚
9762	—	田島小松浦遺跡	TKU-1	1	72･73	2748	道路建設	令達	城南区田島2丁目･別府2丁目	—	695.0	695.0		98.01.13	98.03.31	加藤(隆)

調査番号	事前審査番号	遺跡名	遺跡略号	調査次数	分布地図遺跡番号		調査原因	調査費種別	調査地所在地	開発申請面積㎡	調査対象面積㎡	調査面積㎡	古墳基数	調査期間		担当者
					図番	番号								調査開始	調査終了	
9763	—	元岡遺跡群	MOT-3	3	129	2782	土地造成	公受	西区元岡1825-1	—	3,500.0	3,500.0		97.11.13	調査中	菅波
9764	—	元岡遺跡群	MOT-4	4	129	2782	土地造成	公受	西区桑原1825-1	—	1,219.0	1,219.0		97.12.01	98.03.31	池崎
9765	—	周船寺遺跡群	SSJ-10	10	132	689	鉄道線路拡幅	公受	西区飯氏・千里地内	—	290.0	290.0		97.12.22	97.02.27	久住
9766	—	博多遺跡群	HKT-104	104	48・49	121	公営住宅	令達	博多区上呉服町124	—	188.0	188.0		98.01.08	98.03.16	大庭・本田
9767	9-2-249	博多遺跡群	HKT-105	105	49	121	事務所ビル	民受	博多区冷泉町4ー20	706.4	221.0	221.0		98.01.23	98.04.30	宮井
9768	8-2-487	周船寺遺跡群	SSJ-11	11	132	689	協同住宅	民受	西区大字千里字ミドリ489-1,439-5,4	2,364.0	904.0	812.7		98.02.03	98.04.24	大塚
9769	9-2-449	比恵遺跡群	HIE-64	64	37	127	店舗建設	国補	博多区博多駅南５丁目12-32	247.5	161.0	143.7		98.02.04	97.02.10	長家・井上
9770	9-2-456	那珂遺跡群	NAK	65	38	85	事務所	民受	博多区竹下５丁目59-3	147.9	147.9	95.0		98.02.12	98.02.18	松村・屋山
9771	9-2-337	元岡古墳群	MOK-D	1	130	744	確認調査	国補	西区大字元岡字下の谷	720.0	60.0	60.0	1	97.11.10	97.11.28	松浦
9772	9-2-438	比恵遺跡群	HIE-65	65	37	127	倉庫建設	民受	博多区博多駅南５丁目10-7・10-15	180.0	97.9	97.9		98.02.16	98.03.02	長家・井上
9773	—	内野遺跡群	UCN-2	2	早良17	803	圃場整備試掘調査	令達・国補	早良区大字西地区内	—	1,313.0	1,313.0		97.11.17	98.12.16	大塚
9774	9-2-493	高畑遺跡	TKB-16	16	24	95	専用住宅	国補	博多区板付６丁目2-23	198.0	198.0	70.0		98.03.09	98.03.31	榎本
9775	9-1-45	堅粕遺跡群	KKS-9	9	35	122	市営住宅	令達	博多区吉塚１丁目8	3,893.0	2,000.0	1,973.0		98.03.12	98.07.17	井上
9776	—	飯氏古墳群B群14号墳	IIK-B-14	2	121	699	重要遺跡確認調査	国補	西区大字飯氏正善寺12	—	42.0	42.0	1	98.03.06	98.03.31	久住・加藤(良)
9777	9-2-114	博多遺跡群	HKT-106	106	49	121	共同住宅	民受	博多区御供所町5-20	355.0	355.0	48.0		98.03.13	98.03.26	佐藤
9778	—	博多遺跡群	HKT-107	107	48・49	121	道路建設	令達	博多区上呉服町3	—	120.0	120.0		98.03.18	98.05.29	大庭
9779	—	香椎B遺跡群	KSB-5	5	6・17	14	宅地造成	民受	東区大字香椎字生水地内	—	167.0	167.0		98.01.19	98.04.15	滝本,田上

注　図中の番号01～79は9701～9779の略である。各番号に該当する遺跡の調査所見は次ページ以降の概要または本報告を参照されたい。

平成９年度発掘調査地点位置図

9701 藤崎遺跡群第28次調査（FUA-28）

所 在 地　早良区高取2丁目313・314
調査原因　共同住宅建設
調査期間　1997.4.02～4.18
調査面積　121.3㎡
担 当 者　加藤隆也
処　　置　記録保存

位置・環境　藤崎遺跡は、福岡市早良区藤崎、高取、百道に所在する東西400ｍ、南北650ｍの弥生時代から中世を中心とする複合遺跡である。今回の調査地点は、博多湾内海流の左回転流によってできた砂州の南側後背斜面に立地している。

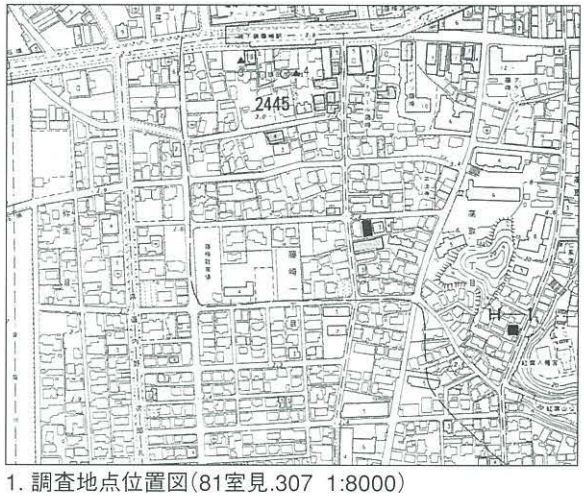
検出遺構　調査地の層序は第１層(表土、客土)、第２層(暗黄褐色砂層－遺物包含層)、第３層(明褐～黄褐色砂層－遺構検出面)、第４層(青灰褐色砂層)である。遺構は井戸２基、区画溝、建物等を確認した。

井戸の掘方は直径約３ｍの円形を成し、井筒は桶組で、掘方のほぼ中央に位置する。溝は南側隣接地の第23次調査地点から続くものが調査地内において東方向に向きを変える。この溝は遺跡内にみられる屋敷の区画溝と思われる。建物の規模は不明であるが、溝の方向に沿うように柱穴が確認されている。

出土遺物　遺物はコンテナ６箱分が出土しており、土師器・須恵器・白磁・青磁・石器・鉄器等がある。

まとめ　今回の調査では、12世紀後半から13世紀初頭の屋敷跡を調査した。溝により区画された屋敷の内側に建物、井戸、第23次調査でみられる屋敷内墓など、当時の屋敷内の景観を復元する上で大きな成果を得た。また、最下層の青灰褐色砂層からは６世紀後半の遺物が出土しており、古墳時代には、この地はまだ後背湿地となっており、安定した陸地化は砂州上に比べ相当遅れるものと思われる。

報告書は1999年刊行予定である。



1. 調査地点位置図(81室見.307 1:8000)

2．調査区北側全景(南から)

3．調査区南側全景(南から)

9702 那珂遺跡群第60次調査(NAK-60)

調査地点 博多区東光寺１丁目223　　**調査面積** 158㎡
調査原因 個人専用住宅建設　　**担当者** 宮井善朗
調査期間 1997.4.2～6.2　　**処置** 記録保存

位置・環境　調査区は那珂遺跡群の北東端に当たる。周辺での調査例は少ない。比恵遺跡群との境界を画する鞍部に近い位置に立地する。遺構検出面は赤褐色の鳥栖ローム層で、検出面から50～100㎝で八女粘土層に達する。

検出遺構　今回の調査では、奈良時代と中世の大きく２時期に分かれる遺構を検出した。中世の遺構には、井戸、溝、土壙等がある。井戸は３基検出。完掘した２基は大きさ、形態ともほぼ類似している。井筒があったものと思われるが残っていない。溝は４条検出した。北西－南東方向のもの２条。ほぼ平行する溝であるが、時期は異なるようである。深さ約１ｍの断面「Ｖ」字形の溝である。北東－南西方向のもの１条。北半分しか検出していないが、前記の２条よりやや浅いか。その他、幅広で、極めて浅い溝が１条ある。土壙は、後述する古代の落ちこみに掘り込まれた、不定形の浅い土壙が比較的規模が大きいが、その他は浅く、性格はよくわからない。

奈良時代の遺構には、大規模な落ちこみが１基、溝、掘立柱建物等がある。落ちこみは、調査区のほぼ南半分に及ぶ。深さは深いところで１ｍ以上、浅いところで30～40㎝ほどである。東側では深く、肩部の傾斜も強いが、西側では浅く、肩も不明確である。人工の溝か、自然の谷かよくわからない。底面近くでは、やや古い７世紀代の遺物も包含している。溝は幅が狭く、深いものが１条、浅い溝が２条ある。深い溝は落ちこみに取り付くものと思われる。掘立柱建物は２間×２間以上のものを１棟検出している。柱穴は大型で深い。

出土遺物　遺物はコンテナ34箱分出土している。

1．調査地点位置図(37東光寺.85 1:8000)

2．調査東区全景(北から)

3．掘立柱建物(南から)

9703 西山古墳群A群1号墳第1次調査（NSK-A-1）

所　在　地　西区大字西入部・金武地内
調査面積　400㎡・古墳1基
調査原因　宅地造成
担　当　者　菅波正人
調査期間　1997.4.10～5.9
処　　置　記録保存

位置・環境　調査地点は室見川左岸に位置し、西山から派生する丘陵上に立地する。古墳は標高約80～85ｍの丘陵南側斜面に占地する。多数の後期群集墳が存在する金武地区とは異なり、当該地区では1～2基程度のまとまりで点在するのみで、大規模な群集墳は形成していない。本古墳群も現在確認されているのは1基である。

検出遺構　本墳は主体部に横穴式石室をもつ、径約10ｍの円墳である。石室は盗掘と檜の植林のため、破壊を受けており、天井石、奥壁は抜き取られている。墳丘は南向き斜面に築造され、見かけの高さは約3ｍを測る。墳丘の前面には土留めのための外護列石が巡る。石室は単室両袖型の横穴式石室で全長約4.0ｍを測る。玄室は奥壁の大半が抜き取られているが、平面形は長さ約1.3ｍ、幅約2.4ｍの長方形を呈する。羨道は拳大から人頭大の転石で閉塞される。

検出遺構　遺物は盗掘を受けた玄室からはほとんど出土しなかった。羨道及び墓道から、供献されたと考えられる鉄滓が多量に出土した（ビニール袋1袋分）。また、羨道西側の墳丘斜面で完形の甕が2個体据えられた状態で出土した。古墳の築造時期は、出土遺物から6世紀末～7世紀に位置づけられると考える。

まとめ　今回の調査では6世紀末から7世紀の円墳を1基検出した。本墳は遺存状況は極めて悪いが、いくつかの特徴が挙げられる。第1は、墳丘に外護列石を持つという点である。本墳の場合、石室の開口部側の斜面に外護列石を施し、土留めと視覚的効果を図っていると考えられる。第2には、羨道及び墓道に供献された多量の鉄滓である。金武周辺の当該期の古墳は鉄滓を供献した例は多く、製鉄工人集団との関連を含めて注目される。

1．調査地点位置図(94金武.454 1:8000)

2．墳丘遺存状況(南から)

3．墳丘遺存状況(北から)

9704 五十川遺跡群第４次調査（GJK-4）

所　在　地　南区五十川２丁目1103番４他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　1997.4.8～5.6
調査面積　285㎡
担　当　者　長家　伸
処　　置　記録保存・一部盛土保存

位置・環境　五十川遺跡群は福岡平野を北流する那珂川と御笠川に挟まれた洪積台地上に立地する。対象地の一部については前年度に調査を行っている（第３次調査）。今回は事業主体の計画変更に伴う追加調査である。なお駐車場部分については盛土による保存を行い、調査対象から外している。

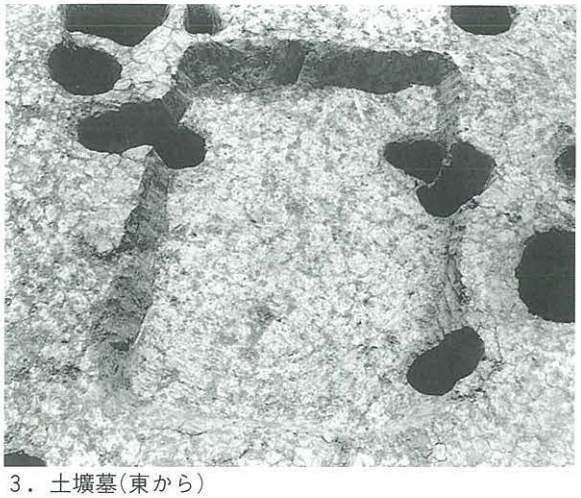
検出遺構　遺構面は表土直下の鳥栖ローム層上面で標高約9.8ｍ～9.2ｍである。検出遺構は古墳時代の井戸、中世の掘立柱建物・竪穴・土壙・溝・ピットである。

出土遺構　出土遺物は、土師器、陶磁器、瓦、鉄器等で総量でコンテナ９箱分が出土している。

まとめ　今回の調査地点では、中世（14・15世紀）の溝とこれに囲まれたピット等の遺構群を主体として検出された。これらは当該期の居館を構成するものと考えられる。ピット等の遺存状態は良好で密度も濃くなっている。これに対し、古墳時代の遺構は掘削深度の深い井戸しか検出できていない。中世の遺構中からも一定量の土師器・須恵器が出土していることから、古墳時代の集落が形成されていたことが想定できる。これらの遺構群は居館形成時の整地等により欠失したものと考えられる。この証として隣接する第３次調査区では弥生時代中期～11世紀までの遺構が少数ながら検出されている。報告書は1998年３月（1997年度）に刊行済みである。

１．調査地点位置図(24板付.88　1:8000)

２．調査区全景(東から)


３．土壙墓(東から)

9705　大坪南遺跡第１次調査（OTM-1）

所　在　地　早良区内野３丁目316-6
調査原因　市営住宅建設
調査期間　1997.4.7～6.7
調査面積　601㎡
担　当　者　米倉秀紀
処　　置　記録保存

位置・環境　調査地は室見川上流域右岸の扇状地上に位置する。早良平野の最奥部に当たる。すぐ西側の大坪遺跡第１次調査では、縄文時代と奈良時代の包含層が発見されている。

検出遺構　包含層が３層検出され、上２層は奈良時代、下の１層は縄文時代前期であるが、縄文時代の包含層はごく一部のみで検出した。また、中層上面で奈良時代の遺構を検出した。検出した遺構はすべて土壙ばかりで、大きさや形態は様々である。また、これ以外に掘り込みを伴わないものの、坏の蓋と蓋、蓋と身、身と身がセットになったものが６セット発見された。上・中層の２枚の包含層はいずれも奈良時代中頃で、須恵器・土師器とともに多くの鉄滓が出土した。またこの層から縄文時代後期・晩期の遺物が若干出土した。下層包含層からは縄文時代前期の曽畑式土器が出土した。

出土遺物　本調査では、コンテナ50箱の遺物が出土した。そのほとんどは奈良時代の包含層から出土した須恵器・土師器・鉄滓である。縄文時代の遺物は全部でコンテナ１箱に満たない。曽畑式土器の他、縄文時代後期～晩期の土器片と石鏃・石匙等が出土した。

まとめ　当該地区における埋蔵文化財の調査は、大坪遺跡第１次調査に次いで２例目である。当該地で検出した遺構・遺物は遺跡の外縁部の状況を示しており、遺跡の主体部はさらに南側に広がるものと推定できる。出土した遺物には、多くの鉄滓・ふいごの羽口・坩堝が含まれており、近くに製鉄関連の遺構が存在するものと考えられる。また、大坪遺跡と合わせて、近隣に縄文時代早期・前期の生活跡の存在も予測できる。

報告書は1998年度刊行の予定である。

1．調査地点位置図（早良17内野.2790　1:8000）

2．調査区全景（東から）

3．須恵器坏の蓋と蓋のセット

9706 堅粕遺跡群第８次調査（KKS-8）

所　在　地　博多区千代１丁目20地内
調査原因　都市計画道路千代粕屋線拡幅
調査期間　1997.4.7～5.30
調査面積　542.04㎡
担　当　者　大庭康時
処　　置　記録保存

位置・環境　本調査地点は、博多湾岸に形成された砂丘上に立地する。中世の都市遺跡として著名な博多遺跡群とは、石堂川を隔てて隣接する。福岡県教育委員会が発掘調査を実施した第７次調査地点は、本調査地点のすぐ北側に接し、前面の国道を隔てて南側には、古墳時代前期の方形周溝墓を検出した第３次調査地点がある。

検出遺構　既存の建物による撹乱が激しく、調査地点の過半はすでに破壊されていた。検出した遺構は、土壙・溝・柱穴などである。時期が明らかな遺構のほとんどは、古墳時代前期に属する。

出土遺物　出土遺物は、弥生土器・古式土師器・須恵器・近現代の陶磁器などコンテナ41箱、管玉・平玉などの玉類が標本箱１箱分出土している。

ま　と　め　今回の調査では、撹乱が著しく、また調査区が狭長なこともあって、遺構の内容を検討するに十分な結果は得られなかった。

なお、砂丘砂上には、厚く包含層が堆積していた。この包含層は肌理の細かい砂で、特に遺構はみられないが、古式土師器を主に多量の土器片が含まれていた。また、この包含層中から、土師器小型壺・高坏をともなって、管玉・平玉・勾玉が出土した。管玉162個、平玉472個、勾玉１個を数える。また、高坏から若干離れて剣型石製模造品も出土している。明瞭な掘方を持たず、遺構としては捉えがたかったが、古墳時代前期頃の地面上で何らかの祭祀が行なわれたものと推測できる。

この他、東海系Ｓ字状口縁台付甕や瀬戸内系甕の口縁部破片が出土しており、今後注意する必要があろう。

1998年度報告書刊行予定。

１．調査地点位置図(35吉塚.122　1:8000)

２．調査区全景(西から)

３．土師器甕内玉出土状況(北から)

9707 南八幡遺跡群第8次調査（MHM-8）

所　在　地　博多区元町１丁目3－14
調査原因　自宅兼共同住宅建設
調査期間　1997.４.10～４.28
調査面積　240.5㎡
担　当　者　力武卓治
処　　置　記録保存

位置・環境　本遺跡は、御笠川の左岸に残る低丘陵に位置している。付近には「奴国」の王墓と推定されている須玖岡本遺跡をはじめとして、弥生時代から古墳時代にかけての有名な遺跡が点在し、奴国の中心的な地域と考えられている。南八幡遺跡群としては、これまで７回の発掘調査が実施されて、歴史的な変遷を具体的にたどれるようになりつつある。特に道路を挟んで北側の駐輪場と公園の発掘調査（トヲナシ遺跡）では、古墳時代から奈良時代にかけての竪穴住居跡と掘立柱建物跡で構成された集落が発見されている。この集落は、今回の調査対象地のある南側まで広がっていることが予想された。

検出遺構　調査区内に排土置場を確保する必要から３区画に分け、表土剥ぎと埋め戻しを繰り返しながら発掘作業を行った。発掘区の全体にわたって現代の破壊を受けているが、地山面で掘立柱建物跡１棟、井戸１基、土壙５基、溝２条、柱穴などの遺構を検出できた。井戸の平面形は、直径2.6ｍの円形で、安全対策上底部までは掘り下げなかったので、井戸枠を確認するには至らなかった。また他の遺構も発掘外にのびており、その全形を知ることが出来ない。

まとめ　コンテナ10箱分の土師器、須恵器が出土した。ほとんどが細かな破片となっているが、井戸や溝から発見された円面硯や布目瓦は、郡衙や寺院などの公共的な施設の存在も推測する必要があり、本遺跡群の性格を考える上で重要な遺物である。

報告書は1998年度に刊行予定である。

1．調査地点位置図(13雑餉隈.51　1:8000)

2．Ⅰ区の発掘作業

3．Ⅲ区の遺構(西から)

9708 今宿遺跡群第５次調査（IMJ-5）

所　在　地　西区今宿東３丁目地内
調査原因　鉄道路線拡幅工事
調査期間　1997.４.14～６.９
調査面積　397㎡
担　当　者　池田祐司・久住猛雄
処　　置　記録保存

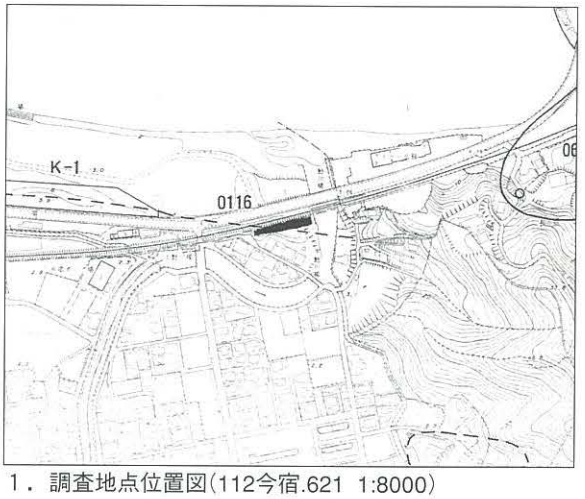
位置・環境　調査地点は長垂山塊から西に派生する砂丘上に位置する。現状は高まりになっており標高５ｍを測る。

検出遺構　砂丘の残りが良い調査区中央部では、上下２面の遺構面を確認し、上面では古墳時代の住居と製塩遺構、下面では弥生時代の埋葬遺構を検出した。攪乱の多い東西両側では下面のみを確認した。上面では少なくとも３軒の竪穴住居跡と12基の土壙を確認した。下面では弥生時代前期から中期の甕棺墓13基と木棺もしくは土壙墓21基を確認した。前期の甕棺は壺棺で４基がほぼ完形で出土した。前期末の甕棺３基のうち２基は倒置棺である。中期の甕棺６基は残りが悪い。このうち１基は小型の３連棺である。

出土遺物　上面では古墳時代初頭の土器を中心とした遺物が多数出土した。その中には、陶質土器、手焙形土器等の遺物も含まれる。製塩遺構からは、焼けた砂中より破砕された製塩土器片が多数出土した。また、未使用の製塩土器が完形で出土している。下面の木棺墓のうち３基には小壺が副葬されており、そのうち１個には彩文が施されている。副葬品は棺中にはなかったが、攪乱より石剣、碧玉製管玉等が出土しており副葬品と考えられる。コンテナで44箱分出土。

まとめ　当初考えられていた元寇防塁は痕跡すら確認できなかった。さらに海側に位置すると考えられる。今回は弥生時代及び古墳時代の遺跡の広がりを確認し、外来系遺物等の砂丘遺跡におけるの特異性を考える上で重要な遺物も出土した。また、古墳時代の製塩遺構は市内でも例が少ないが、新たに確認できたことは今回の調査成果の一つにあげられる。

報告書は1999年度刊行予定である。



１．調査地点位置図(112今宿.621　1:8000)

２．古墳時代住居跡(西から)

３．甕棺出土状況(東から)

9711 那珂遺跡群第62次調査（NAK-62）

所　在　地　博多区那珂１丁目838-1他
調査原因　事業所建設
調査期間　1997.5.6～7.18
調査面積　1,005㎡
担　当　者　長家　伸
処　　置　記録保存

位置・環境　那珂遺跡群は福岡平野を北流する那珂川と御笠川に挟まれた洪積台地上に立地する。本調査地点は都市計画道路竹下駅前線に面し、第30次調査地点に隣接する。また道路を挟んで北側には古式の前方後円墳である那珂八幡古墳が存在する。

検出遺構　遺構面は表土直下の鳥栖ローム上面で標高約９ｍを測る。対象地は旧状が畑であり、遺構面は比較的削平・攪乱が少なく残存状態は良好であった。検出遺構は古墳時代前期の方形周溝状遺構２基・溝２条、古墳時代後期の竪穴住居跡20棟以上・土壙、古代の溝１条・土壙、その他ピット等である。方形周溝状遺構は１基をほぼ完掘している。溝幅は４ｍ強、深さ１ｍ～1.2ｍを測る。方形区画の南側が開口し、区画内法は13ｍ×15ｍである。内側には遺構がほとんどなく、後世まで一定量の盛土が存在していたと考えられる。また中央の主体部は失われていた。またこの周溝に接してほぼ同時期の２条の溝が並走している。芯間で６ｍを測り、道路状遺構の可能性も考えられる。また方形周溝状遺構が埋没した古墳時代後期には生活空間として利用されており、竪穴住居跡が濃密に分布している。古代・中世には溝が掘削されているが遺構の密度はそれほど濃くない。

出土遺物　遺物は土師器、須恵器を主体としてコンテナ68箱分が出土している。この他、古代の溝から一定量の瓦が出土している。隣接する第32次調査においても出土しており注目される。

まとめ　今回の調査では古墳時代前期の方形周溝状遺構をほぼ完掘した。同様の遺構が対象地周辺でも検出されており注目される。報告書は1999年度刊行予定。

1．調査地点位置図(37東光寺,38塩原.85　1:8000)

2．調査区東半部全景(西から)

3．調査区西半部全景(南から)

9712 箱崎遺跡第11次調査（HKZ-11）

所　在　地　東区箱崎３丁目3266-１ 他
調査原因　病院建設
調査期間　1997.４.30～６.27
調査面積　385㎡
担　当　者　榎本義嗣
処　　置　記録保存

位置・環境　箱崎遺跡は、博多湾岸に形成された南北方向の古砂丘上に立地する。本調査区は遺跡群の北西端に位置し、遺構面である黄褐色砂層は西側に緩く傾斜する。その標高は2.2～2.6ｍを測る。なお、西端部では砂層緩斜面上に13世紀代の包含層が形成されており、この上面においても遺構が確認できたため、２面の調査を実施した。

検出遺構　12世紀後半から14世紀の井戸、土壙、ピットを検出した。井戸のうち、井筒が確認できたものは、幅10㎝前後の板材を組んだ径60～70㎝の木桶を底面に据えている。このうち、１基の井筒から完形の龍泉窯系青磁小椀１点、鉄製短刀２口、管状土錘が出土した。井戸祭祀に関わる一括遺物と考えられる。土壙には、２ｍ四方の平面形で、壁際に板材を木杭で留める構造を有する貯蔵施設と考えられるものが１基確認された。タコ壺、青白磁椀、白磁皿等が出土している。

出土遺物　遺物はコンテナ数にして30箱が出土している。土師器小皿･坏、須恵質甕、国産陶器（常滑焼）、瓦質土器、輸入陶磁器、滑石製品、鉄製品等がある。また、タコ壺、土錘等の漁労具も目立つ。

まとめ　今回の調査では、中世前半期の集落を確認することができた。調査前は砂丘北西縁辺部の集落端部に該当するものと考えていたが、遺構の分布や前述した包含層の延長も看取されることから更に西側に集落は拡大するものと考えられる。なお、本調査区と砂丘尾根線を挟んで東側緩斜面に位置する第10次調査区で検出された古墳時代前期の遺構･遺物は今回確認できなかった。砂丘上での立地に起因するものと考えられる。

調査報告書は1998年度に刊行の予定である。

1．調査地点位置図(34箱崎.2639 1:8000)

2．調査区西半部全景(西から)

3．２号井戸(南から)

9713 那珂君休遺跡群第８次調査（NKR-8）

所　在　地　博多区那珂４丁目312　　調査面積　259㎡
調査原因　共同住宅建設　　担　当　者　本田浩二郎
調査期間　1997.5.6～6.18　　処　　置　記録保存

位置・環境　那珂君休遺跡群は、御笠川と諸岡川に挟まれた沖積地の低位面に位置し、標高は７ｍ前後を測る。８次調査地点は御笠川の左岸に隣接し、少なからずその影響を受ける地点にあたる。

検出遺構　８次調査地点は５次・６次調査地点に隣接していたことから、その成果を参考に重機による掘削を行い、現地表面から1.5～2.0ｍ程掘り下げた暗褐色粘質土層を水田遺構面として検出を行った。その結果、８枚の水田面を確認した。しかし、調査区がトレンチ状であったため、１枚の水田面の面積を求めることはできなかった。調査区西側では、平面形が蜂の巣状に多角形を成す水田が検出されたが、東側では旧地形が比較的安定していたためか、やや規模の大きい水田が検出された。その他の遺構としては、６次調査において確認された時期不明の溝状遺構が検出された。

出土遺物　水田を覆っていた褐色粗砂層と水田の暗褐色粘質土層内から数点の遺物が出土した。生産遺跡という性格上、時期を決定できる遺物はほとんど出土していない。

まとめ　８次調査では、調査面積が狭いうえ遺物の出土が極めて少量であったため、時期は確定できないが、周辺の調査成果を考えあわせると、古墳時代に属するものと考えられる。なお、以前の調査で触れられていた弥生時代の水田は８次調査では確認できなかった。

報告書は1998年度刊行予定である。

１．調査地点位置図(24板付.86　1:8000)

２．調査区全景(東から)

３．調査区北側全景(北から)

9714 東那珂遺跡第３次調査（HGN-3）

所　在　地　博多区東那珂１丁目19-28
調査原因　個人専用住宅建設
調査期間　1997.５.6～５.22
調査面積　114.7㎡
担　当　者　井上繭子
処　　置　記録保存

位置・環境　東那珂遺跡は、福岡平野の中央部、御笠川東岸の沖積平野上に位置する。周辺の地形は河川の浸食によって形成された中低位の段丘と沖積低地で構成され、本遺跡群は後者に立地する。本調査区は、古墳時代や中世の溝、掘立柱建物跡が検出された第２次調査地点の北側に位置する。遺構面は現地表面下約1.2ｍ、標高約5.7ｍの灰褐色粘質土層である。なお、この面の上に古代～中世の遺物包含層が薄く堆積している。

検出遺構　遺構面である灰褐色粘質土層より、ピット・柱穴・溝１条・河川が検出されている。溝は、第２次調査地点で検出された古墳時代前期の溝と、規模及び位置関係からみてつながると考えられる。その他、調査区南コーナーを一部拡張し井戸１基を検出した。この井戸は、遺構面の上層である暗褐色粘質土層上面より掘り込まれており、掘方の底部には木桶が設置されていた。

出土遺物　遺物は少なく、コンテナ１箱程度である。包含層より、古代～中世の土師器、陶磁器が出土しているが、いずれも小片である。柱穴、溝、河川からは、古墳時代～古代の土師器、須恵器の破片が出土した。摩耗したものが多く、明確な時期決定は難しい。井戸からも土師器、陶磁器の小片が少量出土しているのみである。ただし、試掘調査時に井戸上層から、焼印の押された曲物が検出されている。

まとめ　本調査区及び第２次調査地点より旧河川の流路が検出され、両地点とも、沖積地上に形成されている。本調査区で検出された遺構及び遺物のみでは遺跡の性格を判断しかねるが、溝や遺物の内容から、第２次調査地点と一連の、古墳時代～古代の集落の一端であると考える。なお、井戸は層序及び出土遺物より、中世～近世の時期に比定されよう。

1．調査地点位置図(23雀居.2635 1:8000)

2．調査区全景(北から)

3．井戸(西から)

9715 雀居遺跡第12次調査（SAS-12）

所 在 地　博多区雀居地内（福岡空港内）
調査原因　福岡空港西側整備
調査期間　1997.4.18～1998.3.25
調査面積　5,800㎡
担 当 者　力武卓治
処　　置　調査後埋め戻し

位置・環境　雀居遺跡のある福岡国際空港は、御笠川右岸と月隈丘陵とに挟まれた低地に位置しており、第12次調査地点は、平成８年度第10次調査区の西側に隣接している。

検出遺構　試掘調査や昨年度実施した第10次調査によると現地表より約1.5ｍ下面に砂層で覆われた水田面があり、これをⅠ面とした。この下に古墳時代と弥生時代の遺物を包含する黒色粘質土層が約50㎝の厚さで堆積しており、これをⅡ面とした。Ⅱ面の下層は場所によって異なるが、青灰色粘質土層が拡がっている。これをⅢ面とし、調査対象地を南北に４区画し、東よりⅠ～1V区と呼び、下記の遺構、遺物を検出した。

まとめ　コンテナ1,200箱に及ぶ遺物が出土し、弥生時代以来、大集落が存続していたことを示している。発掘により多くの知見を得たが、特に弥生時代の家畜小屋と思われる遺構の検出は重要である。第10次では20基を確認し、アジア各地の発掘例や民俗例などから、家畜小屋と推測した。今回は４基を加えたが、うち１基は240×250㎝の隅丸方形で、細く掘った溝中に丸太杭を密に打ち込んで柵としている。わが国では初の発見であり、弥生時代開始期の家畜飼育を裏付けるものである。

1．調査地点位置図(23雀居.2633 1:8000)

2．II区家畜小屋の発掘作業風景

雀居遺跡第12次遺跡検出遺物及び遺構概要一覧表

面	時　代	主な遺構	数　量	主　な　遺　物
Ⅰ面	中　世	水田	25枚＋	木製人形　木簡　土器
Ⅱ面	古　墳	土器溜め	4基	土師器　石器
		竪穴式住居跡	4軒	土師器　石器
		凹　地	4基	土師器　木製農具　建築材
Ⅲ面	弥生	土壙墓	1基	乳幼児人骨
		土　壙	15基＋	弥生土器　漆製品　獣骨　炭化米
		方形周溝	1基	弥生土器
		家畜小屋？	4基	弥生土器
		凹　地	3基	弥生土器　木製農具　建築材

9716 吉塚遺跡群第６次調査（YSZ-6）

所　在　地　博多区堅粕５丁目429－１
調査原因　共同住宅建設
調査期間　1997.5.26～7.11
調査面積　358㎡
担　当　者　佐藤一郎
処　　置　記録保存

位置・環境　福岡平野中央部の御笠川河口から２km遡った右岸の標高約４ｍ前後の砂丘上に位置する。第１次調査区の北西に隣接する。厚さ約10cmの耕作土層（灰褐色妙質土）下で遺物包含層（褐色砂、弥生から古代の遺物を含む）を確認、さらに50cm下の地山の黄褐色砂上面で遺構を検出した。

検出遺構　検出された遺構は、弥生時代中期末から後期にかけての溝１条、土壙８基、柱穴多数、古墳時代後期の土壙１基、奈良時代の井戸１基、平安時代末から鎌倉時代にかけての井戸１基、土壙１基、鎌倉時代末前後の井戸１基、江戸時代の井戸１基である。

出土遺物　包含層、奈良時代と江戸時代の井戸から有茎鏃造腸抉柳葉式の銅鏃が都合３点出土した。平安末から鎌倉時代にかけての井戸からは高台内に墨書「西甫」が記された白磁片が出土した。

まとめ　銅鏃３点の出土をみたが第６次調査区の南東に隣接する第１次調査区においても貨泉とともに銅鏃が１点出土しており、限られた範囲での調査であるが、周辺の拠点集落での出土状況と比べて特異なものである。

報告書は1998年に刊行済である。

1．調査地点位置図(36博多駅.123　1:8000)

2．調査区北側(東から)

3．調査区南側(北から)

9717 有田遺跡群第185次調査（ART-185）

所 在 地　早良区小田部１丁目126
調査原因　個人専用住宅建設
調査期間　1997.5.26～6.9
調査面積　120㎡
担 当 者　荒牧宏行
処　　置　記録保存

位置・環境　有田遺跡群の北側に派生した丘陵尾根線近くに位置する。標高8.2ｍを測り、地山の鳥栖ロームは西側へ緩やかに高くなる。削平が著しく、特に西側では表土10㎝下で地山の鳥栖ロームに達する。その為、消滅した遺構も多いものと思われ遺構の密度は極めて疎である。検出遺構

検出遺構　主な遺構は古墳時代後期（6世紀後半）以降と考えられる鍛冶遺構１、土壙１、溝があげられる。

鍛冶遺構はコの字形の溝を2.5ｍ×3.6ｍ掘り込み、炉を囲む。溝中とその周辺からは鉄滓、砂岩片（砥面はみられない）が出土した。溝は幅4.5ｍ、最深部で30㎝を測り、真北に近い方向に延びる。基底部が幅50㎝、深さ５㎝程の小溝が５条ほど連続し、平行する畝状の起伏がみられる。

出土遺物　総量にしてコンテナ１箱のみである。鍛冶遺構からは鍛冶滓、鉄器片が出土。

まとめ　周辺の調査では、古墳時代の竪穴住居跡とともに排滓壙の可能性がある土壙が検出されている。本調査は該期の集落内における鍛冶生産を具体的に示し、炉跡周辺をコの字に巡らす溝は排水溝の可能性をもち類似施設が留意される。

報告書は1999年度に刊行の予定である。

1．調査地点位置図(82原.309 1:8000)

2．調査区全景(南東から)

3．鍛冶遺構(南から)

9718 峯遺跡群第2次調査（MIN-2）

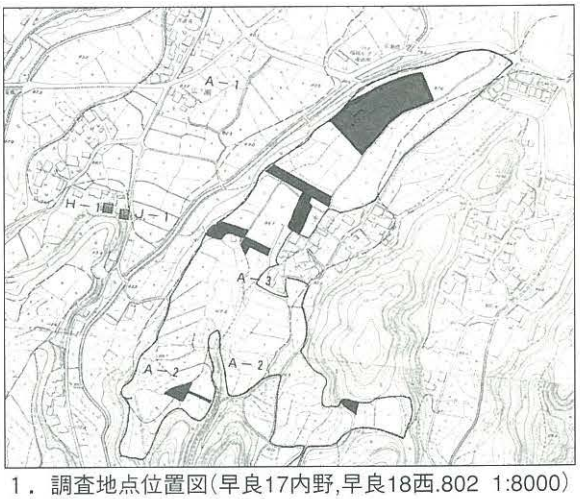
所　在　地　福岡市早良区大字西字峯地内
調査原因　圃場整備
調査期間　1997.5.26.～11.4
調査面積　10,129㎡
担　当　者　加藤隆也　大塚紀宜
処　　置　記録保存

位置・環境　調査区は室見川上流域の河岸段丘上に位置し、背振山系から北東方向に伸びる舌状台地上に位置する。標高80～120ｍにわたり、台地両側は傾斜の強い谷に切られて周囲と区別される。

検出遺構　調査区が圃場整備対象地内で数ヵ所に分散しているため、１区～５区に調査地点を設定した。遺構は、各調査区とも水田耕作土直下から検出されており、削平が著しいことを伺わせる。１区は遺構密度は低く、柱穴、焼土壙を中心とした遺構群で、方形竪穴遺構を１基検出した。２区は柱穴、土壙を中心として、高い密度で遺構群が分布しており、中世～近世を主とする時期の遺物を検出した。３区は遺構の密度は低く、焼土壙、柱穴を主とする遺構を検出し、方形竪穴遺構も遺存状況は悪いが１基検出した。４区では焼土壙を中心とする遺構群を検出し、内部に炭化材が焼成時の状況で遺存した遺構も出土し、焼土壙が炭焼用として使用された状況を明らかにできた。５区では掘立柱建物群、焼土壙、中世墓、方形竪穴遺構等を検出した。掘立柱建物は台地の東側に集中し、台地の方向に沿ってほぼ同じ方向に並ぶ。中世墓は台地西側の、集落から離れた地点で１基検出し、龍泉窯系青磁碗が１点出土した。方形竪穴遺構は台地の東側に、掘立柱建物とほぼ同じ範囲に分布し、規模は２ｍ四方のものが多い。

出土遺物　１区、３区、４区は遺物の出土量が少ない。２区からは近世陶磁器が、５区からは12世紀前半～13世紀後半に限られた陶磁器が出土した。総量でコンテナ約30箱相当が出土している。

まとめ　１区～５区を通じて、後世の削平が著しい。縄文時代以前の遺物は表採資料のみで遺構は存在しない。遺構、遺物の主体は12～13世紀で特に５区の建物の時期は13世紀代にほぼ限定される。報告書は1998年度刊行予定。



1．調査地点位置図(早良17内野,早良18西.802　1:8000)

2．調査区全景(南東から)

3．５区遺構検出状況(南から)

9719 藤崎遺跡第29次調査（FUA-29）

所 在 地　早良区藤崎一丁目２番７号
調査原因　共同住宅建設
調査期間　1997.6.9～7.4
調査面積　220㎡
担 当 者　星野惠美
処　　置　記録保存

位置・環境　調査地は、藤崎遺跡群の南西に位置する。遺跡は博多湾の左流回転により形成された古砂丘上に営まれている。地山の標高は3.2ｍを測る。地山は黄白色砂であり、上層に厚さ20～30㎝の包含層が形成されている。遺構面は一部この包含層からも確認できる。

検出遺構　遺構検出は包含層（上層）と地山の面（下層）の２枚で行った。確認できた遺構の時期はほぼ同時期であった。本来の遺構は包含層から切り込んでいるが、上層で確認できなかった遺構を下層で検出した状況と思われる。遺構の時期は主に古代と中世の２時期である。

古代：竪穴住居跡（カマドをもつ）１軒
　　掘立柱建物（２×２の総柱）１棟

中世：溝１条、井戸１基（井側は杭と板で方形に造り、水溜には曲物を用いる。水溜の上には約100㎝の板石が立った状態で検出された。井戸からの湧水はなかった。）他に土壙、ピット群がある。

出土遺物　本調査ではコンテナ６箱の遺物が出土した。包含層からは弥生・古墳・奈良・鎌倉・江戸時代の遺物が出土している。これら各時期の土器の他に漁撈具である土錘が多く出土している。また、竪穴住居跡から水晶の算盤玉１点、溝から瓦、江戸時代の土壙墓から土人形１点が出土。

まとめ　今回の調査では古代と中世の集落の一部が確認された。古代の住居跡は第３・６・９・15・18次調査で検出されている。立地条件や土錘等の出土から漁撈的性格を持つ集落であったと考えられる。中世の溝は第15・16・18・20次調査で検出された溝と類似し、屋敷地等の区画の溝と思われる。北で検出されている元寇防塁とそれに並行して走る大溝との関係にも留意したい。報告書は1998年度に刊行予定である。

1．調査地点位置図（81室見.307 1:8000）

2．調査区南側上層全景（東から）

3．調査区北側上層全景（北から）

9720 比恵遺跡群第62次調査（HIE-62）

所 在 地　博多区博多駅南6丁目25－1
調査原因　社屋建設
調査期間　1997.6.9～9.3
調査面積　370㎡
担 当 者　宮井善朗
処　　置　記録保存

位置・環境　調査地点は遺跡の西南側にあたり、那珂遺跡との境界にも近い位置である。遺構の遺存は比較的良い。

検出遺構　狭い調査面積であるが、豊富な遺構が検出された。

弥生時代の遺構としては、円形の竪穴住居跡３基（中期）、井戸１基（中期？）、溝３条（終末期、内２条は幅５ｍでほぼ平行）等が検出されている。古墳時代の遺構としては、溝２条（前期、幅6.5～7ｍでほぼ平行する）。住居跡８基（内３基は前期、残りの５基は時期不明であるが、後期と考えられる）。後期の溝５条（内２条は「L」字に折れ曲がる）。古代の遺構としては、井戸１基があり、床面付近に甕や竈等の破片が多数出土した。

出土遺物　出土遺物は総量でコンテナ46箱である。土器がほとんどであるが、ピットから耳環が１点出土している。

まとめ　今回の調査では、弥生時代から古代にかけての遺構、遺物が豊富に検出された。中でも、ほぼ平行して伸びる溝が二組検出されたのは興味深い。比恵遺跡、那珂遺跡では、弥生時代中期末頃から直線的な条溝が増加し、街区的な地割りを想定する説もある。そうした仮説の一助となる成果と言えよう。

報告書は1998年度刊行予定である。

1．調査地点位置図(37東光寺.127 1:8000)

2．調査区西区全景

3．古代井戸内遺物出土状況(西から)

9721 有田遺跡群第186次調査（ART-186）

所　在　地　早良区小田部三丁目285他　　調査面積　252㎡
調査原因　共同住宅新築　　担　当　者　米倉秀紀
調査期間　1997.6.7～7.4　　処　　置　記録保存

位置・環境　調査地点は、有田小田部の台地の低い尾根が八つ手状に広がる付け根付近に位置する。この台地は、早良平野の北部にある独立した洪積台地である。今回の調査地の北側隣接地では18世紀の建物跡群が検出され、江戸時代の庄屋級の屋敷と理解されている。

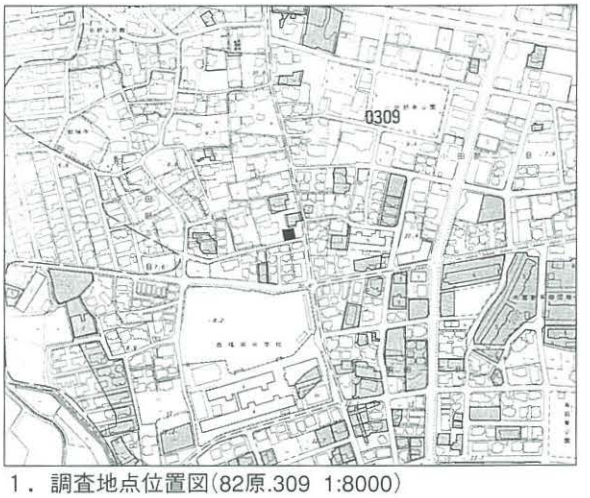
検出遺構　18世紀代に位置づけられる溝状遺構と、奈良時代の小溝１条を検出した。18世紀代の溝は、北側隣接地から南に延び、当調査地点内で西側に折れている。調査地点の東半は削平によってなくなっている。溝は幅50～100㎝、深さ20～30㎝程度のもので、水が流れていた痕跡はない。

奈良時代の溝は調査区西側で検出した。南北方向の溝で、西壁の立ち上がりは調査区外にある。溝の多くを攪乱によって破壊されているため遺物の出土は少ないが、８世紀代ではないかと考えられる須恵器片等が出土した。

出土遺物　奈良時代の土器片少量と18世紀代の古伊万里、高取焼等がコンテナ２箱ほど出土した。

まとめ　今回発見した18世紀代の溝状遺構群は、北側隣接地の庄屋級の屋敷に伴うものと思われる出土した陶磁器類は、当時の生活を復元する上で重要な資料となるものであろう。また奈良時代の遺構・遺物は当該地周辺では初めての発見であり、有田台地中央で検出されている大型建物群との関連を考える上で、参考になるものと思われる。

調査報告書は1999年度以降に刊行予定である。



1．調査地点位置図(82原.309 1:8000)

2．調査区全景(北東から)

3．奈良時代の溝(東から)

9723 吉塚祝町遺跡第１次調査（YZI－１）

所　在　地　博多区吉塚２丁目地内
調査原因　都市計画道路吉塚駅東線拡幅
調査期間　1997.６.３～10.31
調査面積　382.1㎡
担　当　者　大庭康時
処　　置　記録保存

位置・環境　吉塚祝町遺跡は、今回新たに発見された遺跡である。地形的には、博多湾岸に形成された、南北に伸びる砂丘状に立地している。調査区は、この砂丘を東西に横断する形となった。歴史的立地環境としては、南の砂丘に博多遺跡群、北の砂丘に箱崎遺跡と、歴史時代の福岡を代表する二大港津遺跡にはさまれている。

検出遺構　最も遡る遺構は、弥生時代中期中ごろの甕棺墓である。ついで、古墳時代の土壙墓・小石室・横穴式石室を調査した。横穴式石室は、調査区が狭いため、その羨道部を検出したのみである。削平されているが、本来墳丘を伴ったものと考えられる。

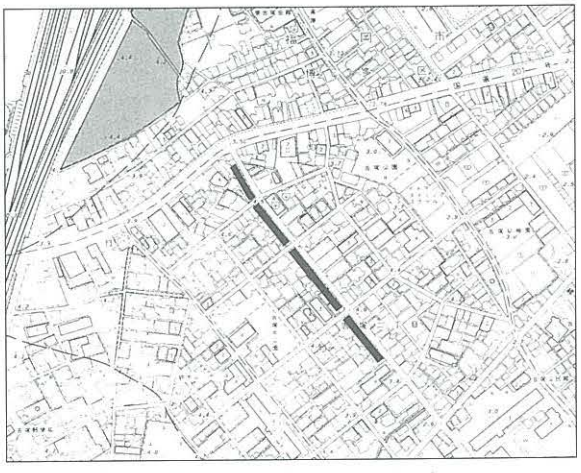
古代では、奈良時代の竪穴式住居跡・土壙、平安時代の土壙・柱穴を検出した。

中世では、土壙・柱穴・溝などを検出した。主体は、13～14世紀にある。

出土遺物　出土遺物は、土器・陶磁器類がコンテナ89箱、銅銭・鉄釘などの金属製品が１箱出土した。

まとめ　今回の発掘調査は、住宅地を通る道路の拡幅であり、生活通路の確保のため、小面積の調査区を連ねる形となり、結局かなりの未掘部分を生んでしまった。しかし、吉塚祝町遺跡としては、初めての発掘調査であり、得られた知見のすべてが貴重な成果といえる。弥生時代の甕棺墓や古墳の存在は、全く予想できなかった成果である。また、古代においては、越州窯系青磁の出土点数が比較的多く、緑釉陶器・灰釉陶器も出土した。中世でも、瀬戸窯の卸皿・柄付片口・折縁深皿が出土するなど九州の集落遺跡としては希な遺物を持つ。古代・中世を通じて、単なる集落遺跡とは割り切れない内容を持つと言えよう。今後の調査が期待される。

1998年度報告書刊行予定



１．調査地点位置図(35吉塚.2779 1:8000)

２．調査区遠景(北西から)

３．13区検出横穴式石室(南西から)

9724 那珂遺跡群第63次調査（NAK-63）

所　在　地　博多区那珂１丁目792－１
調査原因　共同住宅建設
調査期間　1997.６.30～７.31
調査面積　214㎡
担　当　者　榎本義嗣
処　　置　記録保存

位置・環境　那珂遺跡は福岡平野中央部の那珂川と御笠川に挟まれた中位段丘上に立地する。本調査区は遺跡のほぼ中央部に位置し、古墳時代初頭に築造された平野最初の首長墓である那珂八幡古墳の前方部西側約20ｍの位置にある。遺構は表土直下の鳥栖ロームの上面で確認された。その標高は約8.7ｍを測る。

検出遺構　古墳時代前期の方形周溝墓１基、奈良時代の溝1条、16世紀の溝１条、土壙墓１基、ピットである。方形周溝墓は一辺約17ｍに復元できる周溝の一部を確認した。幅3.5～4.0ｍ、深さ0.6～1.0ｍを測り、断面は逆台形を呈する。隣接する第32次調査区において検出されている溝と接続し、南側は「L」字状に折れて陸橋を有するものと考えられる。墳丘は削平を受けるために主体部は遺存しない。なお、墳丘の存在したと推定される周溝内部は遺構密度が周辺に比して希薄である。この周溝に切られる長方形プランの土壙墓は幅0.8ｍ以上、長さ２ｍ、深さ0.6ｍが遺存し、南側の小口部には板状の自然石を立てる。副葬品として鉄鎌が１点出土している。奈良時代の溝は調査区東側を南北方向にはしる断面逆台形のもので、幅1.5～2.0ｍ、深さ0.7ｍを測る。隣接する第32・62次調査区に延びる。

出土遺物　コンテナ数にして９箱の遺物が出土した。周溝から布留系の壺、甕、高坏等が出土している。奈良時代の溝の出土遺物には土師器、須恵器の他、凹面に布目痕を有する瓦がある。中世の溝からは土師器、輸入陶磁器が出土しているが、少量である。

まとめ　今回確認された方形周溝墓は隣接する第62次調査区においても検出されている方形周溝墓とほぼ同規模で、軸線を一致させることから、那珂八幡古墳を含めた上での強い企画性が看取される。

調査報告書は1999年度に刊行予定である。

1．調査地点位置図(37東光寺.85　1:8000)

2．調査区全景(南から)

3．周溝内遺物出土状況(北から)

9725 桑原錦田古墳群第２次調査（KHN-2）

所　在　地　西区大字桑原錦田1637
調査原因　宅地造成
調査期間　1997.7.7～７.24
調査面積　180㎡（古墳１基）
担　当　者　荒牧宏行
処　　置　記録保存

位置・環境　標高33～35ｍの丘陵尾根線上に位置する。当古墳群には３基の古墳が確認されている。南側の谷を隔てた丘陵には桑原石ヶ元古墳群が位置し、密集した36基の古墳群がみられる。

検出遺構　調査対象は１基（２号墳）である。宅地造成中の発見であるため、墳丘、石室のほとんどが破壊されていた。

内部主体に単室横穴式石室を設けるが、左側壁、袖部～羨道部にかけての石材は欠損し、残る玄室壁体も腰石のみが遺存する。玄室規模は奥幅約100㎝、主軸長165㎝を測る小規模なものである。玄室の袖石近くの隅角に土師器の坏身、蓋が１セット、羨道の仕切石近くに須恵器坏身が１点副葬されていた。　墳丘規模は削平のため、全く不明であるが、地山成形は玄室まで平坦面を整地していた事が判る。

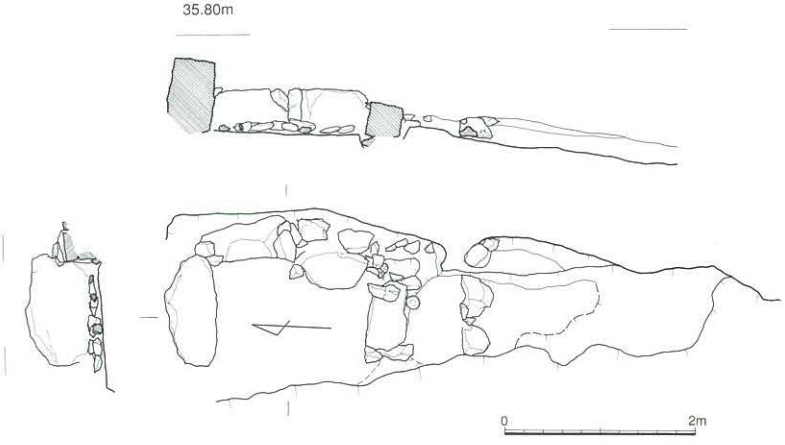
出土遺物　上記の土師器坏、須恵器坏の他、羨道部に製錬滓が供献されていた。遺物総量はコンテナ１箱分。

まとめ　副葬された遺物は追葬時の可能性をもつが７世紀後半以降と考えられ、石室の形態からも末期のものに属するであろう。

１．調査地点位置図(139桑原西部.2781　1:8000)

２．２号墳全景(北から)

３．２号墳石室全景(南から)



４．２号墳石室平面及び断面図(1/80)

9726 東比恵三丁目遺跡第１次調査（HGH-１）

所 在 地　博多区東比恵三丁目293-1
調査原因　公営住宅建設
調査期間　1997.７.１～10.03（１期調査）
　　1998.２.17～ 6.30（２期調査）
調査面積　11,414㎡
担 当 者　本田浩二郎
処　　置　記録保存

位置・環境　東比恵三丁目遺跡は、御笠川東岸の沖積地上に立地し、現地表面の標高は４ｍ前後を測る。

検出遺構　弥生時代中期末から後期前半にかけての水田遺構を３面にわたって確認した。これらの各水田面では土層の観察から御笠川の氾濫等の原因によって砂に覆われ廃絶したのち、すぐさま復旧するという作業を比較的短期間のうちに繰り返したことが判明した。調査は上層水田・中層水田・下層水田と分け順次行なった。１期調査では80～120㎡の水田が畦畔によって整然と区画され営まれていた状況が検出された。畦畔の一部は杭と木材によって補強されており、その中からは廃棄されたと思われる木器も出土した。中層・下層水田では一部畦畔が検出できたのみで、その大半が洪水時に削り取られており、下層水田では足跡のみが検出された。下層水田では流木溜りの中からしゃもじ型木製品などの木器が数点出土した。

出土遺物　遺物は、１期調査で上層・中層・下層あわせてコンテナ13箱の弥生土器・石器、15箱の木器木製品が出土している。鍬は三又鍬が多く、泥除け板付鍬の一部も出土した。

まとめ　以上が１期調査の調査概要である。現在２期調査中である。本遺跡は那珂遺跡群、比恵遺跡群、吉塚遺跡群等に近接しているが、これまで周辺の調査事例が少ない地域である。また周辺の集落遺跡の調査でも生産遺跡との関連性が解明されていない部分もあり、今後、集落遺跡と生産遺跡との関係を考えていく上で重要な資料となる遺跡である。なお、調査報告書は1999年度に刊行する予定である。

１．調査地点位置図(36博多駅.2776 1:8000)

２．１期調査区上層水田全景(上空から)

３．１期調査区下層水田木製品出土状況

9727 有田遺跡群第187次調査（ART-187）

所在地	早良区有田二丁目12-5	調査面積	494㎡
調査原因	個人専用住宅建設	担当者	米倉秀紀・星野恵美
調査期間	1997.7.24～9.5	処置	記録保存

位置・環境　調査地点は、有田小田部の八つ手状の台地の最高所付近に広がる。この台地は、早良平野の北部にある独立した洪積台地である。今回の調査地周辺では、弥生時代の初頭の環濠、古墳時代の住居跡群、奈良時代前後の大型建物跡群、戦国時代の城跡等が発見されている。当調査区は、北側の一部を昭和42年に九州大学が調査しており、弥生時代初頭の環濠等が発見されている。

検出遺構　弥生時代：九州大学調査時に検出した環濠、土壙１基
古墳時代：住居跡２軒
飛鳥～奈良時代：２×２間の大型総柱建物１棟と大きな柱穴を持つ柵、条里の南北方向に近い濠１条

出土遺物　弥生時代～戦国時代の土器・陶磁器、奈良時代、戦国時代の鉄滓、戦国時代の板碑や瓦等の遺物がコンテナ約15箱出土。

まとめ　弥生時代初頭の環濠は、突帯文土器と板付式土器が共伴する断面「Ｖ」字形の溝であるが、大半は九州大学が調査済みで、土器片が若干出土しただけである。飛鳥～奈良時代の大型建物と柵は、この周辺で発見されている官衙級の建物群の一部である。建物と柵は時期が異なるが前後関係はわからない。柵は東側隣接地である第82次調査で検出した大型側柱建物に平行する。奈良時代の溝は南から北へ数百ｍにわたって延びている溝の延長部と考えられるが、この延長線とは６度ずれている。戦国期の濠はこの周辺で発見されている城跡に伴うもので、陶磁器等の生活遺物のほか、板碑や瓦も出土した。

調査報告書は1998年度以降に刊行予定である。

１．調査地点位置図(82原.309　1:8000)

２．弥生時代初頭の環濠(南から)

３．古代の総柱建物と柵(西から)

9729 大原Ｄ遺跡第５次調査（OBD－５）

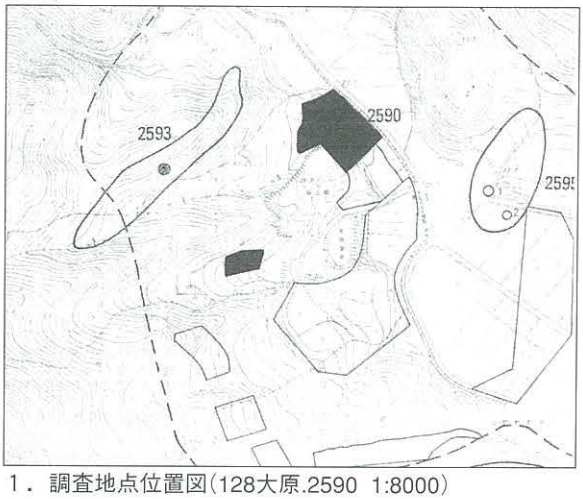
所在地	西区今津地内	調査面積	3223.5㎡
調査原因	廃棄物埋立場建設	担当者	荒牧宏行・菅波正人・池田祐司
調査期間	1997.7.16～1998.3.31	処置	記録保存、調査継続

位置・環境　大原Ｄ遺跡は柑子岳から北東に派生する丘陵の裾に位置する。丘陵には狭い谷が入り込む。14地点は標高26～33ｍの谷間の南斜面、15地点は標高22～27ｍを測る小さな谷を挟んだ丘陵の先端部に位置する。

検出遺構　14地点は第４次調査の継続で縄文時代草創期の遺構、包含層を調査し、新たに集石、住居、土壙、焼土面等の遺構を確認した。包含層中に繰り返し遺構が営まれたと考えられる。15地点では９世紀代を主とした鍛冶炉６基、建替えを含んだ掘立柱建物３棟等を検出した。調査区全体からは鍛冶滓、鞴の羽口が多く出土した。上部の包含層には鉄滓の他、13、14世紀の陶磁器を含み、中世までの経営の可能性をもつ。その他、土石により埋没した流路や谷を検出し、その中の埋没谷落際の一部から多くの縄文草創期の土器片、石器が出土した。

出土遺物　14地点は条痕文、無文土器が出土し、上げ底と丸底が見られる。石器は黒曜石を中心として細石核、細石刃、スクレーパー、石鏃及び局部磨製石斧、磨石等が出土している。15地点の埋没谷から出土した縄文土器は刺突文、条痕文、貝殻腹縁によって施文したものを有し、底部は乳頭状の尖底と平底である。石器には丸ノミ形石斧、局部磨製石斧、磨石、石鏃等がある。

ま　と　め　14地点は焼失家屋等未掘部分について平成11年度に追加調査する予定である。15地点は製鉄関連を主とした遺構を検出し、既往の調査成果も合わせ、一帯において９世紀代から製鉄業が盛んに行われていたことを確認した。埋没谷から出土した縄文草創期末と思われる限られた時期内の土器片は近くに居住空間の存在を示し、14地点同様の北側を丘陵で遮る立地が考えられる。



1．調査地点位置図(128大原.2590　1:8000)

2．第14地点石組炉(南から)

3．15地点埋没谷(縄文草創期遺物出土)

9730 立花寺Ｂ遺跡群第４次調査（RGB-4）

所　在　地　博多区大字上月隈地内
調査原因　JCTポンプ場建設
調査期間　1997.7.14～8.2
調査面積　198㎡
担　当　者　井上繭子
処　　置　記録保存

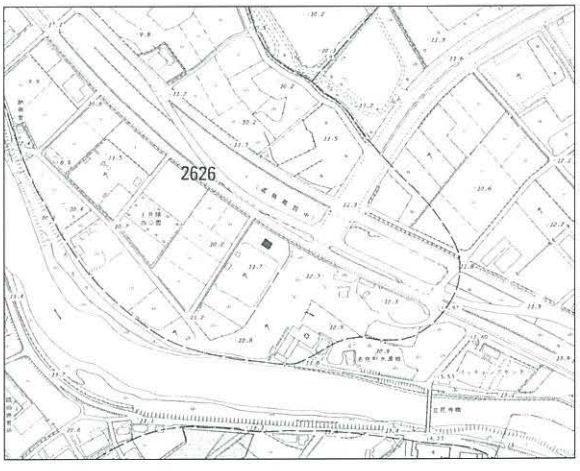
位置・環境　立花寺Ｂ遺跡群は、福岡平野を北流する御笠川の沖積作用によって形成された平地の南東部、微高地上に位置する。周辺の地形は、北東側と南側を、三郡山地及び背振山地から各々派生した丘陵に挟まれた狭い谷地形となっている。本調査区は、立花寺Ｂ遺跡群の南西、御笠川が西に屈曲する地点の東側に立地する。遺構面は、旧耕作土から約70㎝下、標高約9.6ｍの赤みを帯びた灰褐色粘質土層である。

上面に弥生時代～中世の遺物を含む包含層が堆積していた。

検出遺構　遺構面の灰褐色粘質土層上面でピット、河川が検出された。河川には、流路に平行して杭列が並んでいた。杭は規則的な間隔で打ち込まれていたが、性格は不明である。

出土遺物　遺物は少なく、コンテナ２箱分である。包含層である暗赤褐色土層より、弥生時代～中世の土器、土師器、須恵器、陶磁器の小片が出土している。ピット及び河川からは古墳時代～中世の土師器、須恵器、陶磁器の小片が出土している。

まとめ　本調査区の北側には第２次調査地点ＡⅡ区が位置する。この地点では、９世紀後半～10世紀前半、12～14世紀の遺構が多く検出され、当該期の集落が形成されていたとされる。本調査区は、河川の氾濫原であったと考えられ、集落からはずれた地点であったと推定される。



１．調査地点位置図(24板付.2626 1:8000)

２．河川(北から)

３．調査区全景(南西から)

9731 大井遺跡第１次調査（OOI-1）

所 在 地　博多区大井２丁目４
調査原因　空港周辺整備
調査期間　1997.7.24～10.31
調査面積　1,773.4㎡
担 当 者　井上繭子・長家　伸
処　　置　記録保存

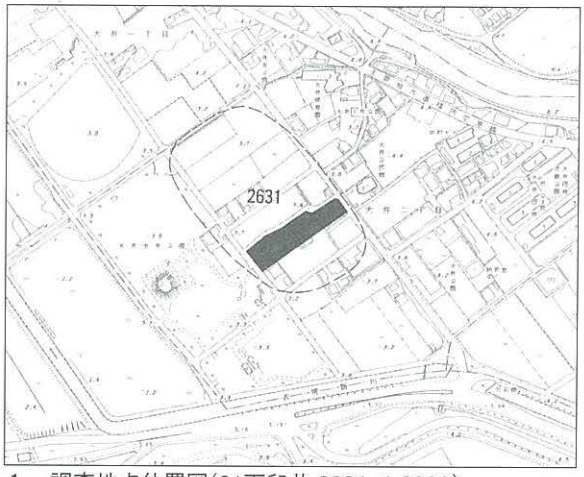
位置・環境　大井遺跡群は、福岡平野の湾岸寄り、宇美川南岸の沖積地上に位置する。西は博多湾岸から延びる砂丘上に、堅粕遺跡群、吉塚遺跡群、博多遺跡群等の古代～近世を主とした遺跡群が広がる。調査地点は、昭和初期まで水田地帯であり、水田遺構は旧耕作土の直下で検出された。遺構面は、表土下約１ｍ、標高約2.5～2.7ｍの青灰色粘質土層であり、この水田面上には、明黄褐色ないし黄白色の粗砂層が堆積していた。

検出遺構　中世の水田が検出された。水田面である青灰色粘質土層とそれを覆っている粗砂層の間には、部分的に灰褐色シルト層が堆積しており、水田面との判別が困難な場所があったが、足跡と土質で判断した。粗砂層とシルト層は10～30㎝ほど堆積しており、水田面はかなり良好に残存していた。水田面はおおよそ東から西へ向かって低く傾斜しており、ほぼ東西方向の畦畔が２本、南北方向の畦畔が２本検出されている。畦畔はしっかりした造りで、所々水口が設けられている。水田面上には、人や牛の足跡が無数に検出された。その他、近現代の井戸３基、シルト層ないし粗砂層から掘り込まれたと思われる南北方向の溝が数条平行して検出されている。この溝は所々畦畔を断ち切っていた。

出土遺物　粗砂層、シルト層、水田面より検出された糸切痕のある土師皿、中国産青磁、白磁片等があげられる。また、水田面上より木製櫛が検出された。出土遺物は少なくコンテナ１箱程である。

まとめ　出土遺物から、本調査区の水田は中世に築かれたと考える。水田面の比高差や畦畔の区画形態から、かなり大きな水田区画が形成されていたと推定される。

報告書は1999年に刊行予定である。



1．調査地点位置図(21下臼井.2631　1:8000)

2．調査区北東側(南西から)

3．水口(北西から)

9732 蒲田部木原遺跡群第6次調査（KHH-6）

所　在　地　東区蒲田４丁目376他
調査原因　倉庫建設
調査期間　1997.8.6～9.22
調査面積　1,450㎡
担　当　者　長家　伸
処　　置　記録保存

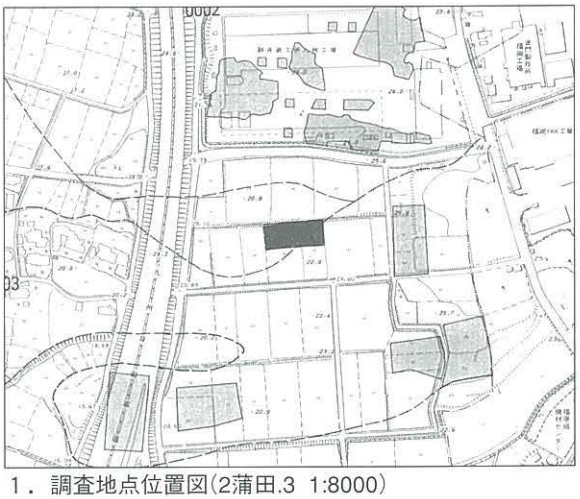
位置・環境　蒲田部木原遺跡群は多々良川左岸の沖積微高地に向かって張り出す低丘陵の西側緩斜面部分に立地する。

今回対象地域内は以前土地改良事業が行われた際に丘陵部分が大きく削られており、遺構は谷への落ち際に偏って分布している。

検出遺構　調査は比高差80㎝の水田面２面を対象とし、重機による表土除去を行った。耕作土・床土等の－50㎝程の面で露出する橙色土が遺構面で、遺構面の標高は22.5ｍ～21ｍである。

確認した遺構は、溝・土壙・土壙墓・木棺墓・柱穴等がある。遺構は調査地北側に偏って検出され、東側では遺構はまばらであった。

出土遺物　遺構からの出土遺物は、ほとんどが13世紀～14世紀に位置づけられるもので、青磁・白磁等の陶磁器類と土師器が大半を占める。木棺墓は２基検出し、墓壙からは副葬された龍泉窯系青磁椀、土師器坏・小皿が出土するとともに、棺材に用いられた鉄釘が残っていた。出土遺物は総量でコンテナ７箱分である。報告書は1999年度刊行予定である。



１．調査地点位置図(2蒲田.3　1:8000)

２．調査区全景(南真上から)

３．木棺墓(東から)

9733 橋本一丁田遺跡第３次調査（HTI-3）

所　在　地　西区橋本１丁目25-3他
調査原因　ガソリンスタンド建設
調査期間　1997.8.8～10.4
調査面積　833㎡
担　当　者　荒牧宏行
処　　置　記録保存

位置・環境　早良平野を北流する室見川と名柄川に挟まれた沖積地に位置する。既往の２度の調査から本地点以東に旧河川が流下することが判明している。標高は6.0ｍを測り、−30㎝下から遺構を検出した。

検出遺構　主な遺構は古墳時代後期と中世（12～13ｃ）に大別される。古墳時代のものは布留（新相）併行期と考えられ、集落を限るように走行した幅60㎝の溝、竪穴住居跡１軒、方形区画溝が検出された。方形区画溝の大部分は調査区外に延長していくが、検出された東辺長は全長12.5ｍ、幅70㎝の溝が２条平行し、中央近くに陸橋を設ける。中世は井戸１基、掘立柱建物跡（２×３間）が２棟検出された。その他、北西方向へ延長する溝６条が検出された。そのうち１条は幅170㎝、深さ65㎝を測る規模で蛇行しながら北西方向へ走行し、旧河川と平行していたものと考えられる。

出土遺物　埋土からローリングを著しく受けた突帯文土器が若干出土した。

中世の井戸下底から倭鏡が出土した。処理中のため鏡式は不明。本調査の遺物総量はコンテナ５箱分である。

まとめ　既往の調査と本調査成果からみて、当該地点においては弥生時代を通じて旧河川が流下し、周辺に水田が開かれていたものと考えられる。開田時期は夜臼期まで溯る。旧河川は流路を変え埋没していくが、本調査区内においては布留期までに完全に埋まり、集落が営まれる。中世集落は本調査区の北西部を中心に広がりをみせる。報告書は1999年刊行予定である。

1．調査地点位置図(91橋本.390　1:8000)

2．調査区全景(南東から)

3．方形区画溝(北東から)

9734 生ノ松原遺跡第1次調査（IKM-1）

所　在　地　西区生ノ松原１丁目32・33
調査原因　鉄道線路拡幅
調査期間　1997.07.24～1998.11.5
調査面積　1,100㎡
担　当　者　久住猛雄
処　　置　記録保存

位置・環境　生ノ松原遺跡は、西を長垂丘陵、東を十郎川に画された海岸に形成された砂丘の西半部分に位置している。現在の標高は4.0～5.0ｍである。周辺の遺跡には、北側の海岸砂丘に元寇防塁が、東は下山門遺跡に接し、南には斜ヶ浦瓦窯跡がある。

検出遺構　表土直下の黄褐色砂質土層は古代の遺物を包含するが、土壌化しており遺構は検出できない。地表下20～50㎝で砂丘上面となり、竪穴住居・土壙・柱穴・掘立柱建物・石組遺構等を検出した。時代は弥生時代終末～古墳時代前・中期と、奈良～平安時代初めが主体である。遺構の覆土の多くは不明瞭である。これは新しい時期まで砂丘の形成が続き、有機土壌の発達が遅れたためか。奈良時代頃に地盤が安定化したらしい。

出土遺物　遺構及び包含層から、①弥生終末から古墳中期、②古墳後期、③奈良時代から平安時代初めの遺物が出土した。遺物の種類は、①弥生土器・古式土師器、朝鮮半島系の陶質土器・瓦質土器・軟質土器、鉄器、②須恵器・土師器、③古代の土師器・須恵器、斜ヶ浦系の瓦、土錘等が出土している。

まとめ　調査区東半部では、主に弥生終末から古墳中期までの竪穴住居等の遺構が分布する。全体的に密度は薄いが、部分的に重複が多い所もある。古墳前・中期の竪穴住居では、陶質土器等の朝鮮半島系土器が６点出土した。また、小さな割石を使い構築されたカマド状の施設が検出された住居もあり、渡来人の存在を示唆している。調査区中央部では、奈良～平安時代初めの遺構と包含層が分布する。この部分の表土直下の包含層は遺物が多く整地層の可能性がある。南方の斜ヶ浦瓦窯跡との関連を含めて、今後注目すべき遺跡である。報告書は1999年度刊行予定。

１．調査地点位置図(103長垂.506　1:8000)

２．調査区中央～東半分(Ｃ～Ｅ区)全景(西から)

３．Ｅ区西側の竪穴住居群(東から)

9735 箱崎遺跡第12次調査（HKZ-12）

所 在 地　東区箱崎１丁目2606-1.3
調査原因　専用住宅建設
調査期間　1997.８.19～９.22
調査面積　155㎡
担 当 者　榎本義嗣
処　　置　記録保存

位置・環境　箱崎遺跡は博多湾岸に形成された南北方向の古砂丘上に立地する。本調査区は遺跡群の南東部に位置する筥崎宮に隣接し、砂丘尾根線付近に立地している。遺構面は表土下40㎝の黄褐色砂層で、その標高は約3.4ｍを測る。

検出遺構　11世紀から13世紀の井戸５基、土壙墓１基、溝１条、土壙、ピットを確認した。井戸は４基において不良ながら井筒に用いられた木桶が底面に遺存していた。木桶は幅８～10㎝の板材を組み、径は約60㎝前後を測る。土壙墓の平面形は長さ1.6ｍ、幅１ｍの隅丸方形で、断面は逆台形を呈する。副葬遺物として土師器坏、瓦器皿、白磁椀・皿が出土した。11世紀の所産と考えられる。平面形が径1.3ｍの不整円形を呈し、深さ1.1ｍの13世紀代の土壙には、土師器小皿や坏、約50個体が完形の状態で廃棄されていた。調査区の南端で検出した東西方向に延びる溝は幅70㎝、深さ30㎝で、船底形の断面を呈する。

出土遺物　土師器小皿・坏、瓦器、輸入陶磁器、滑石製品等がコンテナ数にして22箱が出土している。

まとめ　今回の調査では筥崎宮に隣接する立地から創建当時の遺構の検出が期待されたが、未確認に終わった。今回確認された遺構はその後に形成された集落の一端であると考えられる。本調査区の成果では、11世紀代に集落の形成が始まり、12世紀後半以降が主体となる。ただし、14世紀以降の遺構は検出していない。本遺跡内における集落の消長時期の総合的な検討や立地を含めた旧地形の復元が今後の課題といえよう。調査報告書は1999年度に刊行の予定である。

1．調査地点位置図(34箱崎.2639 1:8000)

2．調査区全景(南から)

3．11号井戸(北から)

9736 福岡城跡第39次調査（FUE-39）

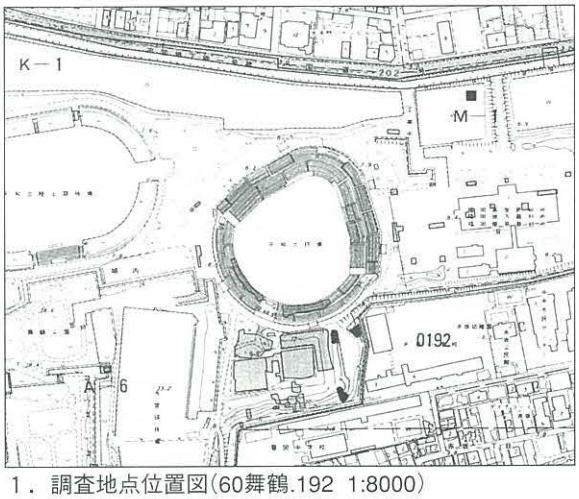
所　在　地　中央区城内1-1地内
調査原因　鴻臚館跡範囲確認（第14次）
調査期間　1997.8.18～11.30
調査面積　450㎡
担　当　者　田中壽夫
処　　置　盛土保存

位置・環境　福岡城は、油山山塊の一つである赤坂山から博多湾に向かって北に延びる旧福崎丘陵先端部部に立地する。この地点は博多湾岸全体をほぼ一望できる高台である。鴻臚館跡は、福岡城郭中央部の南側一帯（現平和台野球場周辺）に推定されている。

検出遺構　今年度の調査は、三の丸中央城郭南縁を東西及び北に延びる土塁の一部を対象として、平和台野球場を中心に分布する鴻臚館関連遺構の東側、及び南東側における範囲確認を行った。調査区は3地点（第1～第3区）に設定し、福岡城築城当初の整地層、及び土塁構築状況を観察した。鴻臚館関係の遺構は確認できなかった。

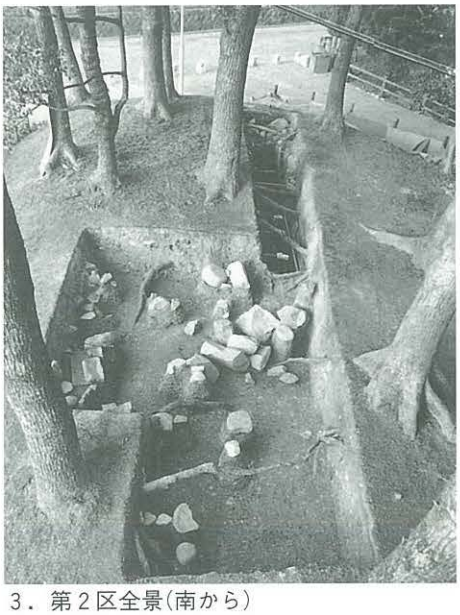
出土遺物　江戸時代後期以降の瓦や肥前系陶磁器、古代瓦破片を主として、中国五代時代の越州窯系青磁、白磁の他、新羅焼、須恵器、元代の青磁などの破片が、若干出土している。

まとめ　福岡城三の丸の南縁を東西に延びている土塁は、福岡城築城に際して築かれた後、現在までに補修を数回行っており、特に、旧陸軍二十四連隊弾薬庫建設、戦後のテニス観覧席構築等により大きく改変を受けていることが明らかとなった。報告書は1998年に刊行済である。



1．調査地点位置図(60舞鶴.192 1:8000)

2．第1区全景(西から)


3．第2区全景(南から)

4．第3区全景(南から)

9737 野多目A遺跡群第6次（NMA-6）

所 在 地　南区和田一丁目512-1他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　1997.8.26～10.22
調査面積　980㎡
担 当 者　佐藤一郎
処　　置　記録保存

位置・環境　本調査区は、福岡平野を北流する那珂川西岸に形成された河岸段丘上に位置する。調査地区は野多目A遺跡西端に位置し、第3次調査の北側に隣接する。以前は畑であった調査区域内には1.3mほど客土が盛られていた。約15cmの耕作土層（暗茶褐色土）直下で遺構面を確認した。遺構の埋土には黒褐色土（弥生以前とみられる）と褐色土（やや砂質で、時期は中世）のものがみられた。

検出遺構　検出した遺構は13世紀前後の溝2条、土壙墓1基、柱穴多数である。溝2条は第3次調査で検出された溝の延長に相当する。土壙墓は調査区の北西部で検出した。平面形は南北に長い隅丸長方形で、全長2.0m、幅1.0m、深さは最深部で45cmを測る。壁は斜めに立ち上がり、南側へ浅くテラス状に三段に掘られている。墓壙の北端で供献の土師器杯2が底面より5cm程浮いた状態で出土した。ほぼ南北に方位を取る。柱穴のほとんどは、13世紀前後とみられ、建物としてのまとまりは現在検討中である。中世以前の遺構では集石遺構を検出した。調査区の北西部で検出され、直径30cmの範囲に拳大の礫が集め置かれていた。その3m北で旧石器時代（細石刃）の包含層を確認し、その時期の遺構である可能性がある。遺物は径5m、厚さ20cmの範囲に密集していた。

出土遺物　遺物は細石刃、土壙墓供献土師器の他、柱穴埋土からは土器細片が極少量出土した。総量はコンテナ4箱分である。

報告書は1999年度に刊行予定である。

1．調査地点位置図（39三宅.141　1:8000）

2．調査区全景（南東から）

3．土壙墓SX03（南から）

9738 下和白後口古墳群第１次調査（SWU-１）

所　在　地　東区和白丘１丁目187-1
調査原因　共同住宅建設
調査期間　1997.8.26～9.10
調査面積　650㎡・古墳２基
担　当　者　米倉秀紀・池田祐司
処　　置　記録保存

位置・環境　調査地は、唐の原川下流域右岸の第三紀頁岩を基盤とする台地上に立地する。この台地は頁岩風化土壌からなる、標高18.6ｍの低台地である。

検出遺構　古墳時代後期の円墳２基と縄文時代と考えられる土壙１基、ピットを検出した。

円墳は、２基とも直径10ｍ内外の小型のもので、墳丘の遺存状況がきわめて悪かったため、墳丘調査は断念し、地山整形面を調査の対象面とした。ただし、一部墳丘が遺存している部分については、土層断面図の作成を行った。内部主体は横穴式石室で、墳丘に比べると遺存状況は良かった。ともに、竪穴系横口式石室の系譜を引く羨道部のきわめて短い横穴式石室である。北側の１号墳は床面に敷石が約半分程度遺存していた。２号墳も若干の敷石が遺存していた。

縄文時代と考えられる土壙は、地山の赤い第三紀頁岩風化土に掘り込んだもので、地山ときわめて近い色の覆土である。

出土遺物　１号墳玄室内からガラス玉、鉄刀の刀装具、鉄鏃等が出土した。２号墳玄室内からガラス玉、水晶製切り子玉、碧玉製管玉、鉄鏃等が出土した。また、１号墳の墳丘裾部からは須恵器・土師器がまとまって出土した。

縄文時代と考えられる土壙内からは、若干の土器小片、黒曜石等が出土した。

まとめ　時期的には、出土した須恵器が６世紀後半～末に位置づけられるが、石室の形態はそれよりも若干古いと考えられ、追葬がその時期と考えた方が無難であろう。

また、従来当該地周辺では、縄文時代の遺物は出土することが多かったが、遺構の発見例は少なく、今回の遺構の検出は、縄文時代の調査への今後の指針を与えたと言えよう。

報告書は1998年度刊行の予定である。

１．調査地点位置図(14下和白.2774　1:8000)

２．１号墳(右)と２号墳(左)(南から)

３．１号墳石室(西から)

9739 比恵遺跡群第63次（HIE-63）

所 在 地　博多区博多駅南６丁目17-5
調査原因　井同住宅建設
調査期間　1997.9.6～10.3
調査面積　174.5㎡
担 当 者　宮井善朗
処　　置　記録保存

位置・環境　調査地点は遺跡の西南側にあたり、那珂遺跡との境界にも近い位置である。

検出遺構　弥生時代の遺構としては、井戸１基(中期？)、住居跡３基等がある。井戸は現況で2.5ｍほどを測り、土器、木器などが多数出土した。中期末と考えられる。古墳時代の遺構として、前期初頭頃の井戸がある。半分調査区外に出るが、掘り下げ困難なほど多量の土器が出土した。

古代の遺構としては、道路状遺構がある。路面は土器細片、小礫等を踏み固めており、現況で10～15㎝ほどの厚さがある。側溝は東側のみの検出で、道幅は不明である。側溝は一度切り直されており、新しい方の側溝は道路面を切り、奈良時代までの土器を含む。

出土遺物　出土遺物は総量でコンテナ10箱である．土器がほとんどであるが、路面から器種不明の青銅器が出土している。

まとめ　今回調査では、古代の道路状遺構の検出が注目される。奈良時代以前に敷設されたと考えられ、周辺で検出されているいわゆる「那津官家」関連とされる建物群との関係が示唆される。報告書は1998年度以降刊行予定である。

1．調査地点位置図(37東光寺.127 1:8000)

2．道路状遺構(北から)

3．古墳時代初頭井戸(北から)

9740 香椎B遺跡群第4次調査（KSB-4）
大日古墳群1次調査（DAN-1）

所在地	東区大字香椎字大日他	調査面積	1,516㎡・古墳2基
調査原因	宅地造成	担当者	瀧本正志・田上勇一郎
調査期間	1997.9.4～1998.3.31	処置	記録保存

位置・環境　香椎B遺跡は「香椎宮」東側一帯に広がる古代から中世の遺跡である。今回の調査対象地は中世の山城「御飯の山城」が所在する山から東に派生する丘陵である。これまでに、山城址の他、中世の屋敷、寺院、火葬墓、水田跡等が調査されている。

検出遺構　丘陵の南裾に、6世紀末～7世紀初頭の須恵器窯1基、12世紀代の土壙、溝、柱穴群、6世紀末～7世紀初頭の古墳4基を検出した。

須恵器窯は焼成部の一部と煙道部しか残存していなかった。煙突部の周囲には周溝が検出された。

古墳は横穴式石室を主体部とする円墳であり、南側に開口している。天井石は残存していなかった。また、1号墳を除いて石室の奥しか残っていなかった。1号墳の石室は中世に利用されていたようである。

出土遺物　遺物総量はコンテナ2箱分である。須恵器窯からは遺物が出土しなかったが、周辺から須恵器の坏が採集されている。

中世の遺構群からは12世紀代の白磁椀・皿、青磁椀、土師器坏・皿、瓦などが出土した。

古墳は1号墳から須恵器の坏、13世紀代の青磁椀、2号噴から須恵器の坏、平瓶、4号噴からガラス小玉が出土している。

まとめ　これまで香椎地域では知られていなかった古墳群や須恵器窯の存在が明らかになった。今後の調査で同時期の生活域の発見が期待される。また、中世の集落が北側の山裾まで伸びていることが明らかになった。

2000年度に報告書刊行の予定である。

1．調査地点位置図(17浜男,6城ノ越山.14･2783 1:8000)

2．須恵器窯焼成部(南から)

3．大日古墳群1号墳全景(南から)

9741 那珂遺跡群第64次調査（NAK-64）

所 在 地　博多区竹下３丁目1-13
調査原因　タンク建設
調査期間　1997.9.22～1998.8.31（終了予定）
調査面積　6,700㎡
担 当 者　長家　伸
処　　置　記録保存

位置・環境　那珂遺跡群は、福岡平野を北流する那珂川と御笠川に挟まれた洪積台地上に立地する。本調査地点はアサヒビール竹下工場内の施設増設に伴う調査である。本工場内では現在までに９地点で調査が行われており、弥生時代～中世の多量の遺構・遺物を検出している。また工場北側には古墳時代後期の前方後円墳である東光寺剣塚古墳が存在する。

検出遺構　遺構面は表土直下の鳥栖ローム上面で標高約7.5ｍを測る。遺構面は既存建物の撹乱・基礎による削平が著しく、東半部分の遺構残存状態は不良である。また対象地の南側1/4程度は谷部分にあたり、氾濫による粗砂層が厚く堆積していた。遺構は対象地西側及び台地の縁辺部分を中心とする範囲で検出した。現在までに検出した遺構は弥生時代前期～中期の竪穴住居跡１棟・貯蔵穴30基・甕棺３基、古墳時代後期の竪穴住居跡10棟程度、古代の掘立柱建物１棟以上、井戸１基、中世の井戸２基、土壙墓１基、掘立柱建物等である。貯蔵穴は調査区北西側に集中しており一群を形成している。また古代に位置づけられる大型の掘立柱建物は２間×２間で、柱穴掘方は径1.5ｍ～２ｍ・深さ１ｍ・柱痕35㎝である。周辺にこれと関連する遺構がなく性格については不明瞭であるが官衙的な施設の一部である可能性も考えられる。

出土遺物　出土遺物は現在までに弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、木器、鉄器等がコンテナ80箱程度出土している。

まとめ　対象地内の削平が著しく遺構の遺存状態が不良であったが、弥生時代～中世に至る遺構・遺物が検出されている。特に弥生時代前期の貯蔵穴、古代の建物は注目される。今後の周辺の調査が期待される。報告書は2000年度刊行予定。

１．調査地点位置図(37東光寺.85　1:8000)

２．調査区北側(東から)

３．大型建物(西から)

9742 梅林遺跡第１次調査（UBY-1）

所在地	城南区梅林２丁目467－1他	調査面積	約2,150㎡
調査原因	外環状道路・地下鉄3号線建設	担当者	井澤洋一
調査期間	1997.10.14～1998.3.12	処置	記録保存

位置・環境　遺跡は、福岡大学病院が立地する標高30～40ｍの舌状台地で西北方向に小さく突き出した丘陵先端の低地上に位置し、かっての地目は水田である。

当該地は地下げのため、丘陵主丘との比高差約10ｍを測り、現標高は約22ｍである。

検出遺構　発掘調査では、縄文時代から江戸時代までの遺構・遺物を検出した。遺跡の主体となるのは古墳時代の掘立柱建物群及び、古墳時代から江戸時代までの水田跡である。

古墳時代の掘立柱建物24棟（倉庫跡11棟、住居跡13棟）、土壙７基、竪穴住居跡２棟、古墳時代～平安時代の溝12条、古墳時代～江戸時代の水田跡６面である。

掘立柱建物の内、側柱建物は全て、主柱の間に40～50㎝間隔に間柱を備えており、且つ建物配列が南北及び、東西方向に整然と配置されている。又、庇や下屋を備えた主殿、及び副屋と考えられる建物も存在する。

出土遺物　縄文時代の押型文土器、磨消縄文土器、打製石鏃、石斧、古墳時代の須恵器坏・蓋・甕、土師器・甕・鉢・高坏・甑、鉄製刀子、鉄滓、平安時代の土師器椀、皿、鎌倉時代の鍋、中国製青磁椀・白磁椀・陶器、戦国時代の摺鉢、鍋、土師器皿など、コンテナ110箱分が出土。

ま と め　この遺跡の西方約500ｍの地点には、前方後円墳の梅林古墳（5世紀後半～6世紀中頃）が存在しており、掘立柱建物群は、この古墳の被葬者と直接関係した施設（居館）と考えられる。又、一方では、これらの整然とした建物群は、大和政権下において強力な地域支配構造が存在したことを示すものであり、536年に那津に築造されたとされる「那津官家」の下級組織の施設とも考えられる。

1．調査地点位置図（74七隈.2775 1:8000）

2．遺構全景（南から）

3．西側水田跡水路内井堰の状態（西から）

9743 烏田遺跡第１次（KRS-1）

所　在　地　東区土井２丁目地内
調査原因　都市計画道路粕屋久山線新設
調査期間　1997.９.24～９.25
調査面積　162㎡
担　当　者　大庭康時
処　　置　記録保存

位置・環境　烏田遺跡は、福岡市の東部を西流する多々良川の右岸に位置する。多々良川近くまで迫った土井の丘陵地から、急激に下降した緩斜面上に当たる。現況は水田であり、床土を除去した灰色粘質土層の上面に遺構が営まれており、灰色粘質土層の下は、河川による砂礫層となる。なお、本遺跡はこれまで存在が確認されていなかった新発見の遺跡である。

検出遺構　柱穴・土壙・井戸・溝などを検出したが、遺構密度は薄い。

土壙には、不整形・楕円形を呈するものが多かった。４号土壙は、長方形のプランを呈し、一方の小口近くに枕状の石を置いていた。この石の下からは、副葬されたと思われる土師器皿が出土しており、中世の土壙墓と考えられる。

井戸は、切り合って２基を調査した。１号井戸は、井戸側に小礫を積むもので、朝鮮王朝白磁椀・土鍋・瓦等の出土から16世紀頃の井戸と推定できる。２号井戸は素掘りで、土師器・須恵器片が出土した。これらの遺物からは、８世紀末頃の時期が考えられる。

溝は、浅い「Ｖ」字状の小溝で、区画溝と考えている。

出土遺物　出土遺物は、土師器・須恵器・陶磁器・瓦などが、コンテナ１箱出土した。

まとめ　新発見の遺跡で、周辺に発掘調査例がなく、遺跡の具体的な姿を探る手がかりにかける。今後の発掘調査に期待するしかないが、中世集落遺跡の一端をとらえたものと言うことはできるだろう。

報告書は1998年度刊行予定。

１．調査地点位置図(8土井.2777 1:8000)

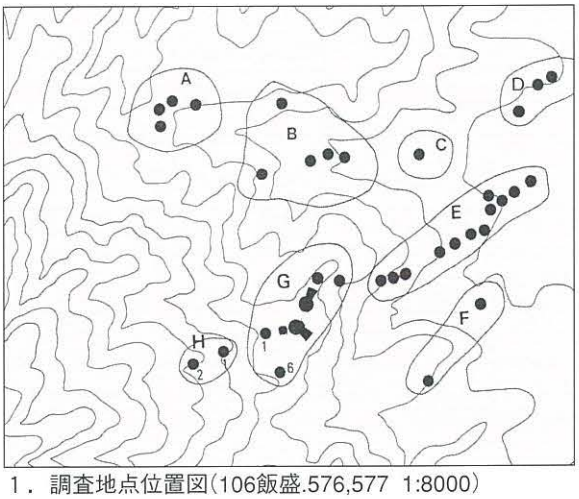
２．遺構検出状況(南西から)

３．1号井戸(西から)

9744 羽根戸南古墳群第３次調査（HMK-G･H）

所　在　地　西区羽根戸地内　　調査面積　古墳４基（97年度）
調査原因　配水池建設　　担　当　者　米倉秀紀・星野恵美
調査期間　1997.10.17～調査中　　処　　置　記録保存

位置・環境　羽根戸南古墳群は、早良平野と今宿平野を東西に分かつ山塊の一つである飯盛山から早良平野に延びる支丘の先端に位置している。調査区の標高は約42～112ｍを測り、古墳群からは早良平野・博多湾を眺望できる。昭和61年にＤ群の１基とＥ群の５基が調査されている。今回調査の対象となるのはＥ群の７基・Ｆ群の１基・Ｇ群の７基・Ｈ群の２基の計17基である。今年度調査した古墳はＧ群の２基と新たに発見されたＨ群の２基である。



１．調査地点位置図(106飯盛.576,577　1:8000)

検出遺構　古墳はいずれも横穴式石室を主体部とする円墳であり、G-1号墳は尾根上に、G-6号墳・H-1･2号墳は斜面に造られている。G-1号墳の遺存状況は石室・墳丘ともに良好であり、墳径は約15ｍを測る。墳丘の盛土には細かく版築している。玄室は２ｍ×２ｍの正方形を呈し、高さ３ｍを測る。羨道部の長さは1.8ｍ、墓道は現存長で2.4ｍである。G-6号墳の遺存状況は比較的良好であり、墳径は約10ｍを測る。玄室は1.7ｍ×1.7ｍの正方形を呈し、高さ1.8ｍを測る。羨道部の長さは２ｍ、墓道は３ｍである。H-1・2号墳の石室は半壊しており、墳丘の遺存状況も悪い。出土遺物からこれらの古墳は６～７世紀に造営されたものと思われる。墳丘の周囲からは焼土・木炭を多く含んだ土壙を検出した。

２．調査区全景Ｇ群(西から)

出土遺物　G-1号：耳環２点・琥珀玉１点・瑪瑙製管玉１点・ガラス小玉26点・滑石製臼玉２点・鉄製品（刀・刀子・鉄鏃・馬具他）・須恵器・土師器
G-6号：耳環１点・須恵器・土師器
H-1号：須恵器・鉄滓
H-2号：鉄製品・須恵器・土師器・鉄滓
事業は今年度と次年度の継続であり、大部分を次年度に調査するため詳細は省きたい。
報告書は2000年度に発行予定である。

３．G-1号墳墳丘遺存状況(南から)

9745 井尻Ｂ遺跡群第9次調査（IZB-9）

所　在　地　南区井尻５丁目6－33
調査原因　共同住宅建設
調査期間　1997.10.6～10.15
調査面積　132.5㎡
担　当　者　宮井善朗
処　　置　記録保存

位置・環境　調査地点は、遺跡の南西部に近く、江戸時代に広形銅矛鋳型が出土した地録神社の北側に隣接する。

検出遺構　遺構面は大きな削平は受けていなかったが、遺構の密度は極めて薄い。検出遺構は竪穴住居跡１基とピットなどである。住居跡は5.5×4ｍ程の長方形で、両短辺側にそれぞれベッド状遺構を持つ。主柱穴は２本で、中央に炉跡を持つ。形態から弥生時代後期のものと考えられる。この他掘立柱建物１棟を検出した。

出土遺物　出土遺物は総量でコンテナ1箱である。

まとめ　今回の調査では、弥生時代後期の遺構が検出された。当該期は井尻Ｂ遺跡に、最も集落が盛行する時期で、住居の数も激増し、青銅器の鋳造も行なわれている。従って、今回の調査地点のように、当該期の遺構しか存在しない地点もあるのかもしれない。

1．調査地点位置図(25井尻.90 1:8000)

2．調査区全景(南から)

3．弥生時代後期住居跡(東から)

9746 女原遺跡群第５次調査（MBR-5）

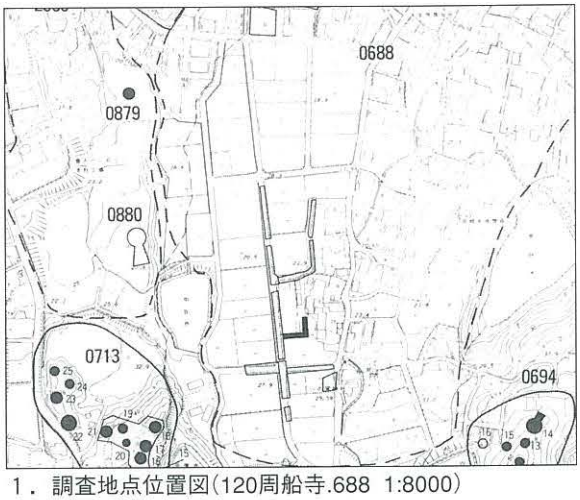
所　在　地　西区女原ムロ279-1
調査原因　宅地造成
調査期間　1997.10.7～10.27
調査面積　250㎡
担　当　者　荒牧宏行
処　　置　記録保存

位置・環境　女原遺跡群は高祖山（標高416ｍ）から派生した丘陵と地山が砂礫である低位段丘面から形成されている。周辺の丘陵先端部には前方後円墳の山の鼻１、２号墳、若八幡宮古墳、丸隈山古墳が立地し、北側の女原遺跡群第３次調査では陶質土器や大型掘立柱建物跡が検出される等、拠点的な位置を占めているものと考えられる。調査地点は標高25.4ｍを測り、検出面以下、砂礫が堆積する。

検出遺構　削平が著しく、検出遺構の密度は疎であるが、古墳時代後期（６世紀後半以降）の柱穴群と中世～近世の溝を２条検出した。南側では古墳後期以降の包含層が堆積し、比較的遺構の遺存が良好である。

出土遺物　遺物は総量コンテナ１箱分である。溝から染付椀、土師質捏鉢、土師皿、柱穴が、包含層からは古墳時代後期の小形丸底壷、須恵器等が出土した。

ま　と　め　既往の調査では、古墳時代後期の集落とみられる竪穴住居跡を主に検出し、今回の調査においても当該期の遺構、遺物が出土した。集落の全体像を見出すには未だ程遠いが、前方後円墳を含む古墳群との関連、第３次調査で出土した陶質土器や、北部九州編年のⅡ期の窯跡である新開窯跡が周辺に立地していることも考慮すると、今後注意される地点である。



１．調査地点位置図(120周船寺.688　1:8000)

２．調査区南側全景(北から)

３．調査区東側全景(北から)

9748 田村遺跡群第20次調査（TMR-20）

所 在 地　早良区田村４丁目673-1
調査原因　店舗兼共同住宅建設
調査期間　1997.10.20～11.14
調査面積　377㎡
担 当 者　加藤良彦
処　　置　記録保存

位置・環境　本調査区は、早良平野の中央南側、室見川の右岸の沖積微高地上に広がる田村遺跡群の北東部に位置する。北側に接する道路建設に伴い第17次調査が実施されている。

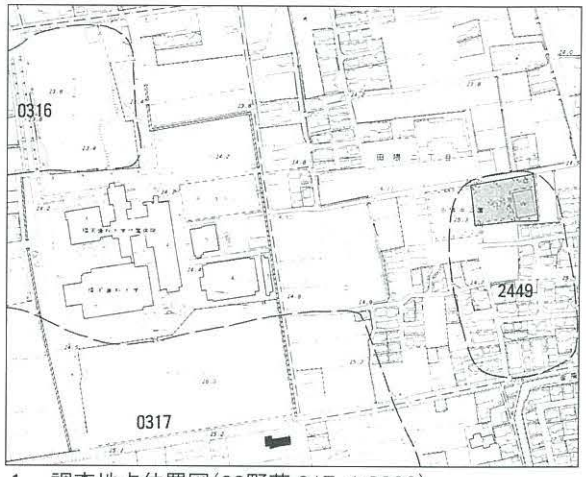
旧状は水田で、標高約15ｍの耕作土直下30㎝の暗黄灰色粘質土上面で遺構が検出される。従前の削平が著しく遺構の残りは良くない。

検出遺構　遺構は弥生時代中期の土壙５基、溝２条、柱穴多数で、調査区西側に多く分布する。西側の遺構面は南北方向の旧河川のシルト層上で、同層中より縄文時代前期曽畑式土器片１片、同後晩期粗製土器片２片を検出している。

出土遺物　遺物は２条の溝を中心に土壙・柱穴内から弥生時代中期の土器片・石斧・叩石等の石器がコンテナ４箱分が出土。弥生時代以外の遺物は上記の縄文土器片３片のみである。

まとめ　検出された遺構は弥生時代中期のみで、遺物も３点の縄文土器片以外は弥生土器・石器のみである。北に隣接する第17条調査では、弥生時代中期竪穴住居跡３軒、溝１条が検出さており、本調査区と同様の様相を呈している。残存状況も同様で著しく削平を受けており、住居跡は深さ５㎝内外で残るのみである。本調査区で検出される柱穴出土の遺物はすべて弥生土器片であり、方形に巡る掘立柱建物も現況では組めないところから、これらは弥生時代中期の竪穴住居跡の遺存である可能性が高い。

南北方向の溝は、幅1.2ｍ程の小溝で、第17次調査区からの延長部で延べ20ｍを測る。第17次調査区では、東に緩く孤を描いて検出されたが、本調査区内では逆に西に緩く孤を描いた状態で検出されている。



1．調査地点位置図(83野芥.317 1:8000)

2．調査区全景(西から)

3．溝SD05(南から)

9750 箱崎遺跡群第13次（HKZ-13）

所　在　地　東区馬出五丁目520・521
調査原因　ビル建設
調査期間　1997.10.27～12.2
調査面積　297㎡
担　当　者　佐藤一郎
処　　置　記録保存

位置・環境　本調査地は、博多湾に面した古砂丘上に位置する。調査地区は筥崎八幡宮の南西100ｍに位置し、南側は地下鉄建設に伴い調査されている。遺構は現地表下１～1.5ｍの黄褐色砂質土上面（標高２ｍ）で確認された。

検出遺構　調査区西側では14世紀後半～15世紀前半の土壙10基、溝２条、柱穴12個を検出した。土壙の内３基は栗石が据えられ、3.4ｍの等間隔に並ぶ。礎石建物の柱基部か。東偏30°に主軸方位を取る。柱穴の内３個は根石を有する。攪乱等により他の柱穴が多く失われているために掘立柱建物としてまとめるにはデータ不足であるが、柱間距離1.4ｍ前後で、２間×５間以上の東西棟が復元できる。調査区東側では、調査区西側でみられた14世紀後半～15世紀前半の遺構に加え、15世紀後半～16世紀後半の遺構を検出したが、西側では全く検出されなかった井戸を７基検出した。内５基には桶組、１基には瓦組の井戸枠が残存し、残り１基は掘方のみ検出した。瓦組の井戸ＳＥ24は、上部では、コビキ痕が残る厚手の瓦が筒状に、下部では桶が組まれていた。他に底面粘土貼りの方形土壙２基を検出した。

出土遺物　遺構の埋土からは龍泉窯系青磁、白磁、備前焼擂鉢、常滑焼甕、土師器、滑石製石鍋、瓦片などが出土している。井戸ＳＥ38の井戸枠内から古瀬戸花瓶（鉄釉・口縁部欠失）が出土した。

まとめ　検出した遺構から、調査区西側が建物部分であるのに対し、東側は建物裏手の空き地部分に相当すると考えられた。

報告書は1998年度に刊行予定である。

1．調査地点位置図（34箱崎.2639 1:8000）

2．調査区西側（東から）

3．調査区東側（東から）

9751 福岡城跡第40次調査（FUE-40）

所　在　地　中央区城内1-5地内
調査原因　5号堀公園整備
調査期間　1997.8.18～9.10
調査面積　152㎡
担　当　者　田中壽夫
処　　置　盛土保存

位置・環境　福岡城は、油山山塊の一つである赤坂山から博多湾に向かって北に延びる旧福崎丘陵先端部立地する平山城である。今回調査した5号堀は、福岡城南西部の追廻門南側に位置する内堀の一角である。本来は大堀(濠)と連結して搦手を防御する重要な地点にあたる。

調査の目的　今回の調査は平成8年度から進められている5号堀周辺の整備事業の一環として、5号濠内壁の平面形状の考古学的な復原を目的として、絵図を参考に2地点についてトレンチを設定し、石垣の有無について確認調査を実施した。

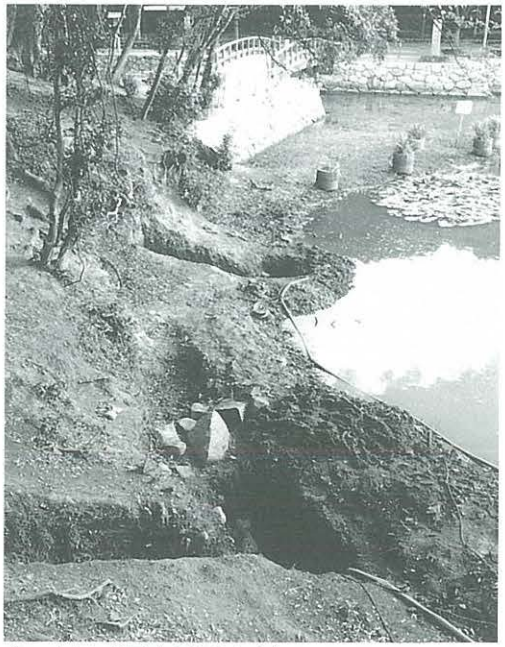
検出遺構　調査の結果、幕末から明治期まで存在していたと推定される石垣が確認でき、幕末期に描かれた絵図に表現された石垣の位置とほぼ合致するものと思われたが、石垣の遺存状況が悪く、また、濠の水位が高いこともあって、その構造及び規模については明確にできなかった。

出土遺物　出土遺物石垣の裏込めから江戸末期～明治期の瓦（平･丸瓦）、肥前系陶磁器などが出土した。

まとめ　今回の調査では5号堀内壁の平面形の全容については確認できなかったが、福岡城追廻門跡周辺内堀の復元については、将来予定されている当該地周辺の調査を待って今後の検討課題としておきたい。

1．調査地点位置図(60舞鶴.193　1:8000)

2．1区検出石垣(西から)


3．1区･2区全景(北から)

9752 博多遺跡群第102次調査（HKT-102）

所　在　地　博多区上呉服町３
調査原因　都市計画道路新設
調査期間　1997.11.11～1998.2.20
調査面積　212.5㎡
担　当　者　大庭康時・本田浩二郎
処　　置　記録保存

位置・環境　博多遺跡群は、博多湾の奥に形成された三列の砂丘上に乗っている。本調査地点は、古代から生活が営まれていた二列目の砂丘の北端付近に当たる。また、鎌倉時代初頭には、近接して聖福寺が建立され、中世後半期にはその寺内町に含まれていたことが推測できる。

検出遺構　検出した遺構は、井戸・土壙・柱穴・溝などである。時期としては、古代から現代に及んでいる。近現代の建物等による撹乱は全く見られず、遺存状態は良好といえる。

出土遺物　出土遺物は、弥生土器・古式土師器・須恵器・輸入陶磁器・国産陶磁器・土器などがコンテナ134箱、金属製品が１箱、木製品が15箱、獣骨４箱のほか、人骨が数片出土している。

まとめ　本調査地点の基盤層は、河川の河口近くに堆積した粗砂層であり、これを埋め立てた上に遺構が営まれていた。粗砂層中には東海系Ｓ字状口縁台付甕など、弥生時代後期から古墳時代初頭の遺物が含まれている。埋め立て層の上には、古代・中世初頭の遺構が営まれる。その後、13世紀前半から14世紀前半の間に、厚さ２ｍにも及ぶ整地層が作られる。これには、数回の断続がみられ、さらに細かく火災面と硬化面が確認できた。14世紀後半以後の堆積は薄く、明瞭な整地面は見あたらない。

整地層及びこれに営まれた遺構から出土する遺物には、青磁・白磁・青白磁の優品が多く、京都系土師器の出土点数も博多遺跡の他の地点と比べて突出して多い。立地からみて、聖福寺もしくはその子院の寺地であった可能性が強いものと思われる。1999年度報告書刊行予定。

1．調査地点位置図(48千代博多,49天神.121　1:8000)

2．第2面全景(南西から)

3．第６面馬骨出土状況(西から)

9754 博多遺跡群第103次（HKT-103）

所 在 地　博多区冷泉町２番
調査原因　共同住宅併用駐車場建設
調査期間　1997.12.8～２.28
調査面積　72㎡
担 当 者　佐藤一郎
処　　置　記録保存

位置・環境　調査地区は、博多遺跡群の南西部に位置し、その北西では第80次調査が行われている。調査は表土剥ぎから開始、遺構が確認された現地表下2.2～2.4ｍの灰褐色砂質土（Ⅱ層）上面（標高2.4ｍ）、灰色砂（Ⅲ層）上面（標高1.9ｍ）、地山（黄白色粗砂）上面（標高1.6ｍ）で遺構の検出を行った。

検出遺構　Ⅱ層上面で検出された遺構は、15世紀後半から16世紀前半の溝ＳＤ03･05、14世紀後半から15世紀前半の溝SD01・04、13世紀後半から14世紀前半の溝SD02・10、井戸SE15、12世紀後半～13世紀前半の溝SD08、井戸SE06、柱穴・ピット状遺構３である。SD01・03～05の方位は、櫛田神社の方位と同じであり、現在の町割りの主軸方位とは異なる。Ⅲ層上面では14世紀後半から15世紀前半の溝SD12・14、11世紀後半から12世紀紀前半の溝SD07・16・17の柱穴・ピット状遺構10を検出した。地山上面では８世紀前半の溝SD18を検出した。

出土遺構　溝SD01・04から出土した遺物のほとんどは瓦で、三つ巴文の軒丸、唐草文の軒平がみられる。出土遺物の量的なピークは12世紀後半～13世紀前半で、土師器、輸入陶磁器がそのほとんどを占める。溝SD08からは木造仏の手が出土している。指は欠失しているが、甲には金箔が残る。

まとめ　今回の調査では溝が計12条検出された。地山は河川堆積による粗砂からなり、砂丘上には立地していない。居住には適していない立地条件から、境界を画するための溝が多時期にわたって造営されたと考えられる。

報告書は1999年度に刊行予定である。

1．調査地点位置図（49天神.121　1:8000）

2．Ⅱ層上面前面（北から）

3．Ⅲ層上面全景（北から）

9755 水町古墳第１次調査（MIM-1）

所　在　地　博多区大字下月隈902
調査原因　空港整備
調査期間　1997.12.8～1998.3.6
調査面積　190㎡・古墳１基
担　当　者　榎本義嗣
処　　置　記録保存

位置・環境　水町古墳は、福岡平野の東側を区切る月隈丘陵から北西に派生する標高約12ｍの支丘端部に単独に立地する円墳である。墳丘は宅地造成等により改変がすすみ、現況での平面形は楕円形を呈する。

検出遺構　古墳築造にあたっては基底面の整地後に厚さ約0.8ｍの版築を施し、平坦面を造り出した上で、石室掘方を掘り込んでいる。墳丘の盛土はこの面を基底に行っているが、墳頂部は削平を受ける。現存で、地山整地面から2.2ｍの高さを有する。周囲の削平により墳丘裾部及び周溝は削平されるが、墳径は15ｍ以上と推定される。主体部として、S-42°-Eに開口する横穴式石室と墳丘西側に築造された小石室１基を確認した。横穴式石室の墓道、羨道は削平のため消失する。玄室も奥壁及び側壁の腰石１石分しか遺存していない。奥壁は幅2.0ｍ、高さ1.0～1.3ｍの台形状の腰石を１石据える。側壁は横長の腰石を用い、その上位はやや大振りな転石を用いて壁体を構築するが天井石は遺存しない。奥壁幅は1.9ｍを測る。床面には屍床と考えられる２枚の板石を敷き、赤色顔料が塗布される。なお、石室は中世に再利用されており、原位置を留めた遺物の出土は無かった。小石室は北東部を削平される。主軸方位は横穴式石室に類似する。幅約1.7ｍの掘方を円墳墳丘より掘り込み、やや横長な方形の転石を腰石として据える。内法幅は0.7ｍで、天井石は遺存しない。北東側の側壁際から長さ約１ｍの鉄刀１口、鉄鏃10数本が出土した。

出土遺物　上述した以外には墳丘中より須恵器甕・器台等がコンテナ２箱分が出土した。

まとめ　墳丘中から６世紀前半の遺物が出土しており、築造時期を示すものと考えられる。立地や古墳築造方法から有力者層の墳墓である可能性を有する。

調査報告書は2000年に刊行予定である。

１．調査地点位置図（10下月隈.2624　1:8000）

２．墳丘遺存状況（南東から）

３．小石室内遺物出土状況（南西から）

9756 下月隈鳥越遺跡第１次調査（STO-1）

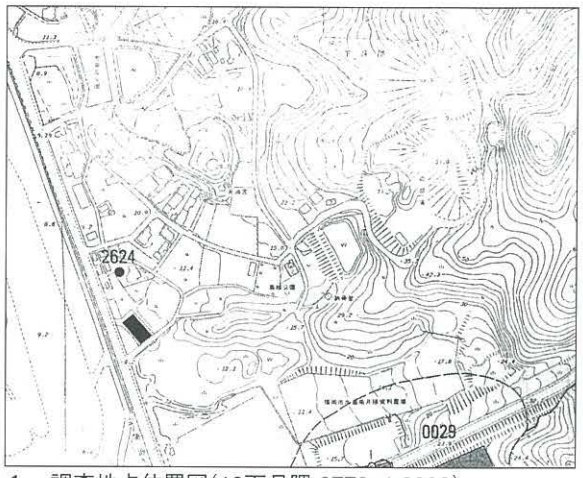
所　在　地　博多区大字下月隈891他
調査原因　空港整備
調査期間　1997.12.８～1998.３.６
調査面積　350㎡
担　当　者　榎本義嗣
処　　置　記録保存

位置・環境　下月隈鳥越遺跡は、福岡平野の東側を区切る月隈丘陵裾部の沖積地に立地し、表土下0.7～1.1ｍの淡黄褐色粘性シルトの上面で遺構が確認できた。遺構面は西側に緩く傾斜を有し、その標高は8.3～8.7ｍを測る。

検出遺構　奈良時代の掘立柱建物１棟、溝、ピットを確認した。溝（SD001）は調査区の東端に位置し、幅約２ｍ、深さ0.9ｍを測り、逆台形の断面を呈する。方向は磁北から37°西偏し、両端は調査区外に延長している。この溝の延伸方位は周辺に遺存する条里地割の方向に合致する。溝底からは８世紀前半の土師器、須恵器が出土した。また、SD001に切られる浅い溝を数条検出したが、方位がわずかに異なっている。掘立柱建物の主軸方位はSD001に類似し、ほぼ並行して西側に立地するが、一部は調査区外に位置する。規模は梁間２間(柱間２ｍ)以上、桁行４間（柱間2.5ｍ）である。柱穴は幅約70㎝、長さ約90㎝の隅丸長方形で、深さ50㎝が遺存する。確認できた柱痕跡の径は約20㎝であった。極少量ながらSD001と同時期の須恵器が出土した。

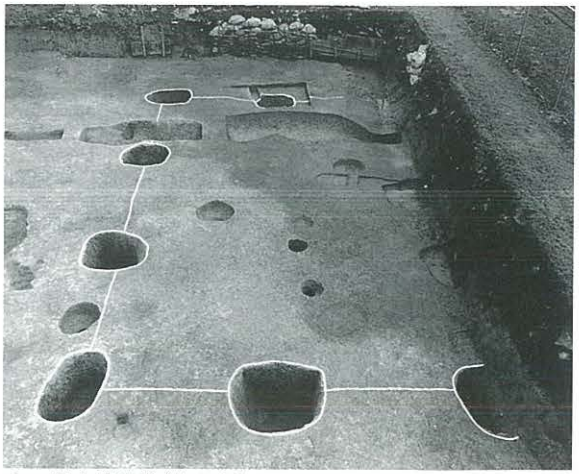
出土遺物　奈良時代の土師器、須恵器がコンテナ数にして３箱出土した。大半は上述したSD001からの出土である。

まとめ　SD001は本遺跡の南約１ｋｍに位置する下月隈Ｃ遺跡（第２次調査）でこの溝と同一方位で、ほぼ同時期の水田遺構が確認されていることや、立地、規模からみて本平野の東端に位置する主要水路であると考えられる。現存する条里地割の初現の時期や当該期の水田経営や区画を考察する上で注目される。また、掘立柱建物の機能については公的施設の可能性も考えられ、今後の検討を要する。調査報告書は1999年度に刊行の予定である。



１．調査地点位置図(10下月隈.2778 1:8000)

２．調査区全景(北から)


３．掘立柱建物(北から)

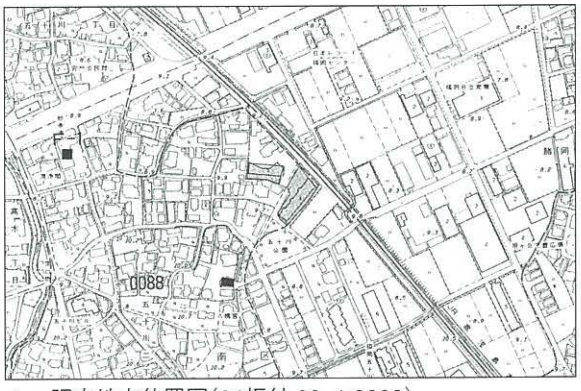
9757 五十川遺跡群第５次調査（GJK-5）

所 在 地　南区五十川2丁目17－20　調査面積　96㎡
調査原因　共同住宅　担 当 者　宮井善朗
調査期間　1997.12.4～12.11　処　　置　記録保存

位置・環境　五十川遺跡は、春日丘陵から北側へ延びる台地の一つに立地する遺跡で、福岡市有数の遺跡である那珂遺跡群、井尻遺跡群の中間に位置する。遺構検出面もこの両遺跡と同様、赤褐色の鳥栖ローム面である。

検出遺構　調査地点は五十川八幡社の北側に接し、３次、４次調査地点の北側に位置する。検出遺構は住居跡１基、溝２条、掘立柱建物、土壙、ピットなどである。遺物は少ないが、判明する遺構はほぼ6～7世紀のものである。溝はほぼ東西に走るやや深いものと、浅く「L」字状に曲がるものがある。掘立柱建物は２×４間以上のものが１棟あり、他にも建物の一部と考えられるものもある。南側の３次、４次地点では古代から中世の遺構が多く検出されているが、今回調査地点では、中世遺構は検出されていない。

出土遺物　総量でコンテナ2箱程度出土した。



１．調査地点位置図(24板付.88 1:8000)

２．調査区全景(南から)

9758 井尻Ｂ遺跡群第10次調査（IZB-10）

所 在 地　南区井尻１丁目27-13　調査面積　153㎡
調査原因　個人専用住宅　担 当 者　宮井善朗
調査期間　1997.12.17～1998.1.24　処　　置　記録保存

位置・環境　調査地点は、井尻Ｂ遺跡ののる台地の西辺にあたる。南東には初期瓦が出土した第３次地点、北側に弥生中期遺構が検出された第４次地点がある。

検出遺構　検出した遺構は、弥生時代～古代にわたる。弥生時代としては溝１条、井戸１基、がある。溝は幅２ｍ、深さ1.5ｍの大規模なもので、中期中頃から後半と考えられる。調査区内で立ち上がっており、陸橋部を持つ。陸橋部には門遺構の可能性があるピットが検出されている。陸橋部正面の大形のピットは溝と同時期の可能性が高い。溝床面から井戸１基を検出した。層位的には溝より古いが、出土土器は溝と大きく隔たらない。古墳時代の遺構としては溝１条、土壙１基がある。溝は弥生時代後期～古墳時代と考えられ、「L」字状に曲がる。土壙は古墳時代前期で、弥生中期の溝を切る。古代の遺構としては大形の掘立柱建物がある。ほぼ南北方向を向き、３間×１間以上の総柱と考えられる。

出土遺物　コンテナ20箱分が出土した。

１．調査地点位置図(25井尻.90 1:8000)

２．調査区全景(西から)

9759 有田遺跡群第188次調査（ART-188）

所 在 地　早良区有田一丁目31-6
調査原因　共同住宅建設
調査期間　1997.12.15～12.24
調査面積　249㎡
担 当 者　加藤隆也
処　　置　記録保存

位置・環境　調査地点は有田遺跡群中央の最高所に位置する。東側隣接地には第181次調査地点、西側隣接地には第95次調査地点がある。現況は畑地である。

遺構と遺物　約25㎝の耕作土を除去したローム層上面にて調査を行った。調査区西側は昭和40年代の区画整理で大きく削られており、北西端で溝の一部がみられただけであった。主な遺構は調査区東側の高所部にて検出された。遺構は溝２条、土壙１基、多数の柱穴がみられる。溝の一つは東西に延び、断面「Ｖ」字形を呈する。幅２ｍ、深さ1.5ｍを測る。遺物は青磁、石鍋、擂鉢、染付椀などが出土している。もう一つの溝は南北に延びるもので前述の溝に切られる。断面は逆台形を呈し、幅１～1.4ｍ、深さ約35ｃｍを測る。出土遺物には須恵器の坏蓋・甕、土師器甕などの破片が見られた。遺物の総数はコンテナ４箱分が出土した。

ま と め　本調査地点は、弥生時代前期の環濠の中に位置すると思われるが、この時期の遺構は検出されなかった。また周辺では律令期の官衙的遺構が数多く検出されており、早良郡衙との関連が指摘されている。断面逆台形の南北溝は、この時期よりもやや先行するもので、磁北方向からやや東に偏して直線的に延びることから、建物群等を区画する溝ではないかと考えられる。

報告書は1999年度刊行予定である。

１．調査地点位置図(82原.309　1:8000)

２．調査区全景(北から)

３．溝完掘状況(南から)

9760 斜ヶ浦瓦窯址第４次調査（NNG-4）

所　在　地　西区生の松原４丁目1760
調査原因　確認調査
調査期間　1997.12.18～1998.3.25
調査面積　90㎡
担　当　者　加藤良彦
処　　置　調査後盛土保存

位置・環境　本調査区は、早良平野の西際、長垂丘陵から北東に派生する舌状丘陵の東側斜面上に位置する。花崗岩風化土を地山とし、標高は14ｍ前後を測る。

大正７年に池の西側で瓦が採集されて以来、中山平次郎、玉泉大梁、高野孤鹿氏らにより３基の窯跡が確認され、「警」、「警固」、「伊貴作瓦」銘の瓦片が表採されており、平安時代の瓦窯として鴻臚館跡出土の瓦との類似が古くから指摘されていた。昭和47年には宅地造成に伴う調査で、窯の煙出し部分１基と瓦の集積が検出された。昨年度の調査では北側の堰堤に直交して７基の窯跡が確認され、２・５号窯内から「警固」銘瓦が出土している。

１．調査地点位置図(103長垂.515　1:8000)

検出遺構　今回は堰堤南斜面での窯体の範囲と窯構造の確認を目的に10本のトレンチを設定し調査を行った。その結果、前庭部の地山整形面と灰原を確認し、窯本体は堰堤内に焚口・燃焼室がおさまり、焼成室の大半はすでに削平されていることが判明した。窯本体の調査は４・７号窯で実施した。４号窯は残存長2.0ｍ、幅1.75ｍ、残存高1.15ｍで、地下式有階無段式登窯で、平面半円形の燃焼室に長さ1.5ｍで焼成室が残存していた。７号窯も同じく地下式有階無段式登窯で、検出長2.0ｍ、幅2.05ｍ、残存高0.80ｍで、焼成室が長さ0.70ｍ程残る。

２．４号窯(北西から)

出土遺物　４号窯から14弁単弁軒丸瓦が出土し、鴻臚館跡、香椎Ｂ遺跡、太宰府市来木瓦窯跡、安楽寺等の10世紀後半～12世紀前半の整地層等からの出土例と類似しており注目される。７号窯は床面直上に多量の瓦片が残存し、「伊貴作」銘瓦が検出された。これは鴻臚館跡出土品と同笵である。遺物はコンテナで10箱分採取した。

３．７号窯・８号窯物原(西から)

まとめ　窯の構造、瓦の文様と、平安時代の大宰府周辺の瓦工人、なかでも来木瓦窯跡との密接な関わりが伺われる。また、上下にわたっての窯の埋没関係により、生産地での瓦の前後関係が捉えられた意義は大きい。

9761 藤崎遺跡群第30次調査（FUA-30）

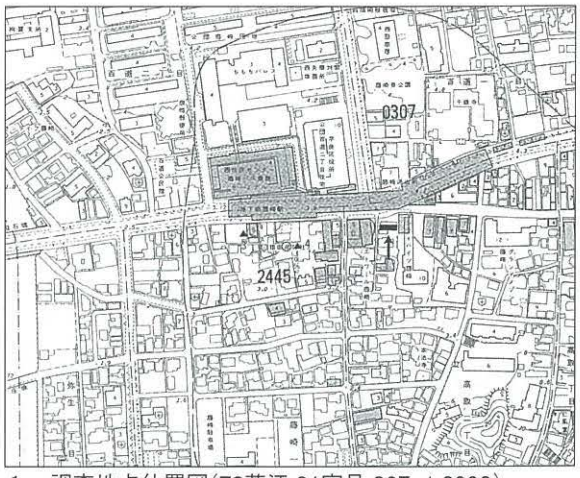
所　在　地　福岡市早良区高取2丁目159
調査原因　店舗建替
調査期間　1998.1.6～1.17
調査面積　65.2㎡
担　当　者　大塚紀宜
処　　置　記録保存

位置・環境　本調査区は、早良平野最北端の博多湾に面した砂丘上に形成された同遺跡群の南東側地区に位置する。調査区南東側には小山塊の基盤が迫り、砂丘の端部にあたる。

検出遺構　出土した遺構は、甕棺墓5基、溝状遺構1条、土壙1基で、甕棺墓5基のうち2基は上部が既に後世の開発によって破壊されており、底部部分が残るだけで、詳しいことは不明。残る3基も遺存状況は悪いが時期は判明しており、弥生時代中期後半に属するものと考えられる。また1基の小児用甕棺は、1個の壺形土器の口縁部を他の甕形土器の破片で覆っている。溝状遺構は調査区中央を南北方向に横切って、西側へ直角に折れ曲がって延びる平面形態を呈している。検出当初は方形周溝墓の周溝部分と考えていたが、発掘の進行にともない、出土した土器のなかに中世の土器があることが判明し、溝の時期は少なくとも中世以降に下るものと考えられる。土壙は楕円形に近い形で浅く、弥生時代の土器片が出土しているが、土壙の性格、用途等は不明。

出土遺物　出土遺物は総量でコンテナ6箱相当である。甕棺墓は小児棺を除いて、削平のため一部しか遺存しない。上層の客土中に破壊された甕棺片が多くみられる。

まとめ　今回の調査では、遺構の遺存する部分が狭く、後世の撹乱によって破壊された遺構が多い。この地点で甕棺が出土したことで、隣接する地点と合わせて甕棺の分布域が最確認された。また溝状遺構については、隣接する地点での発掘結果から東西方向に延びる中世の溝状遺構が存在し、本調査で検出された溝状遺構もこれに類する可能性が高い。報告書は1998年度刊行予定である。



1．調査地点位置図(72荒江,81室見.307　1:8000)

2．調査区西半部全景(東から)

3．調査区東半部全景(南東から)

9762 田島小松浦遺跡第１次調査（TKU-1）

所　在　地　田島二丁目、別府二丁目地内
調査原因　道路建設
調査期間　1997.11.13～1998.3.31
調査面積　695㎡
担　当　者　加藤隆也
処　　置　記録保存

位置・環境　本調査区は、樋井川西側の南から延びる丘陵上に立地し、標高約9.5ｍを測る。南東側400ｍには田島Ａ遺跡が、西側600ｍには別府遺跡、茶山遺跡が位置する。

検出遺構　南から北方向に向けて狭い谷が複数はしっており、今回の調査範囲は東西長となるため丘陵及び谷部を横断する調査となった。丘陵頂部は後世の削平のため遺構は確認されず、主な遺構は丘陵裾の斜面においてみられた。遺構は柱穴、土壙がみられたが、建物の規模、方向などの復元にまではいたらなかった。

出土遺物　出土遺物中もっとも時代的に遡るものは、縄文時代前期の黒曜石製石鏃が耕作土中より表採されている。遺構面上層の遺物包含層には奈良時代の遺物が混じっており、遺構からは古墳時代の遺物がみられる。谷部の調査では下層から12世紀頃の遺物がみられた。柱穴出土の遺物は少なく、須恵器、土師器が数点である。谷部からは平瓦が十数点、陶器、白磁などを伴って出土している。遺物は総数でコンテナ５箱分が出土した。

まとめ　丘陵上においては古墳時代、奈良時代に集落が営まれたことが明らかとなったが、遺構の密度がやや薄いことから、その期間は短いものであったと考えられる。また谷部の下層から12世紀頃の瓦や陶磁器が出土することから、丘陵上方にあたる南側において瓦葺きの建物の存在が考えられる。谷部での断面観察によると、中層は江戸時代末に谷を埋めており、上層は明治時代の炭坑に起因すると思われるズリ、ボタが丘陵頂部と同じ高さまで盛られている。　報告書は2000年度発行予定である。

１．調査地点位置図（72荒江,73茶山.2784　1:8000）

２．西側調査区全景（東から）

３．東側調査区全景（東から）

9763 元岡遺跡群第3次調査（MOT-3）

所 在 地　西区元岡地区
調査原因　大学移転に伴う造成工事
調査期間　1997.11.13～（継続中）
調査面積　3,500㎡
担 当 者　菅波正人
処　　置　記録保存の予定

位置・環境　調査地点は、県道桜井太郎丸線の西側に広がるC地区の南側に位置し、桑原石ケ元古墳群が立地する丘陵の斜面にあたり、前面は東側に開口する谷部となる。

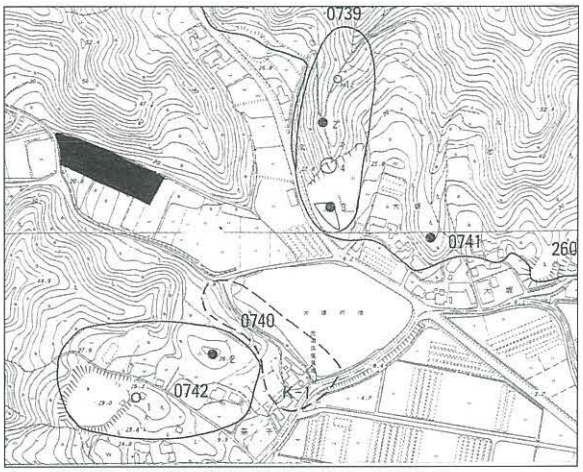
調査は厚さ約30～60㎝の表土を除去した後の黄灰色粘質土を遺構面として行った。現況の地形は南東に向かって緩やかに傾斜していく。

遺構と遺物　遺構は弥生時代中期の竪穴住居跡９軒以上、掘立柱建物跡、土壙、柱穴、６世紀代の円墳１基を検出した。

弥生時代の竪穴住居跡は斜面を造成して掘り込まれている。竪穴住居跡の平面形は方形もしくは隅丸方形を呈する。全体に遺構の遺存状態は悪く、遺構と主柱穴のみのものが多い。遺物は住居内に廃棄された状態で、弥生土器（甕、壺高坏、器台）、石製品（石斧、石錘）等が多量に出土した。竪穴住居跡の時期は弥生時代中期後半に限られ、谷部の開発等を目的とした集落と推測される。

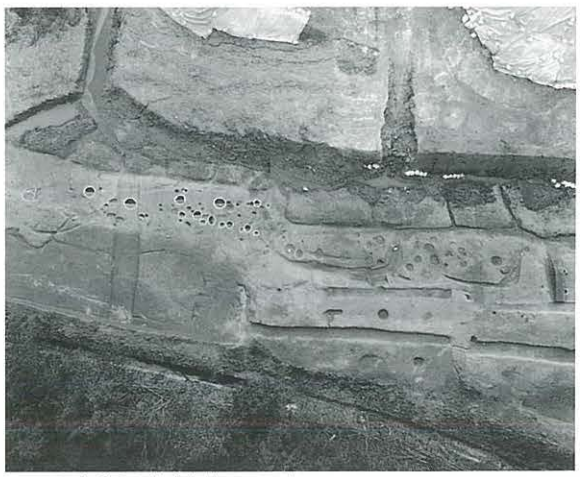
調査区の西側で検出したSO02は主体部に横穴式石室を持つ円墳である。墳丘は削平のため、はとんど遺存しておらず、周濠が残るのみである。周濠は内側の直径で約８ｍを測る。奥壁幅1.8ｍ、現存長2.5ｍを測る。遺物は石室から須恵器（坏、壷）、土師器（甕、高坏、蓋）、耳環が、周濠からは破砕された須恵器甕、壷等が出土した。古墳の時期は６世紀中頃～後半と考えられる。

これらの遺構以外に、弥生時代～古墳時代の遺構面とした黄灰色粘質土中から縄文時代早期の押型文土器を検出した。さらにこの層の下層からは撚糸文土器、条痕文土器、無文土器が出土し、この地点に縄文時代草創期から早期の包含層が数層存在することが分かった。10年度現在調査を継続中。



1．調査地点位置図(129桑原.2782 1:8000)

2．調査区全景(西から)


3．竪穴住居跡完掘(西から)

9764 元岡遺跡群第４次調査（MOT-4）

所　在　地　西区桑原1825-1
調査原因　大学移転に伴う造成工事
調査期間　1997.12.１～1998.3.31
調査面積　1,219㎡
担　当　者　池崎譲二
処　　置　記録保存

位置・環境　調査地点は、桑原石ヶ元古墳群の立地する丘陵から、北側に延びる櫛歯状の小支丘に挟まれた谷部分に位置する。この谷の中央部を調査対象とした。

検出遺構　調査区は大きく３段のテラスに分かれ、上段からテラスⅠ・Ⅱ・Ⅲと呼ぶ。テラスⅠには特段の遺構は見られない。テラスⅡは風化花崗岩の地山を一部削りだし、谷部に堆積した青灰色シルト層の上面に、最大１ｍ強の埋立地業をすることにより平坦面を作り出したものである。造成は３回に分けられており、北端部に３列の捨石列が谷頭部をアーチ状に取り囲むように置かれている。

遺構はこの平坦面の周辺の段落ち部分を中心に検出されている。主な遺構は段落ち際に雨落ち溝を巡らす厩（ｳﾏﾔ）と思われる掘立柱建物が２～３棟、組織的に把握できないが柱穴群、南東側段落ち部を巡る溝１条、埋立の段階で焚かれた地床炉数カ所が見られた。これらの遺構は室町時代14世紀半ばのきわめて限定された時期のものと思われる。

テラスⅢは、谷の一部を土手状に堰き止めたもので、明確な遺構は伴わないが、薄い遺物包含層が見られる。ここでは遺物量は少ないが、中世遺物に混じり、古墳時代、奈良時代の遺物が少量みられ、鉄滓もみられた。

出土遺物　本調査区では室町時代を主体とする中世遺物が埋立整地層を中心に出土している。土師器皿、瓦質陶器、滑石製石鍋、瀬戸天目椀、鉄製刀子、鉄滓等の遺物に、中国製青磁、白磁、陶器の椀、皿、壺等の舶載遺物が相当量出土している。

まとめ　一般の中世集落とは性格が異なり、室町時代初期の「元岡城郭」に関連するものと推定される。

１．調査地点位置図(129桑原.2782 1:8000)

２．調査区全景(北から)

３．遺構検出状況(北から)

9765 周船寺遺跡群第10次調査（SSJ-10）

所 在 地　西区飯氏・千里地内　　調査面積　290㎡
調査原因　鉄道線路拡幅　　担 当 者　久住猛雄
調査期間　1997.12.22～1998.2.27　　処　　置　記録保存

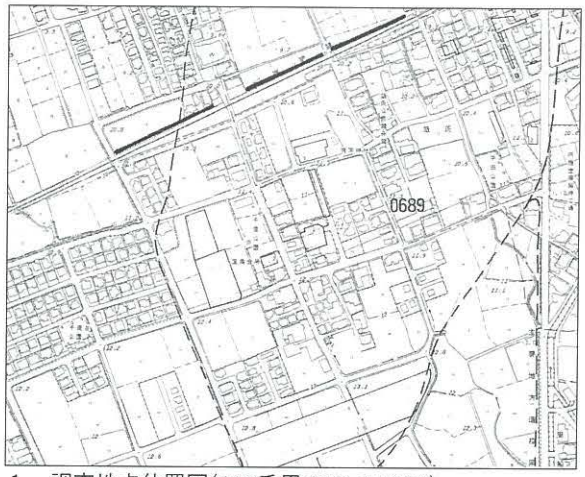
位置・環境　周船寺遺跡群は、糸島平野の東端、周船寺川によって形成された沖積微高地上に立地する。調査地点は、遺跡群の中央部にあたり、標高10～11ｍ前後を測る。現在周囲は耕作地のため平坦であるが、本来はある程度起伏ある地形であったと考えられる。周辺の遺跡には、東500ｍに飯氏遺跡群、南２kmに三雲遺跡群がある。

検出遺構　調査区は延長約400ｍに及ぶが、東からＡ・Ｂ・Ｃの三区に分けて調査した．遺構検出面は表土直下10～40㎝の灰色粘質土層だが、一部砂礫層が露出する。検出面とした灰色土層は、一部縄文時代の遺物包含層となる。調査は、まず、１ｍ幅の試掘を行い、遺構・遺物を検出した部分を拡張した。Ａ区は、顕著な遺構・遺物は検出していない。Ｂ区は調査区東半で、縄文後期の包含層を数ケ所検出した．そのうち調査区中央のものは、平面は不明確だが出土状況と土層から竪穴住居であった可能性がある．この東に接して、包含層の灰色土層の落ち込みがあり、その最下層の地表下1.0ｍ前後より、縄文後期前葉頃の土器を検出した。調査区の西側では、略南北方向の溝を検出した。上面幅2.8ｍ、深さ0.6ｍを測る。弥生時代初め（板付Ⅱ式）の甕・壺の土器を多量に出土した。Ｃ区は、その東半分は旧地形が低く、近年の客土がなされている。調査区東端では旧河川跡を検出し、近世の染付と下駄数点を出土した.調査区中央では、地表下50㎝前後の黒褐色粘質土層より、弥生前期の土器を検出した。この層は、水田層の可能性がある。

出土遺物　縄文後期から晩期、弥生前期の土器・石器を中心に、コンテナ７箱分の遺物が出土した。

まとめ　Ｂ区の弥生時代初めの溝は、周辺調査や試掘で検出されている同時期の溝と連続する可能性もあり、環濠集落の可能性が増してきた。今後の確認が期待される。

報告書は1999年度刊行予定である。



1．調査地点位置図(132千里.689 1:8000)

2．Ｂ区調査全景(西から)

3．Ｂ区弥生時代前期溝(SD01)断面(南から)

9766 博多遺跡群第104次調査（HKT-104）

所　在　地　博多区上呉服町124
調査原因　公営住宅建設
調査期間　1998.1.8～3.16
調査面積　188㎡
担　当　者　大庭康時・本田浩二郎
処　　置　記録保存

位置・環境　本調査地点は、博多遺跡群が所在する二列の砂丘のうち、内陸側の「博多浜砂丘」上の北東端に位置している。隣接する第84次調査の成果を基に、現地表面から１ｍ程までの近世以降に堆積した包含層を重機によって除去した後、調査に着手した。一部が既存の建物の基礎によって撹乱されていたが、数面にわたる中世の整地層が確認された。調査はこの整地層と基盤層である砂丘面との間に第１面から第５面の遺構面を設定し行なった。

検出遺構　調査区は南北方向に長く幅は最大で４ｍ程度である。北側については第１面から良好な整地層が確認され、石組遺構・土壙・柱穴等が検出された。南側については複数の井戸が切り合って存在しており、層位的な調査は行えなかった。第２面から第３面にかけては、建物の基礎と思われる石組遺構が検出され、数回の建直しが行われたことが推測される。第４面では回廊状の整地面が検出されたが、何の遺構も切り込んでいないことから、聖福寺の築地塀である可能性が考えられる。

出土遺物　本調査ではコンテナ90箱の遺物が出土した。出土遺物としては、土師器・陶磁器類が多く見られ、第５面の砂丘面からは古代の遺物と共に人骨の頭骸部が出土した。また第１面から第３面にかけて約80枚の銅銭が出土した。

まとめ　今回の調査では、古代から中世にかけての遺構・遺物を検出した。本調査地点は聖福寺寺中町の推定復元図においては南西端部の築地塀付近に比定されており、今回の調査成果はこの推定を裏付ける資料として注目される。また数回の建直しを受けた建物についても聖福寺の寺域の拡大する時期について考える上で、貴重な成果として注目される。報告書は1998年度刊行予定である。

1．調査地点位置図(48千代博多,49天神121　1:8000)

2．第３面検出石組遺構(北から)

3．人骨出土状況

9767 博多遺跡群第105次調査（HKT-105）

所　在　地　博多区冷泉町4-20
調査原因　ビル建設
調査期間　1998.1.23～4.30
調査面積　221㎡
担　当　者　宮井善朗
処　　置　記録保存

位置・環境　今回の調査地点は博多浜のほぼ中央部付近に位置する。地形的には博多浜を成す二つの砂丘の間の谷部にあたる。

検出遺構　第１面の遺構としては土師器坏、小皿等を多量に廃棄した土器溜り、土壙等を検出した。土壙のうち大型のものは下面の調査により、井戸と判明したものもある。第１面の遺構の時期は、出土土器から14世紀代頃と考えられる。

第２面は標高3.3ｍほどを測る。細かい縞状の堆積を示す整地層中で検出した遺構を中心とする。主な遺構としては土器溜り、井戸、土塀等である。第２面で検出した井戸は１基であるが、土層観察では１面から掘り込まれている。また土器溜りも、土師器を主体とするもの１基、陶磁器を主体とするもの２基を検出したが、いずれも１面から掘り込まれている．確実に第２面から掘り込まれていると確認できた遺構は、土壙、ピットなど非常に少ない。第２面は散漫な建物と、広場的な性格を持つ場所であったかもしれない。鎌倉時代頃と考えられる。

第３面の遺構としては井戸、大型土壙、溝、ピットなどがある。井戸は板を立て並べて井戸枠とするものが多い。大型の土壙は浅い窪み状を呈し、覆土中に多量の木片、木塊を含む。ピットのうち掘立柱建物をなすものを１棟検出した。第３面の時期は平安時代後期頃であろう。なお白色砂であるが、この地点では砂丘砂ではなく水成砂である。浅い谷部にあたる地点と考えられる。

出土遺物　コンテナ約250箱出土した。

なお、報告書は1999年度刊行予定である。

1．調査地点位置図(49天神.121　1:8000)

2．Ⅰ面全景(東から)

3．Ⅲ面全景(東から)

9768 周船寺遺跡群第11次調査（SSJ-11）

所　在　地　西区大字千里字ミドリ440-1他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　1998.2.3～4.24
調査面積　812.68㎡
担　当　者　大塚紀宜
処　　置　記録保存

位置・環境　本調査地点は、糸島平野の東側に広がる沖積微高地上に位置し、標高は12m前後を測る。旧況は水田で、地盤は暗褐色粘質土、黄灰色粘質土が二次的に堆積する。

検出遺構　南北2箇所の調査地点のうち、双方で高い密度の弥生時代中期以降の遺構を検出した。検出した遺構の種類は、竪穴住居跡、甕棺墓、祭祀土壙、溝状遺構、柱穴である。竪穴住居跡は円形、方形合わせて5軒検出した。方形のものは明瞭な柱穴を伴わないもので時期的に下る可能性がある。甕棺墓は4基出土したが、うち2基は遺存状況が悪く、埋置状況等は不明である。他の2基は弥生時代中期中頃の小型棺で、2基とも上甕が壺形土器、下甕が甕形土器と、日常土器を転用する。甕棺内には人骨、副葬品等は遺存していない。また甕棺墓は南側調査区に限定して検出され、墓域は北側まで及ばない。祭祀土壙は、長径1m、短径50cm程度の小型の楕円形の遺構と、長辺3m、短辺1mの大型の遺構があり、甕棺墓地に伴うものと考えられる。溝状遺構は南東から北西にかけて同じ方向に延びるものが多く、旧地形による制約などの理由が考えられる。溝内から土器が多量に出土し、祭祀関連の遺構と考えられる。

南側調査地点の東半分では縄文後期～晩期の遺物を大量に含む包含層を検出したが、同時期の遺構は検出されなかった。

出土遺物　弥生時代中期の遺構からは、特に溝を中心に祭祀関係とみられる遺物が多く出土している。縄文包含層からは土器、石器類が出土し、総量でコンテナ55箱相当にのぼる。

まとめ　弥生中期の遺構は甕棺墓、祭祀土壙などの葬送祭祀的なものが多く、この一帯の遺跡の性格が窺える。縄文後晩期の包含層については、近隣に同時期の集落の存在を示唆するものである。なお、報告書は1999年度刊行予定である。

1．調査地点位置図(132千里.689 1:8000)

2．北側調査区西側遺構検出状況(北から)

3．ST-032(西から)

9769 比恵遺跡群第64次調査（HIE-64）

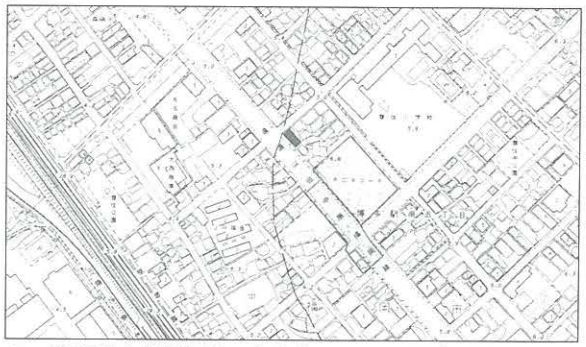
所 在 地　博多区博多駅南５丁目12-32　調査面積　143.7㎡
調査原因　店舗建設　担 当 者　長家 伸　井上繭子
調査期間　1998.2.4～2.10　処 置　記録保存

位置・環境　比恵遺跡群は、福岡平野を北流する御笠川と那珂川に挟まれた洪積丘陵の北端部に立地する。本調査区は、比恵遺跡群の西端、古墳時代の大型建物・倉庫群が検出された第８次調査地点の北西に位置する。遺構は現地表下５～50㎝、標高約５ｍの鳥栖ローム層上面で検出された。

検出遺構　ピット、柱穴、井戸１基、不明土壙１基が検出されている。井戸は約80㎝の深さを測る。

出土遺物　遺物は少なく、コンテナ１箱に満たない。弥生土器の小片が少量、攪乱から近現代の陶磁器片が出土している。唯一、井戸から弥生時代の甕底部が出土したのみである。

ま と め　調査区は南東から北西に向かって高くなっており、表土直下であるため攪乱が多い。遺構面は多少削平を受けていると思われる。第８次調査地点で検出された弥生～古墳時代にかかる集落の中心から外れてはいるものの、その一端を占めているのではないかと考える。



１．調査地点位置図(37東光寺.127 1:8000)

２．調査区南東側(北西から)

9770 那珂遺跡群第65次調査（NAK-65）

所 在 地　博多区竹下５丁目59-3　調査面積　95㎡
調査原因　社屋建設　担 当 者　長家 伸
調査期間　1998.2.12～2.18　処 置　記録保存

位置・環境　那珂遺跡群は福岡平野を北流する那珂川と御笠川に挟まれた洪積台地上に立地する。本調査地点は都市計画道路竹下駅前線建設時に行われた第19次調査地点に隣接する。遺構面は表土直下の鳥栖ローム上面で、標高7.5ｍを測る。

遺構と遺物　遺構面は削平・攪乱が著しく、遺構の残存状態は極めて不良であった。検出遺構は溝１条、ピット数基である。溝は中世後半に位置づけられ、第19次調査で検出された溝の南側延長部分にあたる。方位をほぼ南北にとり、深さ80㎝を測る。土層観察からは水が流れたり滞水した状況は確認できない。遺物は陶磁器・土師器がコンテナ２箱分出土している。

ま と め　今回の調査地点は削平が著しく十分な成果を上がることが出来なかったが、周辺の調査結果と照らし合わせ検討する事が出来るであろう。

報告書は1998年度刊行予定。

１．調査地点位置図(38塩原.85 1:8000)

２．調査区東半部全景(西から)

9771 元岡古墳群D群（MOK-D）

所 在 地　西区大字元岡字下の谷
調査原因　寺院建設（確認調査）
調査期間　1997.11.10～11.28
調査面積　60㎡・古墳１基
担 当 者　松浦一之介
処　　置　埋め戻し保存

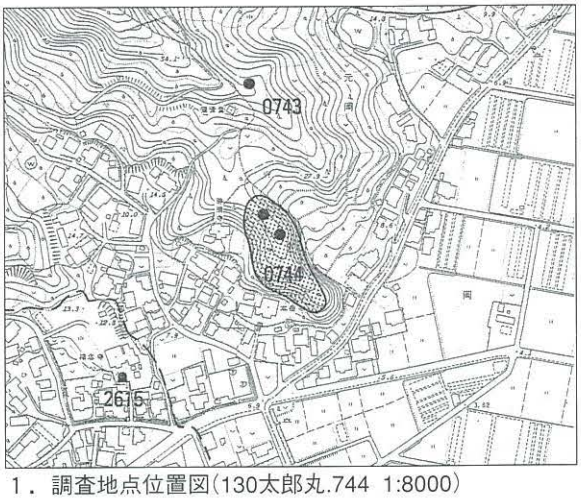
位置・環境　調査地点は、元岡池の浦古墳が立地する丘陵より、南側に派生する標高約25ｍ程度の舌状丘陵の尾根上に位置し，現況は山林である。

検出遺構　1号墳は主体部に横穴式石室をもつ、直径約10ｍ程度の円墳である。石室は盗掘のため大きく破壊を受けており、腰石と一部２、３段の側壁を留めているにすぎない。石材は全て花崗岩の転石を使用している。主体部は単室両袖型の横穴式石室で、長さ及び幅共に約2.0ｍを測る胴張りの正方形プランである。石室は北側に向かって開口しており、約30～50㎝程度の花崗岩の転石を用いて閉塞している。墳丘も大きく削平されているが、石室から西側に向かって設定したトレレチでは、盛土が一部遺存していることが確認できた。

２号墳の試掘では、当初、主体部が遺存するものと考えられた陥没坑を中心に２本のトレンチでその調査を行ったが、主体部は確認されなかった。しかし、西側に向かって設定したトレンチでは，古墳の周濠と考えられる溝状の遺構を確認した。ただし、現在のところその墳丘規模は明確にしえない。

出土遺物　１号墳石室からは、須恵器（壷・高坏・有蓋脚付壷・器台・提瓶）、鉄器（刀子・鉄斧・馬具・鉄鏃）、装身具類（銅釧・ガラス製小玉）等が出土しており、須恵器以外の多くの遺物が床面の直上から出土している。また、２号墳のトレンチからは須恵器片が少量出土した。総量はコンテナ３箱分である。

まとめ　今回の調査では古墳を２基確認した。１号墳は墳丘盛土が、2号墳は周濠が遺存している。１号墳の出土遺物から、その築造年代は６世紀後半と考えられる。また、古墳群の北側の調査区からは弥生時代から中世にかけての遺物が出土しており、当該期の遺構の存在が予想される。



１．調査地点位置図（130太郎丸.744　1:8000）

２．１号墳現況（南から）

３．１号墳石室内遺物出土状況（西から）

9772 比恵遺跡群第65次調査（HIE-65）

所 在 地　博多区博多駅南５丁目10-7・10-15
調査原因　倉庫増築
調査期間　1998.2.16～3.2
調査面積　97.9㎡
担 当 者　長家　伸・井上繭子
処　　置　記録保存

位置・環境　比恵遺跡群は、福岡平野を北流する御笠川と那珂川に挟まれた洪積丘陵の北端部に立地する。本調査区は、比恵遺跡群のやや西寄りに位置する。遺構面である鳥栖ローム層は、現地表下60～90㎝、標高約5ｍであるが、調査区南西から北東に向かって低く傾斜している。また、調査区北コーナーで鳥栖ローム層は急激に落ちてゆき、その上面には灰白色シルト層が堆積する。台地の縁辺部にあたると思われる。

検出遺構　調査区南西側半分は、ピットと不明土壙が若干検出されたにすぎず、遺物もほとんどない。

遺構は北東側に集中している。ピット、柱穴の他、溝状遺構が２条ある。溝状遺構のうち１条は、断面形が「Ｙ」字形の溝の下部と思われるものである。溝状遺構はいずれも灰白色シルト層上面から掘り込んでおり、直交して切り合っており、「Ｙ」字形の溝が古い。「Ｙ」字形溝の残存部の深さは50㎝ほどで、水が流れた形跡がある。残る１条の溝は深さは20～30㎝ほどで浅く、出土遺物からみて弥生時代中期と考えられる。

出土遺物　遺物はコンテナで６箱出土している。そのうち浅い溝状遺構からの出土遺物が多くを占め、弥生時代中期の土器が多量に検出された。その他、柱穴、「Ｙ」字形溝の肩部、包含層からも弥生土器が出土している。

まとめ　先に述べたように本調査区のローム層は北端で急激に落ちる。これまでの周辺の調査により、比恵遺跡群の中央、北西から南東方向に谷が入ることが明らかになっているが、本調査区は谷に落ちる台地の縁辺部にあたると思われる。溝状遺構が２条検出されているが、その状況から遺構面がかなり削平を受けていると考えられる。これらの溝がどのように延びて行くかは不明であるが、今後の調査に期待したい。報告書は1998年度に刊行予定である。

1．調査地点位置図(37東光寺.127　1:8000)

2．調査区北東側(南西から)

3．Ｙ字溝(北西から)

9773 内野遺跡群第２次調査（UCN-2）

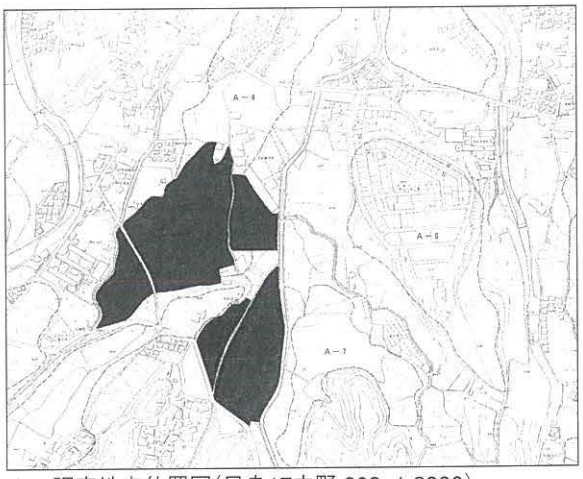
所　在　地　早良区大字西地内　　調査面積　1,313㎡
調査原因　圃場整備試掘調査　　担　当　者　大塚紀宜
調査期間　1997.11.17～12.16　　処　　置　調査後埋め戻し

位置・環境　本調査地点付近は、背振山北麓の、北へ延びる舌状台地の先端から河岸段丘にかけて広がる部分で、標高66～80ｍにおよぶ。調査対象地の多くが内野遺跡群に属する。地盤構成は扇状地的な礫層を主とし、一部ローム堆積層が見られる。当調査は次年度の本調査に向けての試掘調査で、調査区全体にわたる遺構、遺物の確認が目的である。

検出遺構　調査区北側から中央部分にかけての扇状地部分では、地表下約３ｍで河川起源の、巨岩を含む礫層が堆積し、上層はローム質二次堆積層である。遺構、遺物はごく散漫に出土し、まとまった集落は見られない。調査区南東側では尾根線上の山際近くで集落と見られる柱穴群を検出するが、時期は確定できない。調査区南側では扇状地と段丘の境界付近で奈良時代の土器溜を検出した他は、大部分が長尾川の氾濫原となり、遺構・遺物は認められない。

出土遺物　総量でパンケース２箱相当である。遺構から出土した遺物はきわめて少なく、遺物の多くは調査区南側の土器溜から出土したものである。その他、表土近くや表採として縄文土器が磨滅した状態で少量出土している。

まとめ　今年度の試掘対象地内では概して遺構の密度は薄く、特に大谷川西岸の地区と対象地西側、北側の地域は河川氾濫による砂礫層が厚く堆積し、遺構の想定が困難になっている。遺構が認められた部分では古代～中世の集落、焼土壙を検出するが、いずれも散漫で、遺物出土量も一部を除いて極めて少ない。



1．調査地点位置図（早良17内野.803　1:8000）

2．調査対象地区遠景（北から）

3．28トレンチ（北から）

9774 高畑遺跡第16次調査（TKB-16）

所 在 地　博多区板付６丁目２-23
調査原因　専用住宅建設
調査期間　1998.３.９～３.31
調査面積　70㎡
担 当 者　榎本義嗣
処　　置　記録保存

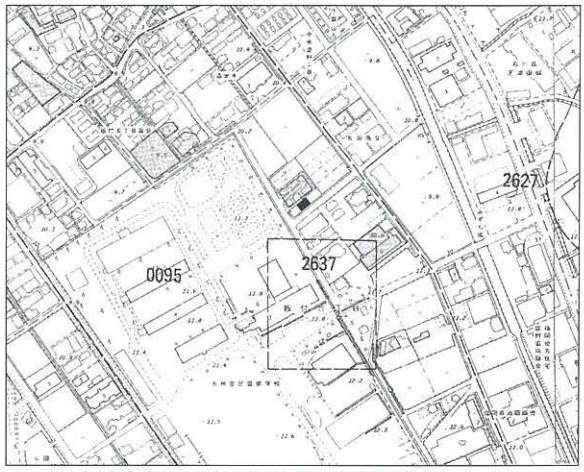
位置・環境　高畑遺跡は、福岡平野中央部に位置する御笠川と諸岡川に挟まれた洪積台地及びその東側の沖積低地に広がる。本調査区は台地際寄りの沖積地に立地する。北側隣接地では第12次調査、また道路を隔てた南東側では第15次調査が実施されている。

検出遺構　標高9.4ｍを測る黄褐色シルト上面で４世紀後半の溝１条（SD001）を検出したが、東側の肩は調査区外に位置している。この溝は第12次調査区で確認された１号溝に該当するもので、さらに第15次調査区でもその延長部が検出された。SD001は第12次調査の成果から弥生時代終末の河川埋没後に掘り込まれることが判明している。現況で幅７ｍ以上、深さ約1.5ｍを測る。上層には黒褐色粘質土が厚さ約0.5ｍ堆積し、北東側に厚く、南側では薄い。流木を主体に少量の木製品及び多数の土器を含んでいる。土器は比較的完形に近いものが認められた。その下層には薄い黒灰色の粗砂を挟み、上層同様の粘質土が堆積する。更に最下層には黒灰色粘質土と黄灰色粗砂が互層で、約0.8ｍ程度厚く堆積する。この層には流木及び土器片が少量出土した。

出土遺物　コンテナ数にして15箱分が出土した。土器には土師器甕・高坏・小形丸底壺・器台のほか弥生土器も含まれる。木製品としては杭・板材・ネズミ返し・鉄斧柄・鍬停泥等が少量ある。

まとめ　台地東側縁辺部に掘削されたこの溝は沖積地での水田経営にあたっての主要な水路であると考えられる。また、溝の上層にみられた遺物群は第12次調査区から本調査区にかけての溝埋没段階における湿地状のたまり部分に廃棄されたものと考えられる。

調査報告書は2000年に刊行予定である。



1．調査地点位置図(24板付.95 1:8000)

2．調査区全景(東から)

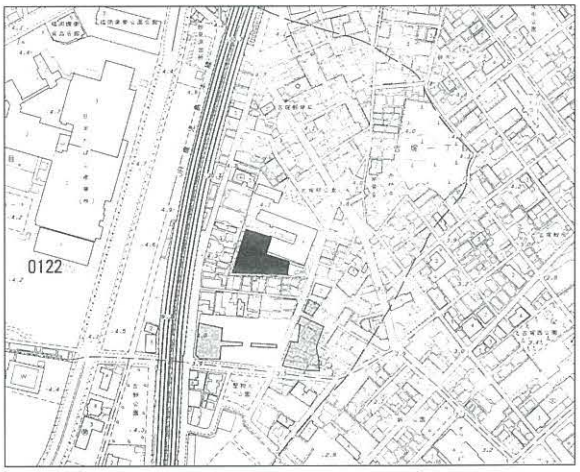
3．溝SD001遺物出土状況(東から)

9775 堅粕遺跡群第９次調査（KKS-9）

所在地	博多区吉塚一丁目８	調査面積	1,973㎡
調査原因	市営住宅建設	担当者	井上繭子
調査期間	1998.3.12～7.17	処置	記録保存

位置・環境　堅粕遺跡群は御笠川の東岸、博多湾奥に形成された砂丘上に立地する。本調査区は堅粕遺跡群の東側にあたり、古墳時代から平安時代にかけての住居跡、墓地、溝等が検出された第４・５次調査地点の北側に位置する。

遺構面は地表下約70～90㎝、標高約3.8ｍ前後の黄褐色砂層である。この黄褐色砂層は８～11世紀前後の遺物包含層で、灰白色粗砂層の上面に20～30㎝程堆積している。調査区は撹乱が激しく、遺構検出が困難な箇所が多い。平成10年度も継続して調査を行う。



１．調査地点位置図(35吉塚.122　1:8000)

２．調査作業風景(北東から)

9776 飯氏古墳群B-14号墳第2次調査（IIK-B-14）

所在地	西区飯氏字正善寺12	調査面積	42㎡
調査原因	重要遺跡確認調査	担当者	久住猛雄、加藤良彦
調査期間	1998.3.6～3.31	処置	調査後埋戻し保存

位置・環境　飯氏B-14号墳は、今宿平野の西端、糸島平野の東側の丘陵上に位置する。古墳は、狭い尾根線上に立地する。丘陵下の平坦地とは40mの比高差がある。飯氏古墳群B群は18基の古墳からなるが、前方後円墳は14号墳のみであり、その盟主的位置を占める。

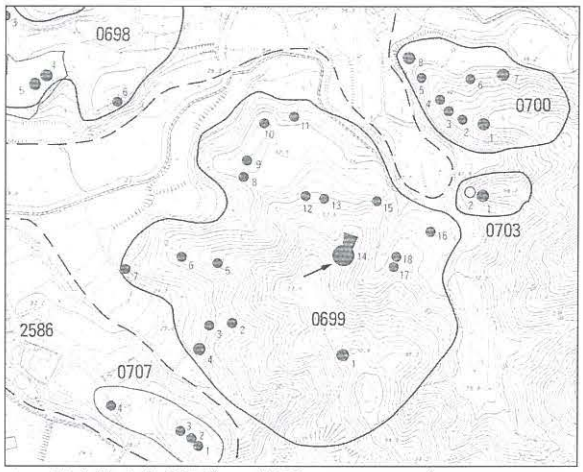
検出遺構　本墳は主体部に横穴式石室をもつ前方後円墳である。前方部を尾根の先端に、後円部を上方に配置する。第1次調査では石室と墳丘両くびれ部が調査されている。今回は、石室羨道部及び墓道部の調査と、墳丘の規模・形状の確認のためのトレンチ調査を行った。

調査の結果、全長は24.3m、後円部径16.2m、前方部幅13.8m、くびれ部幅9.6mと復元された。墳丘の高さは、後円部ではその西側裾から約4mを測る。前方都は後円部より2.5m前後低い。墳丘の構築は裾部から盛土を施すものである。墳丘の形状は、前方部が広がる型式であるが、前方部は地形の制約のためか左右非対称となる。墓道は石室羨道部の前面に検出され、その先端が墳丘裾部に接合するタイプである。　土層観察などから、3回の追葬が推定された。初葬時の墓道は、幅2.4m、長さ2.8mを測る。石室は単室両袖形で、主軸方位はN－65°－Wである。羨道都は床面まで完掘した。羨道部床面にはその玄室寄りに石敷がみられた。羨道部の長さは約4mとなり、玄室を含めた石室全長は7.3mとなった。

出土遺物　各墳丘トレンチからは、須恵器・土師器が出土した。また墓道や羨道部埋土からは、土師器・須恵器や鉄鏃が出土している。

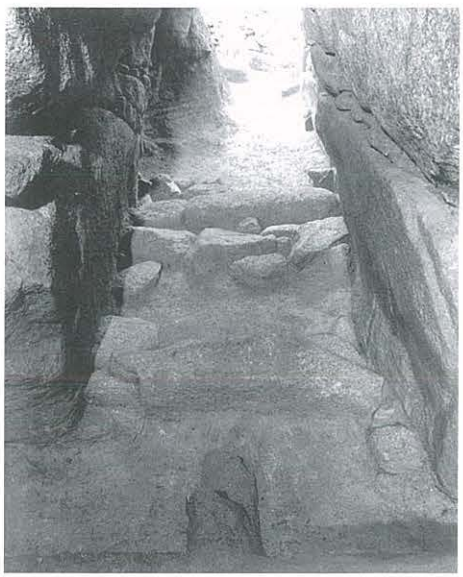
古墳の築造時期は、最も古い型式の須恵器から6世紀の第3四半期頃であろう。その後7世紀中頃まで数度の追葬がなされたと考えられる。また、飯氏B－14号墳は、今宿古墳群で最後の前方後円墳であろう。

報告書は1998年度刊行予定である。



1．調査地点位置図(121飯氏.699 1:8000)

2．墳丘Bトレンチ掘削状況(北から)


3．石室羨道部検出状況(石室内東から)

9777 博多遺跡群第106次（HKT-106）

所 在 地　博多区御供所町5-20
調査原因　共同住宅建設
調査期間　1998.3.13～3.26
調査面積　48㎡
担 当 者　佐藤一郎
処　　置　記録保存

位置・環境　調査地区は博多遺跡群の中央よりやや北東、国指定史跡聖福寺境内の北西に位置し、その東側では第102次調査が行われている。試掘調査によって、既存の建物基礎とその解体工事により、遺構の多くは破壊を受け、現地表下３ｍまでは遺構は残存していないことが確認されたため、工事の際根切りが遺構残存面に及ぶ部分を調査対象とし、根切り工事に立会、遺構が確認された時点で工事を一時中断し、遺構検出にあたることとした。工事の工程に合わせ、最初に西半部で、試掘で確認されたレベルより上で島状に残存していた部分12㎡（標高3.6ｍ、黄白色砂層）の調査を行った。西半部の調査終了後、引き続き東半部の根切り工事に立会した。当初の遺構面は地山より下のレベル（標高5.0ｍ）まで失われ、解体工事等の掘削の際の重機のバケット痕が著しい。

検出遺構　西半部で検出された遺構は土壙５基、柱穴・ピット状遺構20を検出した。遺構の時期は８世紀～14世紀である。東半部では井戸１基が検出された。下部のみの残存で、木桶の井戸枠痕が残存する。

出土遺物　遺物は、遺構の他、上面の撹乱層から多量に出土した（コンテナ30箱）。撹乱層からは土師器や瓦が特に多く出土した。遺物の時期は16世紀までと幅広く、既存の建造物が建つ前は遺物包含層が厚く堆積していたようである。

報告書は1998年度に刊行予定である。

１．調査地点位置図（49天神.121　1:8000）

２．調査区西側（北から）

３．土壙内遺物出土状況（西から）

9778 博多遺跡群第107次（HKT-107）

所 在 地　博多区上呉服町３
調査面積　120㎡
調査原因　都市計画道路御供所疎開地道路新設
担 当 者　大庭康時
調査期間　1998.3.18～5.29
処　　置　記録保存

位置・環境　博多遺跡群は、博多湾の奥に形成された三列の砂丘上に乗っている。本調査地点は、古代から生活が営まれていた二列目の砂丘の、北端付近に当たる。

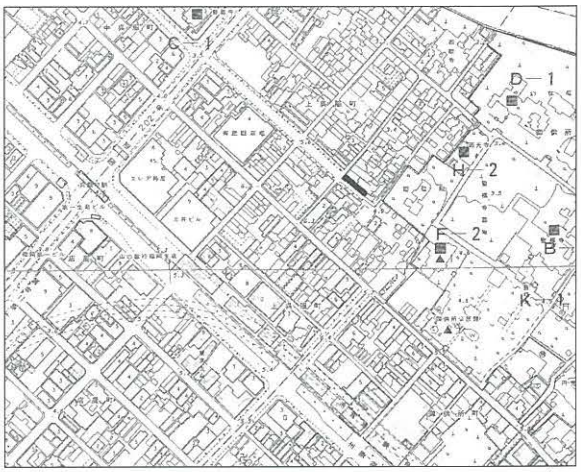
また、鎌倉時代初頭には、近接して聖福寺が建立され、中世後半期にはその寺内町に含まれていた。本調査地点は、聖福寺所蔵古文書「安山借家牒」の普賢堂の町屋に比定されている。

検出遺構　現地表下1.7ｍの面を第１面とし、以下、現地表下3.5ｍの第４面までの調査を実施した。検出した遺構は、井戸・土壙・柱穴・溝・経塚・土壙墓などである。時期は、古代から現代に及ぶ。近現代の建物等による撹乱は全く見られず、遺存状態は良好といえる。

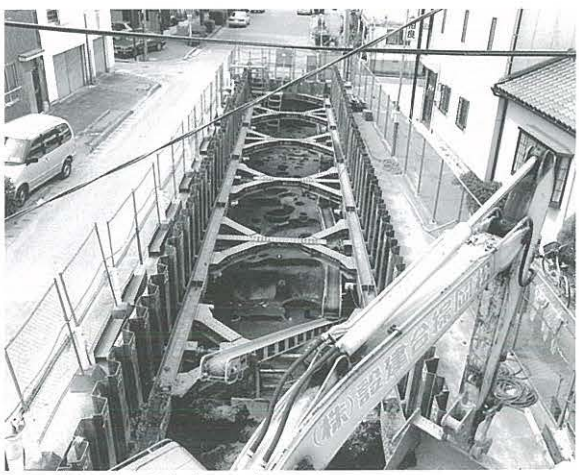
出土遺物　出土遺物は、古式土師器・須恵器・輸入陶磁器・国産陶磁器などがコンテナ52箱、金属製品が３箱、獣骨１箱のほか、人骨５体以上（５箱分）が出土した。

まとめ　本調査地点で最もさか上る遺構は、５世紀代の溝状遺構である。小型丸底壺と勾玉、砥石型の石製垂飾が出土している。7～8世紀には、えな壺・柱穴・溝などが営まれている。10・11世紀では、土壙墓が検出された。10世紀代の土壙墓は黒色土器Ａ類の椀と土師器皿、11世紀前半の土壙墓は黒色土器Ｂ類の椀を副葬していた。時期不明の土壙墓１基がある。このほか、12世紀前半の円形土壙からは湖州鏡・ガラス容器片などが出土しており、火葬墓の可能性が考えられる。また、12世紀と思われる陶製の経筒を用いた経塚も出土した。古代末から中世初頭にかけて、特殊な性格を持った場であったことを推測させる。そのほか、16世紀前半の大溝でも、その基底部から人骨が出土している。

1999年度報告書刊行予定。



1．調査地点位置図(48千代博多,49天神,.121　1:8000)

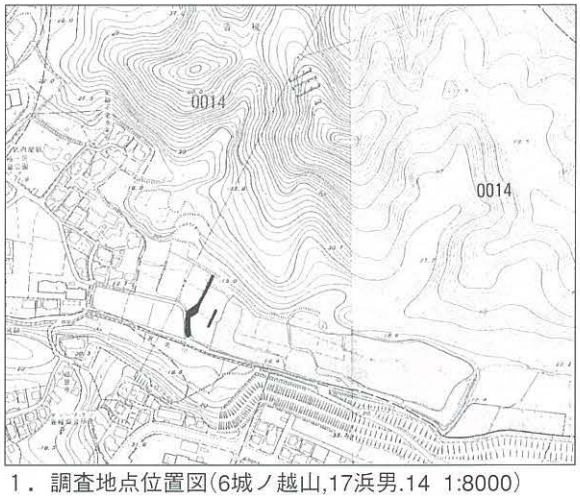

2．第2面全景(南東から)

3．第2面検出陶製経筒(北東から)

9779 香椎B遺跡群第5次調査（KSB-5）

所在地	東区大字香椎字生水	調査面積	167㎡
調査原因	造成工事	担当者	瀧本正志・田上勇一郎
調査期間	1998.1.19～4.15	処置	記録保存

位置・環境　福岡平野の東辺部を画す多々良川から東は、三郡山系の博多湾までに達する丘陵によって占められ、丘陵間には幾つかの谷地形がある。その中で香椎川水系によって形成された谷は、巾100ｍ、奥行2,000ｍの規模を呈し、やや蛇行気味に東西方向に伸びる。西方は開口して博多湾に面し、東方は低い峠を越えて宇美、大宰府へと通じる。海岸から1,000mほど谷奥には『香椎宮編年記』による神功皇后を祭神として神亀元年（724）に建立された香椎宮（廟）が位置する。この宮から500ｍほど谷奥には香椎Ｂ遺跡が立地する。1995年の第１次調査では、10世紀～15世紀後半の屋敷群や寺院跡を検出するとともに、11世紀後半期の木簡が出土している。



1．調査地点位置図(6城ノ越山,17浜男.14　1:8000)

検出遺構　遺構は、地表下50㎝の地山である黄褐色土層の上面で遺構を検出した結果、中世の溝、柱穴の存在が確認された。

2．第４調査区の溝と柱穴(北から)

出土遺物　遺物は、コンテナに１箱ほどが出土しているが、いずれも遺構検出土層の直上に位置する灰褐色土層からの出土による。

ま と め　今回検出した溝、柱穴は、本調査地の東部に位直する第１次調査で確認された中世集落の溝につながる。したがって、この溝が集落敷地の区画溝であることが明らかであることから、香椎宮裏の谷部には、古代～中世の遺跡が濃密に存在する可能性が極めて高いことが判明した。

調査報告書は、2000年度に刊行予定である。

3．第５調査区の溝と柱穴(北から)

9709 那珂遺跡群第61次調査（NAK-61）

所在地　那珂２丁目388-1　　調査面積　20㎡
調査原因　共同住宅建設　　担当者　屋山　洋・大塚紀宜
調査期間　1997.４.14～４.14　　処置　記録保存

はじめに　平成９年４月15日に、山浦強氏から福岡市教育委員会に埋蔵文化財事前審査申請書が提出された。建物の基礎は盛り土内に収まるものの、擁壁工事に伴い幅１ｍ程削平する結果、地下遺構に影響が生じると判断し、工事に立ち会った。

位置・環境　調査地点は台地の東端に位置する。東側隣地ちは、約100㎝の段がつく。南側へ110ｍ離れた38次調査では、弥生時代の甕棺墓や墓、古墳時代竪穴住居跡などが検出されている。

検出遺構　甕棺墓を４基確認した。

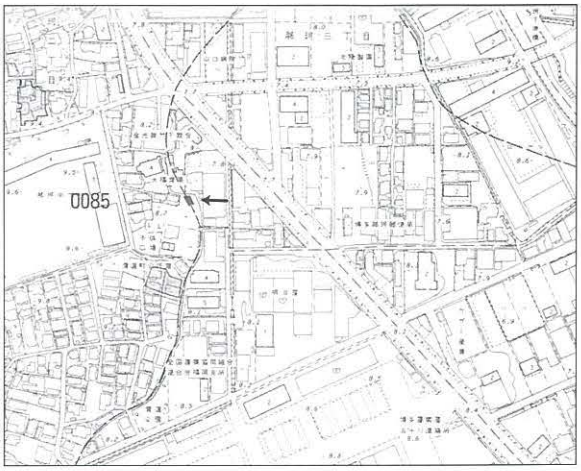
SK001合口甕棺である。上棺は丹塗りの鉢で、内面に磨きを施している。下棺は甕で、口縁部下に三角突帯を巡らしている。

SK002単棺である。全体に丹を塗り、口縁部下に断面「M」形の突帯を巡らしている。口縁部には焼成前の穿孔が見られる。

SK003合口甕棺である。

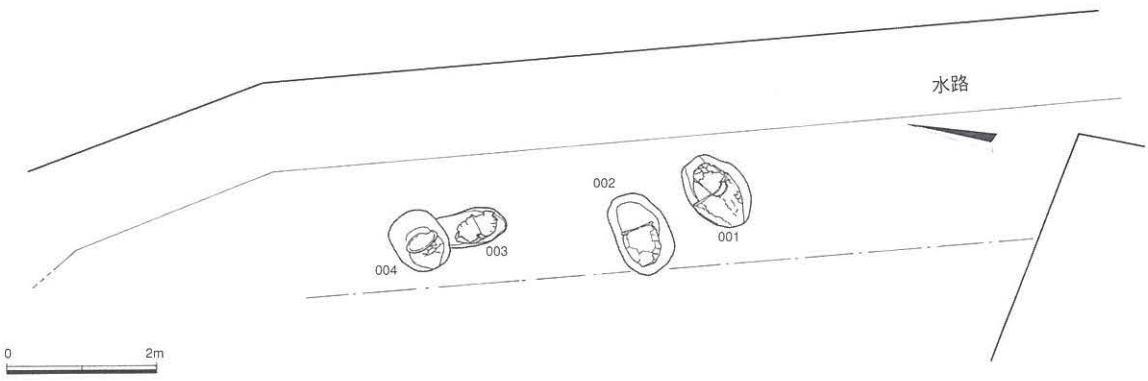
SK004単棺である。胴部は丸みを帯び、口縁部は「く」の字に開く。

まとめ　東側隣接地より一段高いことから、旧地形が残っているものと思われたが、造成時に削平されていることがわかった。第38次調査とは別の墓群の可能性があり、当該地周辺の今後の調査が期待される。

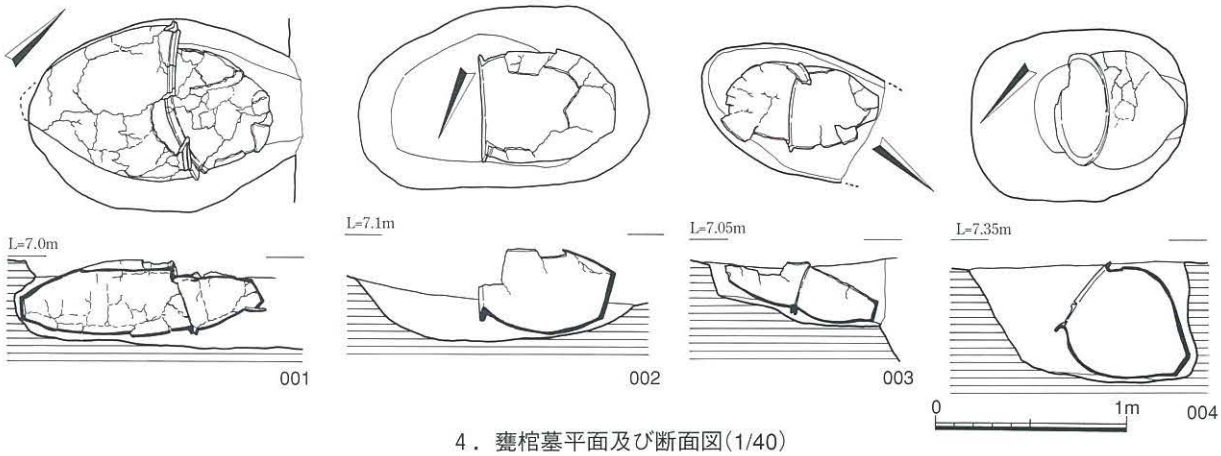


1．1.調査地点位置図(37東光寺.85 1:8000)

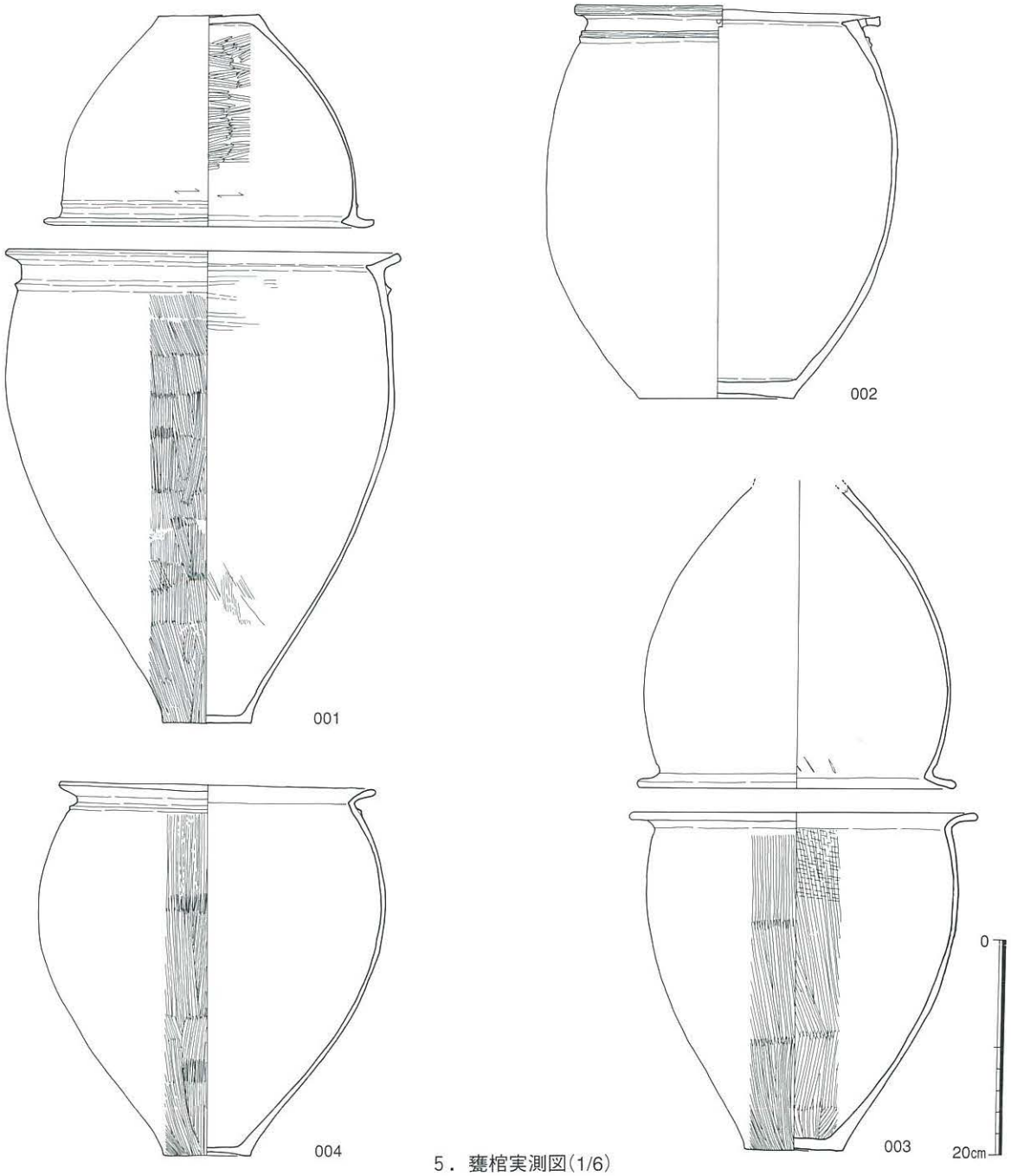
2．調査作業風景(南から)



3．遺構配置図(1/100)



4．甕棺墓平面及び断面図(1/40)



5．甕棺実測図(1/6)

9710 周船寺遺跡群第9次調査（SSJ-9）

所　在　地　西区大字飯氏字下カリ町988番1　　調査面積　328.7㎡
調査原因　共同住宅建設　　担　当　者　大塚紀宜
調査期間　1997.4.23～4.29　　処　　置　記録保存

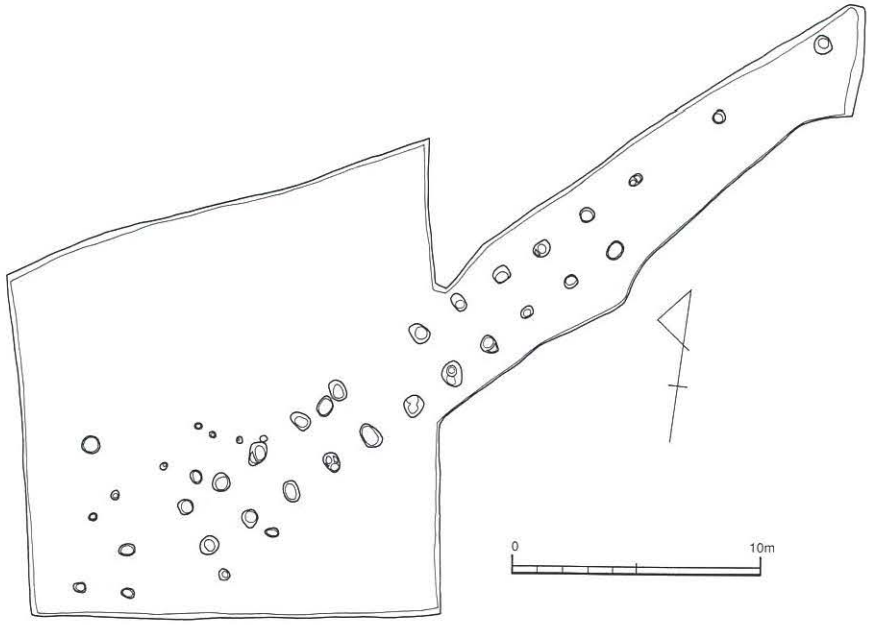
位置・環境　本調査区は瑞梅寺川東岸の低位扇状地上に位置し、周船寺遺跡群全体の北西隅にあたる。調査地点の標高は９ｍ前後で、調査区は低台地の北西端部に位置し、北西方向に緩く落ちる地形にあたる。調査範囲は当初予定された箇所と、柱穴列に沿って拡張した箇所から構成されている。調査範囲の北西側と南東側は、試掘の結果、遺構は存在しない。

１．調査地点位置図(131泉.689 1:8000)

検出遺構　調査の結果、耕作土のほぼ直下、地表下20㎝の黄灰色シルト質土層で遺構を検出する。遺構覆土は暗黒灰色のシルト質になる。遺構は柱穴が主で、径70～80㎝のものとそれ以下に二分できる。径の大きな柱穴は調査区を北東から南西に２列に横切る配置になる。柱穴列は柱穴が相対し、間隔は1.8～2ｍでほぼ一定しており、掘立柱建物跡の可能性もある。小型の柱穴群は建物としてまとまるものはなく、散漫に分布している。

出土遺物　遺物はコンテナ１箱弱の量で出土し、調査区全体では遺物の時期は縄文晩期～古代まで及ぶ。柱穴内からは縄文晩期～弥生中期までの遺物を確認している。

まとめ　２列の柱穴列については現段階でこの性格を確定させることは難しい。柱穴の配置が規則的であることをみるとさらに時期が下ると考えられる。遺物中に縄文晩期に属する遺物の割合が高く、近接地域の同時期の集落の存在を伺わせるものである。



３．遺構平面図（1/300）

9722 東入部遺跡群第12次調査（HGI-12）

所　在　地　大字東入部1450-1　　調査面積　30㎡
調査原因　道路改良工事　　担　当　者　米倉秀紀
調査期間　1997.6.5～6.7　　処　　置　記録保存

1．遺跡の立地

当調査地点は東入部遺跡の従来の東端近くの、従来の遺跡境界ラインの北側約50ｍ地点に位置している。東入部遺跡は早良平野南側近くの平野内にある砂礫台地上に立地しているが、当地点は沖積平野上に立地しており、調査地点内の北側には遺構が確認されていないことから、当地点の南端が東入部遺跡の境界で、それから北には岩本遺跡まで遺跡が存在しないものと推察できる。

東入部遺跡の調査は圃場整備に伴う一連の調査を始め今回で12回の調査次数を数え、青銅器を伴った弥生時代の墓地や唐三彩が出土した古代の建物群の検出など多くの成果を上げている。

1．調査地点位置図(一ツ家早16,入部85,金武94.343 1:8000)

2．調査の経緯と調査組織

早良区を南北に貫通する国道263号線は現在拡幅事業を行っているが、埋蔵文化財の包蔵地について教育委員会では発掘調査を行っている。今回の調査はこの拡幅事業に伴い、福岡市土木局の事前審査願を受けて、平成９年５月　日に試掘を行った結果、土壙１基とピットが検出されたため、同年６月５日～７日まで発掘調査を行った。

2．調査区全景(北から)

3．遺構と遺物

検出した遺構は廃滓土壙と考えられる土坑１基のみであった。

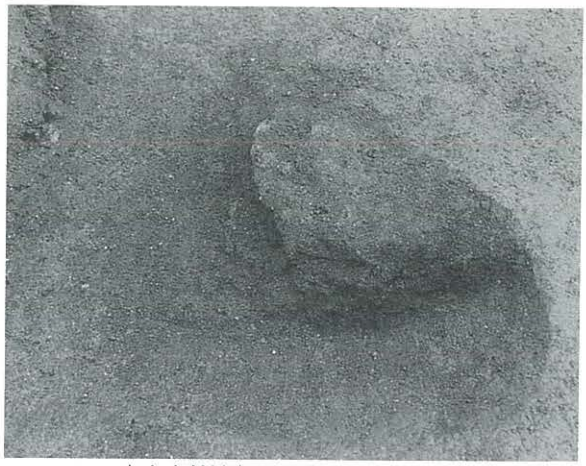
ＳＫ001　調査区南端で検出した。一部は調査区外へ続いている。平面形は楕円形を呈すると思われ、長さ1.14ｍ、確認幅0.78ｍを測る。断面形は底の丸い浅鉢状を呈し、深さ20㎝を測る。土壙の中心部には大きな鉄滓の塊があり、その周辺は炭・灰・鉄滓粒がまじった層が充填している。部分的に焼土がはいった部分もある。廃滓土壙と考えられる。

出土遺物　土壙内から出土した遺物は、土器片４点と鉄滓である。土器片の内訳は黒色土器Ｂ類碗１点、須恵器甕１点、土師器片２点である。いずれも小片で実測は不可能である。鉄滓は再結合滓で鍛造剥片を多く含んでいる。

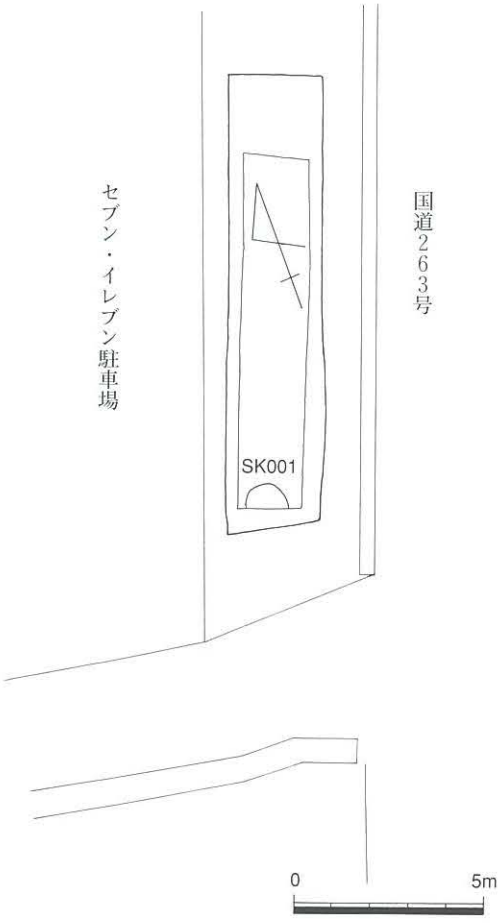
3．SK001(北から)

4．まとめ

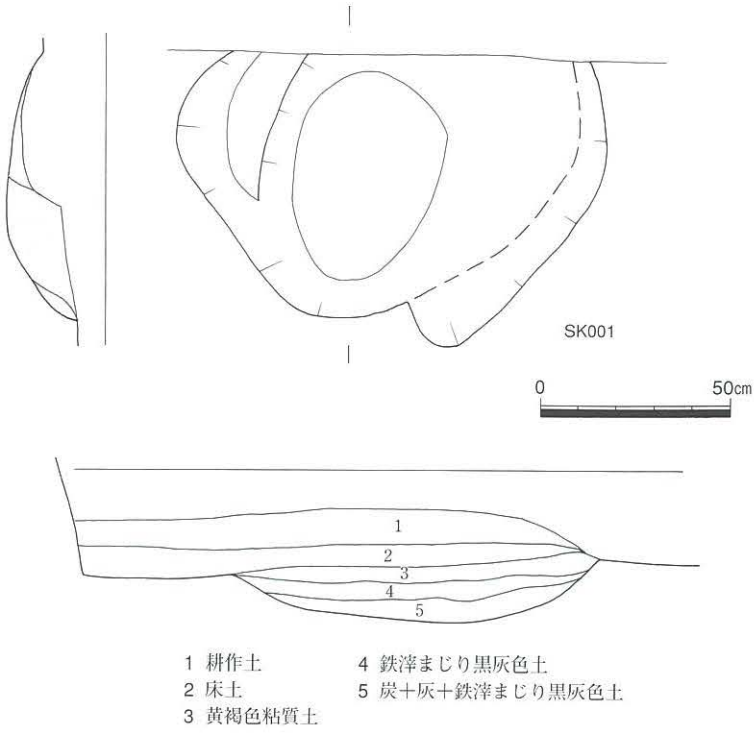
当調査区は東入部遺跡のもっとも北東の端にあるものと考えられ、廃滓土坑１基以外には遺構は検出できなかった。東入部遺跡では古代の廃滓土坑が既調査区から点々と検出されており、鍛冶集団がいた可能性が考えられており、当地区で検出した廃滓土壙もそれらの１例に数えられる。当地区では地山が沖積平野の土層を示しており、砂礫台地に立地している東入部遺跡群本体とは異なっており、遺跡の境界近くに当地区が位置しているものと考えられよう。



4．SK001内出土鉄滓(北から)



5．遺構位置図(1/200)



6．SK001平面及び土層断面図（1/20）

9728 田村遺跡群第19次調査（TMR-19）

所在地　早良区田村３丁目762-1
調査原因　共同住宅建設
調査期間　1997.7.24～8.8
調査面積　315㎡
担当者　星野恵美
処置　記録保存

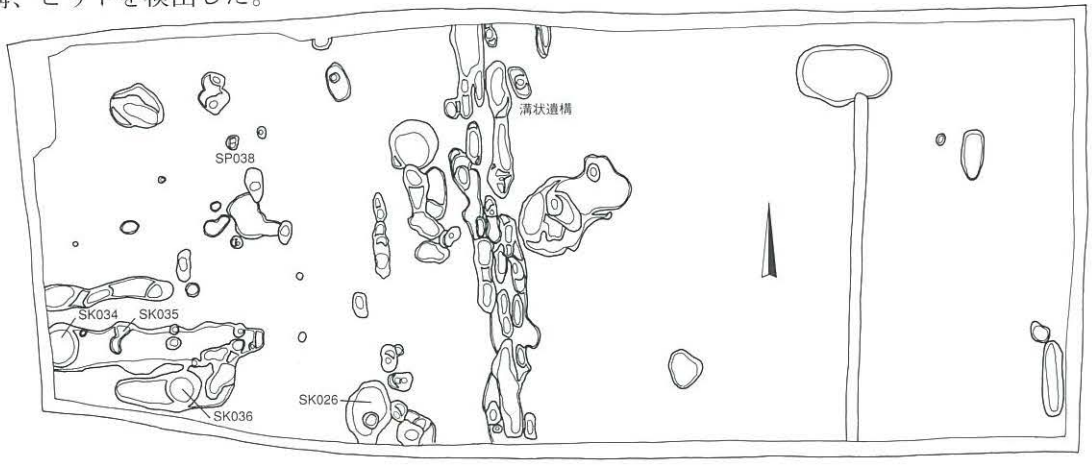
はじめに　平成９年６月18日、曽根田善行氏より共同住宅建設のための埋蔵文化財事前審査願が提出され、試掘調査を６月26日に実施した。その結果、当該地には埋蔵文化財が包蔵されており、記録保存のための発掘調査が必要となった。

位置・環境　田村遺跡は室見川を中心とした河川の沖積作用によって形成された早良平野のほぼ中央に立地する。東西約760ｍ、南北約850ｍの広がりをもつ遺跡群で、これまでの調査結果から、縄文時代から近世に至る多数の遺構及び遺物が確認されている。弥生時代には微高地に集落や墓地、沖積地に井堰・杭列等の水利施設が確認されている。水田開発が本格的に開始した時期で、これ以降、室見川の水系をはじめとする自然環境の改変が行われている。現在でも整然とした方形の地割、すなわち条里地形が良好な状態で遺存している。調査地点は田村遺跡群の南西に位置し、地目は畑である。標高は14.7ｍである。

調査の概要　現地表下30㎝前後の地山面で遺構を検出した。調査区全体が旧河川の堆積であるため、地山も変化している。概ね東から黄褐色シルト層、礫層、西は再び黄褐色シルト層である。遺構は主に黄褐色シルト層の面で少数の土壙、溝状遺構、ピットを検出した。

1．調査地点位置図(93都地,84重留.317　1:8000)

2．調査区全景(北から)

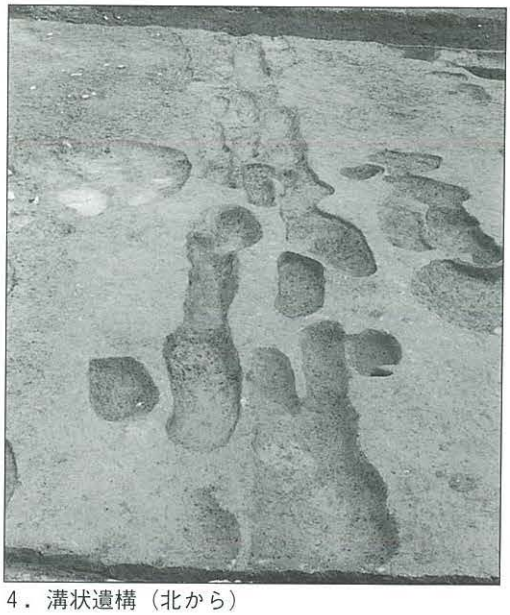


3．遺構配置図(1/200)

検出遺構　ほとんどの遺構は検出状況、覆土の状況から生活遺構ではないと考えられる。大部分の土壙、溝状遺構の底部は凸凹を呈する。覆土は茶褐色、灰褐色を呈し、しまりがない。

溝状遺構は調査区中央を南北方向に走る。深さは10～20cmを測り、底は凸凹を呈する。

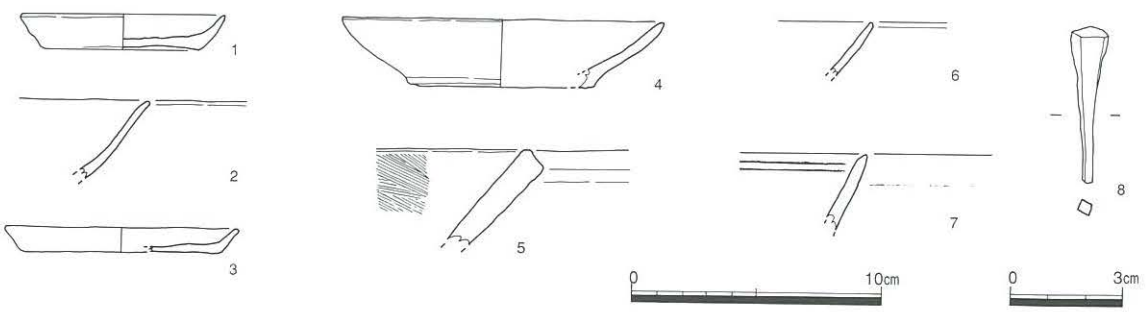
SP038は径30cm、深さ５cmを測る。中には厚さ５cm前後の板石があり、柱の根石と考えられる。根石が遺構検出面で確認できることから、調査区はかなりの削平を受けている可能性がある。掘立柱建物の柱穴の１つと考えられるが同様のピットは他に確認できなかった。


4．溝状遺構（北から）

田村遺跡では縄文後晩期の遺物が多く発見されているため、調査区内にトレンチを５ケ所設定した。10～30cm掘り下げたが礫層にあたり、水が湧き出したため、それ以上は掘削できなかった。掘削時に、遺物は１点も出土していない。

出土遺物　1は土師皿で口径8.2cm、底径6.3cm、器高1.4cmを測る。底部は糸切り。SK034出土である。2は瓦器椀で口縁はわずかに外反する。SK035の出土である。3は土師皿で、口径9.2cm、底径7.8cm、器高1.0cmを測る。底部は糸切りである。4は土師器坏で口径12.6cm、底径7.2cm、器高2.7cmを測る。5は土師質の鉢である。口縁部はやや肥厚し、端部には強い横ナデを施している。浅黄橙色を呈する。6は白磁椀の口縁部片である。胎土は精良。白色を呈し、透明釉を施す。3～6はSK036出土である。7は青磁椀で外面に１条、内面に２条の沈線を施す。胎土は精良で灰白色を呈し、緑色釉を施す。遺構検出時の出土である。8は鉄製の釘で長さ4.1cmを測り、断面は方形を呈する。SK026の出土である。

おわりに　本調査で検出した遺構はほとんどが明確なプランが確認できず、底が凸凹を呈するという状況である。検出状況・覆土の状況から生活遺構ではなく、耕作時における深耕に起因するものと考えられる。溝状遺構からは時期を確定できる遺物の出土はなかった。しかし周辺の土壙からほとんどが破片であるが、13世紀前半ないし中頃～14世紀前後の土器が確認されている。覆土が同じ茶褐色・灰褐色を呈することやしまりがないことなどから、ほとんどの遺構はほぼこの時期に位置すると考えられる。田村は、もともと平群郷に属する。その惣社である飯盛神社関係の古文書によれば、鎌倉～戦国時代にかけて田村に多くの屋敷があったことが記されている。田村は戦後の住宅化前までは、長い間水田として利用されてきた。本調査区はこれら屋敷地の生産の場であった可能性が考えられる。



3．出土遺物実測図(1/3.1/2)

9747 西新町遺跡第11次調査（NSJ-11）

所　在　地　早良区西新町５丁目632-6
調査原因　店舗建設
調査期間　1997.10.13～10.15
調査面積　52㎡
担　当　者　加藤良彦
処　　置　記録保存

位置・環境　西新町遺跡は、福岡市の都心部より西へ４km、現在の百地浜埋立前の旧海岸線より南へ600ｍの地点、県立修猷館高校のグランド南側を中心に東西800ｍ、南北300ｍ程の範囲に広がっている。博多湾岸には海浜砂及び風成層から成る古砂丘、新砂丘が発達しており、本遺跡も縄文時代晩期以降に形成された標高３～５ｍの砂丘稜線上と、南側後背緩斜面に立地している。

周辺では地下鉄建設に伴う第２次調査を中心に、弥生時代前期末から終末期の甕棺群、同中期後半～古墳時代前期の竪穴住居群が検出されており、本調査区は弥生時代終末期～古墳時代前期の集落の南東部に位置する。

調査区は、現地表標高4.85ｍ、遺構検出面で3.80ｍである。土層は、地表下40㎝までは客土で、70㎝までが暗灰褐色砂質土、１ｍまでが淡褐色混土砂層、黄白色の水成中砂層にいたる。検出面はこの黄白砂層上面であるが、20～30㎝上位の淡褐色混土砂層中から掘り込まれているようである。

1．調査地点の位置(72荒江.240 1:8000)

2．調査区全景(南から)

検出遺構　遺構は、古墳時代の土壙２基（SK02・05）、これに切られる土壙１基、これを切る溝２条、中世の溝１条（SD04）、時期不明の土壙２基、柱穴６である。遺跡の縁辺に近いわりには遺構の密度は高い。

SK05は、調査区北西際に位置し、大半が調査区外に延びる。東西３ｍ、南北1.8ｍ程の隅丸方形プランと思われ、深さは15㎝程を測り、床面は平坦である。東西両壁に沿って土壙が設けられ、東側は幅75㎝、深さ25㎝程、西側は幅12.5㎝、深さ55㎝を測る。南壁の東延長上60㎝の位置に、南側を接して径20㎝程の赤変した焼成痕があり、竈の痕跡とすると竪穴住居跡の可能性も考えられる。主軸はN－79°－Eで、現在の街区の方向に近い。覆土は灰褐色砂質土であ

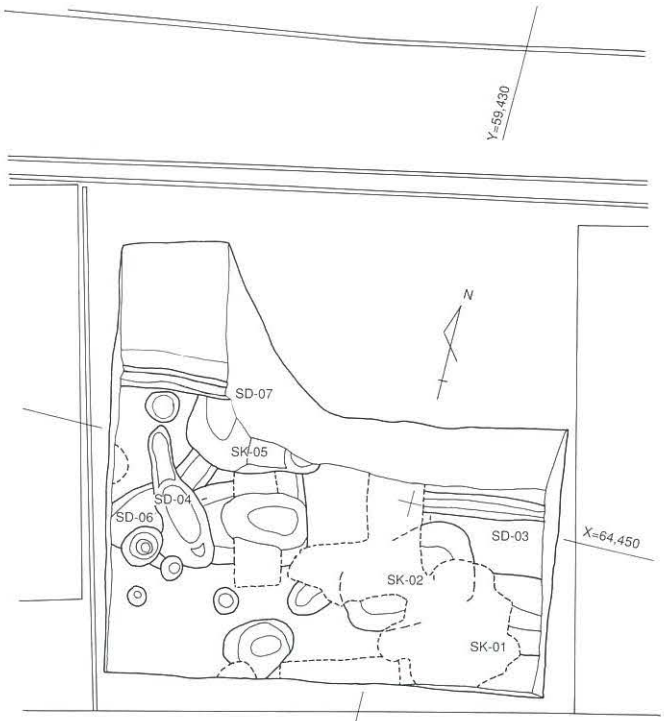
3．SK05土器出土状況(北から)

る。遺物はほぼ中央部の壁に沿って床面から10㎝程浮いて、布留式古段階の甕２個体と、小型の鉢１個体分が破砕された状態で検出された。

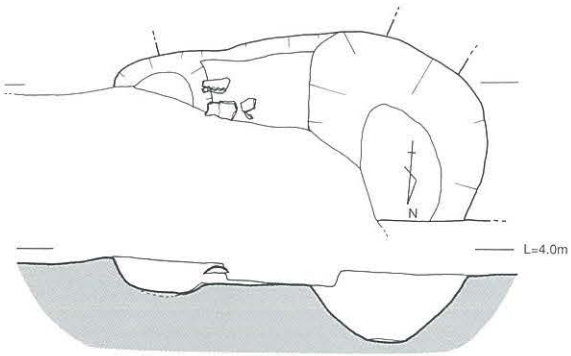
SK02は、調査区東側中央部に位置し、大部分を撹乱されるが、３×1.8ｍの隅丸長方形を成している。主軸をN−46°−Eにとる。深さ35㎝。覆土は灰褐色砂質土でⅣ～Ⅵ期の須恵器坏蓋１片と、土師器８片が出土。

SD03・07は、N−92°～95°−Eに軸をとる小溝で、幅30～40㎝、深さ15～20㎝を測る。SD07は、SK05を切り、SD03からは古式土師器片数片が出土した。溝底は西から東に低くなっている。

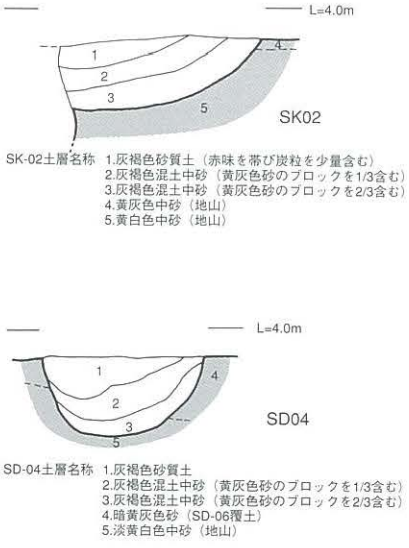
SD04は、調査区西側中央に位置し、主軸をN−35°−Wにとる。長軸3.1ｍ、幅0.5～1.2ｍ、深さは南側に深くなり、15～45㎝を測る。遺物は糸切り底の土師器小片が１片検出されている。



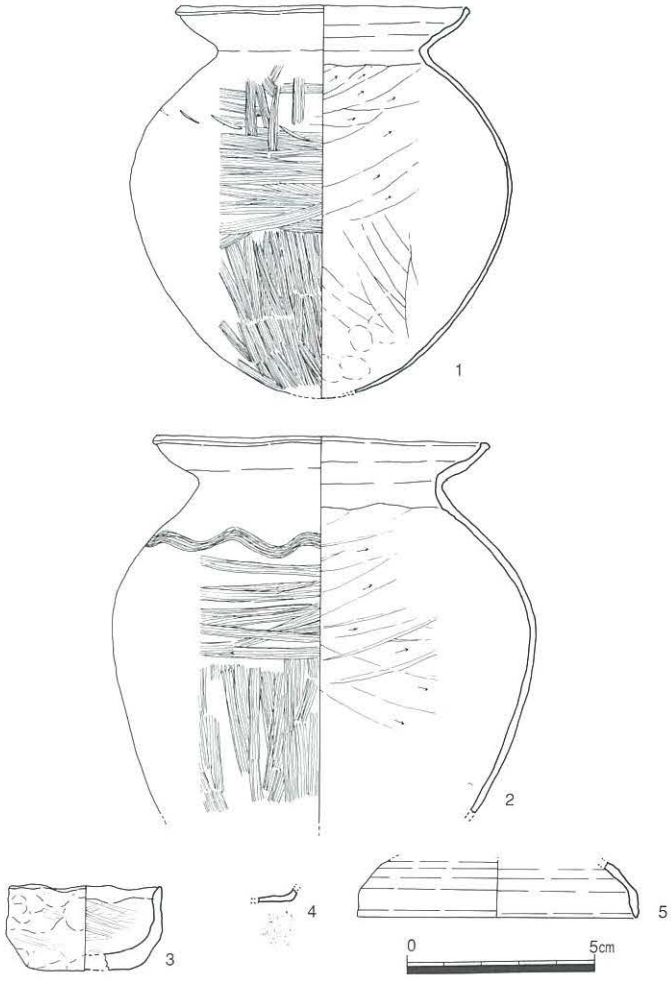
4．調査区全体図(1/160)



5．SK05平面及び断面図（1/60）



6．SK02・SD04土層断面図（1/40）



7．出土遺物実測図(1/4)　1～3 SK05　4 SD04　5 撹乱層

9749 桧原遺跡群第４次調査（HBR-4）

所在地	南区大字桧原810-１	調査面積	200㎡
調査原因	公園建設	担当者	榎本義嗣
調査期間	1997.10.９～10.27	処置	記録保存

１．調査に至る経緯

福岡市都市整備局公園建設課長より平成６年12月５日付、都整第1853号により同市教育委員会埋蔵文化財課長宛てに福岡市南区大字桧原地内の南部運動公園（南側事業地）建設に伴う埋蔵文化財事前審査についての依頼が行われた。これを受けて埋蔵文化財課では同年より継続して試掘を実施してきた。平成９年７月30日の試掘調査において石室と考えられる石材の一部を重機掘削時に確認したため、両者での協議の結果、本調査を実施することとなった。

２．遺跡の立地と環境

桧原遺跡群の位置する油山北麓は樋井川及びその支流によって開析を受け、樹枝状の丘陵と狭隘な谷状の沖積地が形成されている。本遺跡群は桧原川東岸の花崗岩風化土を基盤とする丘陵上に位置し、同丘陵の尾根線上には桧原古墳群が占地している。本調査区は丘陵の基部からやや下った位置より西側に短く派生する支丘上に立地している。標高は46～48.5ｍを測る。なお、本調査区の支丘端部では第３次調査が実施され、古墳時代後期の集落が確認されている。

３．検出遺構

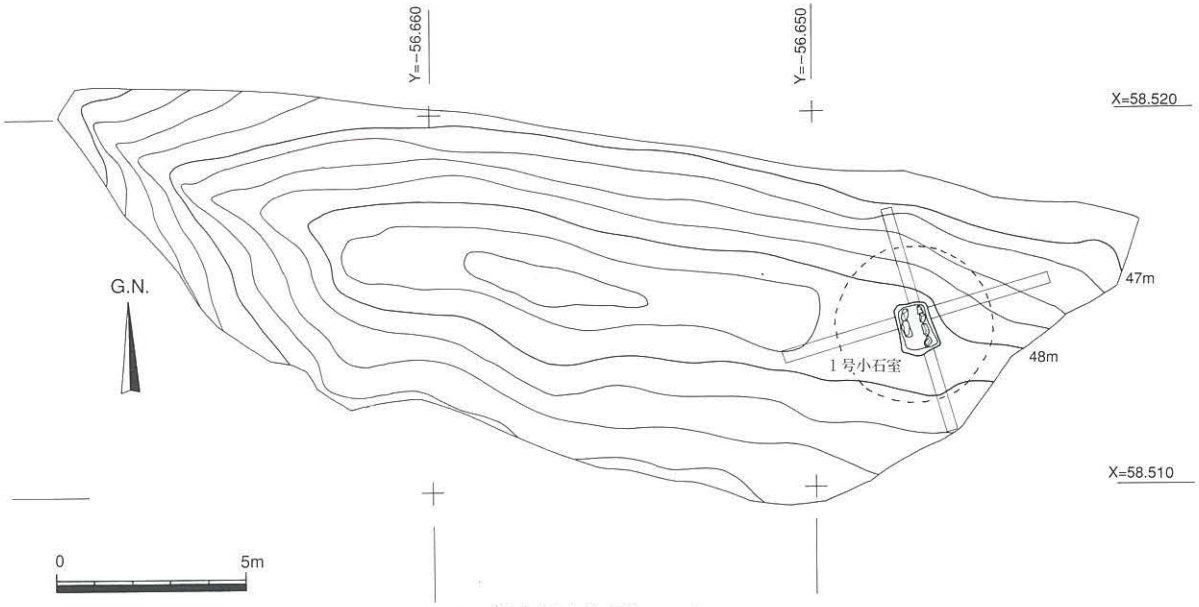
調査区は試掘時に確認された石室の位置する尾根線を中心に約 200㎡を設定したが、この石室以外の遺構は検出できなかった。

１号小石室（第５図）尾根線上に占地する小石室で、四方向にトレンチを設定した。表土直下は基盤の花崗岩風化土で、墳丘土はすべて流出したものと考えられるが、石室東側に設定したトレンチでは地山のわずかな地形変換が確認できたことから径４ｍ前後の墳丘を想定できる。石室は主軸をＮ－16°－Ｗにとる長さ1.45ｍ、幅0.95ｍの墓壙底面際を溝状に掘下げたうえで、構築されるが、腰石１段が遺存するにすぎない。北側小口部は石材の抜き跡や溝状の掘り込みが巡らないことから当初より開口していたものと考えられる。奥壁・側壁ともに横長の花崗岩転石を２石据える（北東隅の石材２点は風化による割れで、西側奥壁は試掘時の破損）。奥壁幅0.35ｍ、前幅0.25ｍ、側壁長0.8ｍと推定さ

１．調査地点位置図（64東油山,65山田.215 1:8000）

２．調査区全景（東から）

３．１号小石室（西から）



4．調査区全体図(1/200)

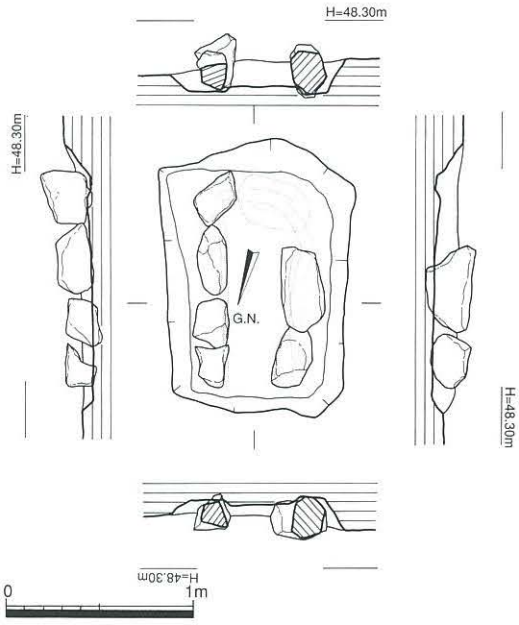
れる。なお、石室内には敷石、副葬遺物は確認されなかった。

4．出土遺物（第6図）

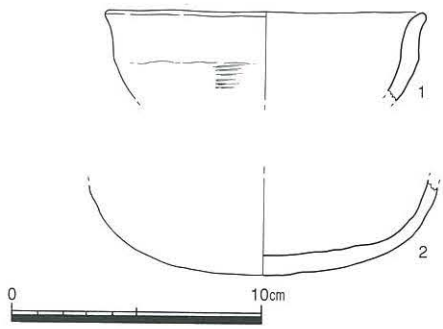
図示した2点は石室周囲の表土剥ぎ取り中に出土した土師器椀である。1は復元口径12.4cmを測り、口縁部を緩く外反させて収める。器面が荒れるが、体部外面には刷毛目がわずかに残る。2は底部のみが遺存する。器面の荒れが著しく、調整は不明である。他にも土師器と考えられる破片が数点出土しているが、細片により図化し得ない。

5．まとめ

今回確認した遺構は横口構造を有する小石室1基のみで、遺存状況も不良であった。石室内からの出土遺物もなく、情報量としては極めて乏しいが、築造時期は周辺出土遺物から類推して5世紀後半から6世紀代を考えたい。また、尾根線上に単独に小石室1基が占地する立地は、古墳時代後期から終末期の群集墳中に造営される小石室の立地とは異なっていることからも時期的な差を示すものと思われる。



5．1号小石室実測図(1/40)



6．出土遺物実測図(1/3)

9753 高畑遺跡第15次調査（TKB-15）

所在地	博多区板付６丁目9-13・9-1の一部	調査面積	254.5㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	井上繭子
調査期間	1997.11.18～1998.1.10	処置	記録保存

１．調査に至る経過

1997年８月５日に、地権者である今泉昴氏から、遺跡確認申請が提出された。申請地は高畑遺跡の推定地内にあたること、北西と南東の調査地点（第12・10次）で古墳時代の大溝が検出されていることから、遺跡の存在が予想され発掘調査が必要と判断された。なお調査にあたっては、今泉昴氏の多大なご理解とご協力をいただきました。記して感謝の意を表します。

２．位置・環境

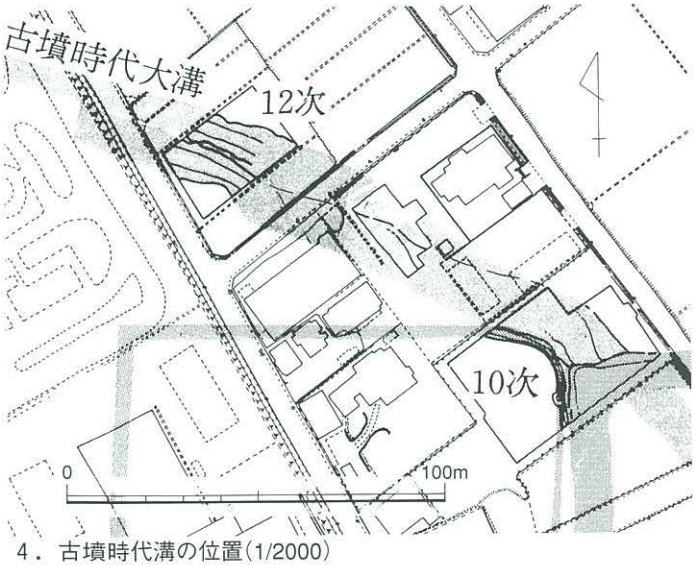
高畑遺跡群は、福岡平野を北流する御笠川と同河川中流域から派生する諸岡川との間に所在する丘陵の北端部から東側にかけての沖積地に広がる。本調査区は、高畑遺跡群の中心部を占める高畑廃寺の北側に位置する。遺構面は現地表下約１ｍ、標高約９ｍで検出された。

３．検出遺構

河川及び溝が調査区のほぼ全体を占める。古墳時代の溝の堆積層である黒色粘質土層が青灰色シルト層を切って堆積しており、調査区の南側へ向かって厚くなる。最も厚い部分で30㎝程度であり、調査区南半分に広がる。古墳時代の溝の下は河川の粗砂が堆積している。

１．調査地点位置図(24板付.95 1:8000)

２．黒色粘質土層下面遺物出土状況(東から)



４．古墳時代溝の位置(1/2000)

３．調査区南東側河川完掘状況(南から)

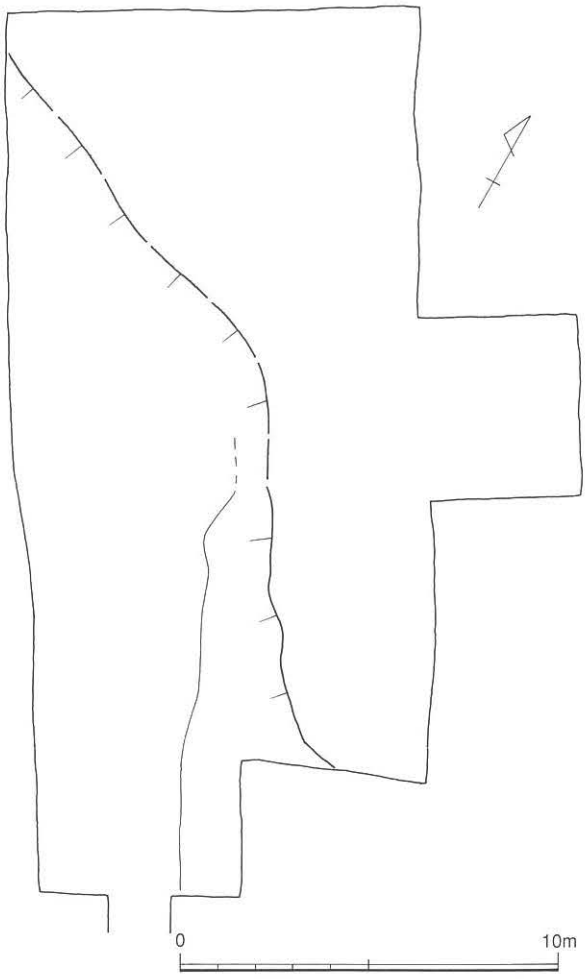
4．出土遺物

古墳時代の溝内の黒色粘質土層中及び河川内粗砂中から土器、木器類が出土した。黒色粘質土層中には、主に古墳時代初頭から中期にかけての土師器片や流木が含まれていた。また、この黒色粘質土層を除去した下面では、土器が部分的に集中して分布する箇所がみられた。

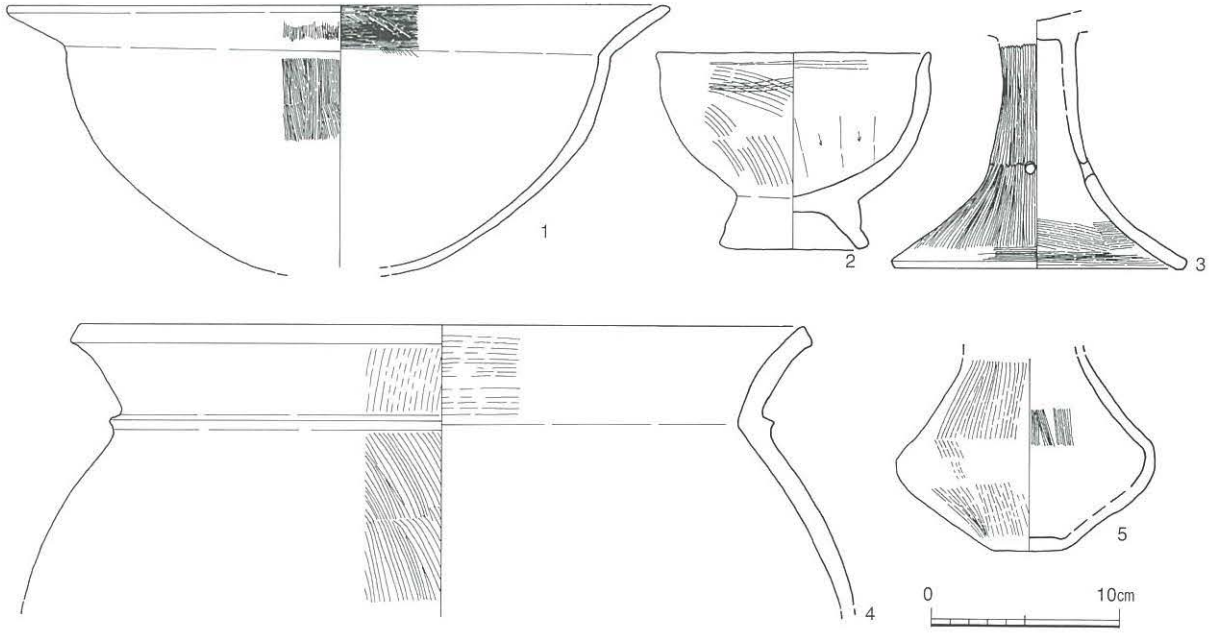
1は、口縁部を下にして伏せた状態で検出された大型鉢である。2・3は遺物が集中する箇所で検出された。2は短脚付きの鉢、3は高坏の脚部である。1～3は黒色粘質土層の下面より出土したもので、弥生時代終末から古墳時代初頭に比定できる。4・5は下層の河川底付近の粗砂中から出土した。4は大型甕、5は壺の胴部で、弥生時代後期と思われる。遺物の時期や出土状況から、河川は弥生時代後期から終末にかけて堆積し、その直後掘削された溝は古墳時代中期頃まで営まれていたと考えられる。

5.まとめ

今回の調査地点では、第12次調査地点で検出された大規模な祭祀遺構の続きはみられず、溝の落ち際が検出されたにすぎない。しかしながら、多少西にずれながらもほぼ推定ライン通りの溝の流路を位置づけられたといえよう。今回検出された溝は、図4に示した第12次調査地点で検出された1号溝の続きと考えられる。1号溝の作り替えとされる2号溝は東へ流路を変えるか、または1号溝に合流するかいずれかと思われる。今後の調査に期待したい。



5．溝位置図(1/200)



6．出土遺物実測図(1/4)

9677 香椎B遺跡群第３次調査（KSB-3）（御飯ノ山城跡）

所在地	東区大字香椎字熊他	調査面積	22,800㎡
調査原因	宅地造成	担当者	瀧本正志・田上勇一郎
調査期間	1996.11.18～1998.1.22	処置	記録保存

位置・環境　御飯ノ山城跡は、東区にある香椎宮（廟）の西500ｍに位置し、標高91ｍ（平地比高差77ｍ）の城ノ腰山に立地する。海岸線から1.5kmの位置にあり、宗像地域から博多への唯一の陸路に面するとともに、山頂からは、玄界灘・博多湾・福岡平野を全望できる要所の地である。

近世文書には、城ノ腰山山頂に中世山城の存在や、「御飯ノ山城」・「城ノ腰山城」などの名称とともに、この城が調査地から北３kmに位置する立花山（標高367ｍ）に築かれた大友氏の立花城の支城であることも記されている。

調査前には、わずかに堀切の存在が知られていた。調査は城ノ腰山全域で行った。

検出遺構　山城跡には、主郭および小郭、堀切、竪堀、切岸、虎口などが残存していた。

主郭は単郭で、山頂部を平坦に整地した敷地は東西50ｍ・南北12ｍを測る。郭内では掘立柱建物七棟、柵列が検出されたが、周縁部では土塁などの高まりは認められない。大半の建物群は地形に沿った東西棟建物で、床面積が16～105㎡と多様である。特に中央部に位置するSB01は、梁行６ｍ×桁行17.5ｍを測り、柱穴の規模からも主殿と推定される。建物群は、三回以上の建て替えが行われている。

小郭は、斜面で三ヶ所を検出したが、良好な状況で残存していたのは一ヶ所である。

堀切は、主郭から三方向へ延びる尾根上に設けられ、北西と北東の各尾根の堀切は薬研堀で、北東尾根が１条であるのに対し、北西尾根では２条が連続する。南東尾根の堀切（堀切３）は、箱堀で、主郭出入口とも連接しており、通路的要素が強い。

主郭への出入口（虎口）は、主郭南東隅と堀切３の底面との間をＺ字状に折り曲げて設けられ、岩盤を幅1.2ｍ、深さ0.8ｍ～2.1ｍの箱堀状

1．調査地点の位置（6城ノ越山,17浜男.14　1:8000）

2．御飯ノ山城全景（北から）

3．主郭と出入口（東から）

に掘り下げている。通路面は三ケ所の削り出し階段部と二ケ所の平坦部が相互に組合って構成され、第二階段部には門と櫓と推定される柱穴が並ぶ。竪堀は、堀切から連続するものと単独のものとがある。単独の竪堀は、堀切の近くと西および東の斜面に九条が設けられ、幅0.8m～1.8mを測る。また、主郭周縁から6mほど斜面を下った位置から竪堀は始まる。いずれの竪堀側縁においても顕著な高まりは認められなかった。

切岸・犬走りは、北側と西側の斜面で認められ、4～5mの高さで斜面を急勾配に岩盤を削り出して設けている。

堀切3から南側に連続して設けられている竪堀12は、城の立地する山の南西側裾部に位置して里城と呼ばれている方30m前後の平坦地を囲う堀SD258と一体化し、延長は200mを超える。さらに、竪堀12は、出入口との交点から南に15mほど下がった地点から堀底面の勾配も急激に険しくなり、形状も箱堀から薬研堀へ変わる。この堀が変換する地点の斜面においては、切岸・犬走りとは別に、西方向に下がる狭い削り出し部を検出した。堀の形状変化や出入口との動動線との関係から里城との通路と考えられる。

4．主郭の掘立柱建物SB01(西から)

出土遺物　総量でコンテナ箱に10箱の土師器（坏・小皿・土鍋）、瓦器（火舎）、陶器（備前焼摺鉢・常滑焼甕）、中国産磁器（白磁碗・染付碗）などが、主郭の柱穴や整地土層内および斜面から出土した。最も古いのは13世紀末の常滑焼甕、最も新しいのは16世紀第3四半世紀の備前焼摺鉢である。北側斜面の裾部や竪堀12からは、人頭ほどの転石、臼や五輪塔などの加工石が100個ほど出土し、投石と考えられる。

5．出入口の門と櫓(北から)

まとめ　今回の調査では、小規模な山城とはいえ、山城の全容が明らかとなり、城郭構造の変遷を知る上で具体的な資料を得ることができた。竪堀配置などには古い様相が認められるが、幾度かの改修を経た後、16世紀第1四半世紀には現在の形態を呈していたと考えられる。

これらは、商都博多を背景とする筑前の軍事的緊張関係から形成されたものであろう。

調査報告書は、2000年に刊行予定である。

6．堀切2(南から)

Ⅲ　平成９年度の指定文化財

１．絹本著色楊柳観音菩薩像（甲本）

種　　別　有形文化財
名称・員数　絹本著色楊柳観音菩薩像（甲本）　１幅
所 在 地　福岡市博多区博多駅前一丁目29番９号
所 有 者　承天寺

絹本著色、掛幅装、108.5×57.1㎝。

「華厳経」入法界品に説かれる、善財童子が求法の遍歴の途次、補陀落山で観音菩薩に出会う場面を描いた仏画である。日本では楊柳観音、韓国では水月観音の名で呼ばれる。楊柳観音は『法華経』普門品（観音経）に説く三十三観音の一つで、種々の病難救済を本願とする菩薩である。

『筑前國中神佛寶物記　完』（宝永１．1704成）から、当時・太宰府観世音寺に現存していたこと、福岡藩４代藩主黒田綱政（1659～1711）が太宰府観世音寺に寄進したものであったことが知られる。その後承天寺の所蔵に帰したもので、岡倉天心は『九州・支那旅行日誌』（明治45．1912）でその見聞を、「伝金岡　呉道子風　絹本　元画」と記している。

朱、緑青、群青の三色を基本にした彩色、金泥による輪郭線、衣褶線の表現、全面を装飾する各種の文様、白いヴェールを透かして全身を見せる技巧的な表現等々、緻密で華麗な高麗仏画の特色が典型的に示されており、保存状態も良好である。大徳寺本・泉屋博古館本・ケルン東洋美術館本と同様に小柳枝を右手に持つ点が本図の特色であり、高い資料的価値を有している。

１．絹本著色楊柳観音菩薩像(甲本)

２．絹本著色楊柳観音菩薩像（乙本）

種　　別　有形文化財
名称・員数　絹本著色楊柳観音菩薩像（乙本）　１幅
所 在 地　福岡市博多区博多駅前一丁目29番９号
所 有 者　承天寺

絹本著色、掛幅装、95.5×47.4㎝。

正面向きの図像、片膝を立てた坐法、上半身に條帛を巻く着衣の形態は特異であり、類似の図様としては大和文華本、根津美術館本がある。善財童子が頭光を負うのも本図の特徴である。また、補陀落山、大円相、竹林、水瓶、海原、善財童子といった定型的な基本構図に比して、竹林を描かず、穏やかな海波だけの海原描写、唐草円文他、高麗仏画に通有な文様が描かれない点も特色である。

こうした図様の祖型は、北宋・李公麟原画の石刻「水月観音図」（1132年）や北宋以降の中国彫刻などに求められると考えられている。

高麗楊柳観音の図様が定式化する14世紀以前の画風を持つ稀少な作品であり、朝鮮絵画史・日朝関係史上の稀少な美術史料である。

２．絹本著色楊柳観音菩薩像(乙本)

3．有田遺跡第177次調査出土品

種　　別　有形文化財(考古資料)
名称・員数　前漢鏡(単圏銘帯鏡)　1面
　　小形仿製鏡　1面
　　甕棺2基　4個
所 在 地　福岡市博多区井相田二丁目1番94号
　　(福岡市埋蔵文化財センター)
所 有 者　福岡市

前漢鏡は異体字銘帯鏡（単圏銘帯鏡）で、面径7.55cm。銘帯には「内日月心忽而不泄」の文字が篆書体で陽鋳され、字間に渦文が配される。甕棺墓ＳＴ001（弥生時代中期末）から出土。小形仿製鏡は面径5.1cm。鏡背には、蕨手状文と櫛歯文を配する。甕棺墓ＳＴ002（弥生時代後期初頭）から出土した。

前漢鏡の墓地への副葬は、本例も含め全国で16遺跡24基にしか過ぎず、市内の遺跡では樋渡墳丘墓、丸尾台遺跡に続き3遺跡目となる。また、小形仿製鏡は、大韓民国慶尚北道漁隠洞遺跡出土例に類似し、朝鮮半島から舶載された可能性が高い。

3．有田遺跡第177次調査出土品(上:前漢鏡、下:小形仿製鏡)

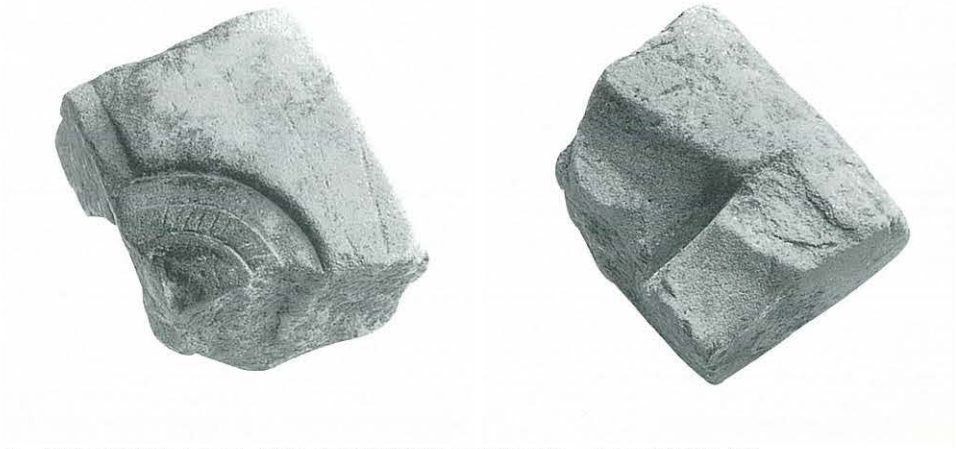
4．飯倉Ｄ遺跡出土品

種　　別　有形文化財(考古資料)
名称・員数　銅鏡･銅矛鎔笵残次　1個
　　銅鏡鎔笵残次　1個
所 在 地　福岡市博多区井相田二丁目1番94号
　　(福岡市埋蔵文化財センター)
所 有 者　福岡市

銅鏡・銅矛鎔笵は、石英ー長石斑岩を用い、縦7.4cm、横6.5cm、厚さ4.5cm。破損品であるが正方形面の一面に鏡、もう一面に矛を彫り込む。鏡の鎔笵面は、湯口と鏡背の4分の1程度が残り、内行花文日光鏡系仿製鏡の特徴を示す。復元面径は7.2cm。裏の矛の鎔笵面は、湯口と矛袋部半分が残り、広形銅矛と推察される。両面とも実際に使用されている。弥生時代後期後半の竪穴住居跡床面から出土した。

銅鏡鎔笵は、石英ー長石斑岩を用い、幅5.4cm、縦4.9cm、厚さ3.2cm。片面は湯口と緩やかな窪みがあり、そこを中心に黒変していることから、鏡面の鎔笵と考えられる。復元面径は、7.2～7.7cm。もう一面は矢印状の彫り込みがあり、鏃の鎔笵あるいは作業用の目印と考えられる。溝からの採集品である。

小形仿製鏡鎔笵の出土例は本例を含め全国で7例にとどまる。鏡表面と鏡背面の揃った出土例は他になく、またこの二つは同一鏡を製作した雄型と雌型であった可能性が高い。



4．飯倉D遺跡出土品(左:銅鏡･銅矛鎔笵残次鏡鎔笵面側、右:同矛鎔笵面側)

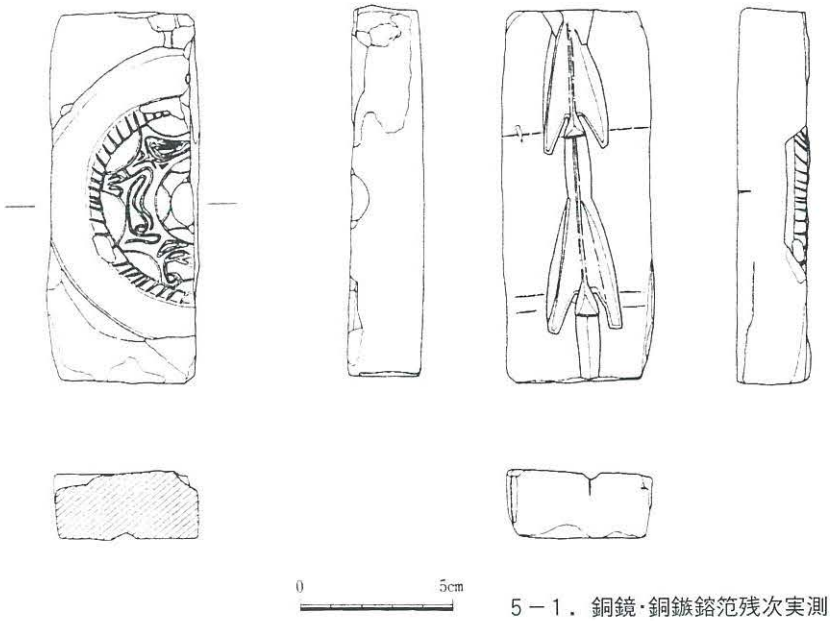
5．井尻B遺跡出土品

種　　別　有形文化財(考古資料)
名称・員数　銅鏡･銅鏃鎔范残次　1個
　　銅鏃鎔范　　1個
所 在 地　福岡市博多区井相田二丁目1番94号
　　(福岡市埋蔵文化財センター)
所 有 者　福岡市

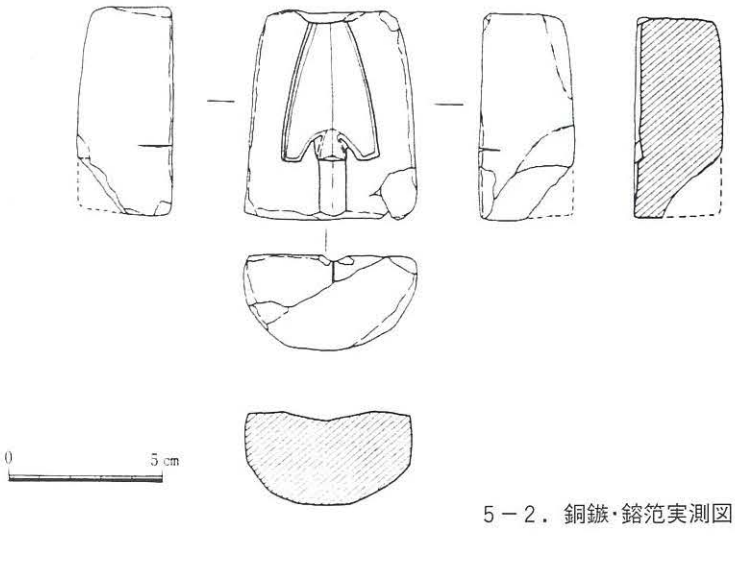
銅鏡・銅鏃鎔范は、石英ー長石斑岩を用い、縦12.1cm、横4.6cm、厚さ2.2cm。一面に鏡、もう一面に鏃の鎔范を彫り込む。鏡鎔范は半欠品で、面径10cm程度の小型仿製鏡を鋳造したと考えられる。裏面の鏃の鎔范は、2個の連鋳式で、1個分の長さが6cmと大型である。弥生時代後期中頃の土壙から出土した。

銅鏃鎔范は、長さ6.8cm、最大幅5.5cm、厚さ3cmの平面台形、断面蒲鉾形を呈し、片面だけに大型の鏃1個分の鎔范を彫り込む。鏃の長さは6.8cm、関幅は3cm。竪穴住居跡から出土。時期は前者と同様である。

銅鏃鎔范は全国で5例を数えるだけであり、うち2例がこの遺跡から出土した。



5－1．銅鏡･銅鏃鎔范残次実測図(1/2.5)



5－2．銅鏃･鎔范実測図(1/2.5)

6．田島神楽

種　　別　無形民俗文化財
名称・員数　友泉亭庭園
所 在 地　城南区田島四丁目６番39号
所 有 者　田島神楽保存会

6．田島神楽

旧暦６月１日の「サナボリ」の祭り（田植え終了後の祭り、現７月の早苗祭）で、氏神田島八幡宮に奉納してきた神楽。

明治維新後、神官世襲制の廃止とともに社家（神官）神楽が中止になったため、代わって氏子が神楽奉納を継承し、明治４年、田島八幡宮を勧請した船越家十一代の孫、武四郎氏を中心に神楽社が結成され、今日に至っている。

かつては鳥飼八幡、紅葉八幡、住吉神社、櫛田神社、警固神社、筥崎宮等々の市内各社を始め、旧早良郡・糸島郡、さらには粕屋・宗像・筑紫郡方面にわたる約40カ所の神社に奉納され、1896（明治29）年５月までには700 余回、1975（昭和50）年頃までにはその累計奉納回数2,350 余回に達したという（『田島沿革史』1897、明治30年刊）。

明治４年創設以来、戦争を始めとした社会情勢の変動、神楽社々員の増減にも拘わらず、江戸時代以来の社家（神官）神楽の芸態を連綿として継承する貴重な神楽である。

7．友泉亭庭園

種　　別　名勝
名勝・員数　友泉亭庭園
所 在 地　城南区友泉亭１番46号
所 有 者　福岡市

7．友泉亭庭園

宝暦４年（1754）、６代藩主黒田継高（1703～1775）が早良郡田島村に設けた別荘。友泉亭の名称は藩儒竹田定直が撰んだ久世通夏の「世にたへぬあつさもしらず　わき出る泉を友とむすぶいほりを」による。

藩主の遊興・保養の場、緊急時の避難場所、政治・軍事上の機密を要する合議の場として利用され、明治維新後には樋井川村所有となり、小学校や役場として利用された。

その後所有者の変転で荒廃していたが、苑池の地割や石組に従って池泉回遊式の庭園を復元整備して昭和56年から一般に公開されている。

大名庭園としては、質実である点に特色があるが、それは如水・長政時代の質素・倹約を理想とした継高の武人的側面の表現であったとも考えられる。

工作物のうち、慶長18（1613）年銘の五輪塔は造立年代からも、特殊な銘からも貴重である。昭和初年、貝島家によって建てられた現存の建物も近代和風建築の遺構として貴重であり、昭和50年代の公園整備に際して保存された旧遺構の礎石列も往時の亭を偲ばせている。また、植生にあっては、シイ・カシ・イヌマキの大木、樹齢200 ～300 年と推定されているキンモクセイ等々、がかつての庭園の有り様を伝えている。

明治維新後、樋井川村役場時代、貝島家時代、公園整備時代を通じ、著しい改変があった様子はなく、基本的な構成は現在に継承されているものと考えられる。

附　平成９年度刊行埋蔵文化財調査報告書一覧

集	報告書名	掲載遺跡調査番号				
547	有田・小田部第30集	8308				
548	三苫古墳群３－第４次調査報告－	9636				
549	多々良込田遺跡Ⅳ－第７次報告－	9611				
550	箱崎遺跡５箱崎遺跡群第９次調査	9644				
	蒲田部木原遺跡５蒲田部木原遺跡群第５次調査	9652				
551	箱崎６－箱崎遺跡群第１０次調査の報告－	9646				
552	吉塚４－吉塚遺跡群第４次調査の概要－	9632				
553	吉塚３－吉塚遺跡群第３次調査の報告－	9615				
554	吉塚遺跡５－吉塚遺跡第５次調査報告－	9640				
555	吉塚６－吉塚遺跡群第６次調査の報告－	9716				
556	博多61－下川端地区市街地再開発事業に伴う博多遺跡群第89次調査の概要－	9505				
557	博多62－博多遺跡群第90次発掘調査概報－	9519				
558	博多63－博多遺跡群第97次調査の概要－	9603				
559	博多64－博多遺跡群第98次調査の概要－	9618				
560	博多65－博多遺跡群第99次・第101次調査報告－	9633	9660			
561	比恵遺跡群25－比恵遺跡群第58次調査の概要－	9601				
562	比恵遺跡群26－比恵遺跡群第59次・60次・61次調査の概要－	9627	9668	9673		
563	那珂遺跡20－那珂遺跡群第58次調査報告－	9619				
564	那珂遺跡群21－第59次調査報告－	9645				
565	雀居遺跡４－福岡空港西側整備に伴う埋蔵文化財調査報告－	9230	9317	9453	9675	
566	下月隈Ｃ遺跡２－下月隈Ｃ遺跡２次・３次調査－	9515	9610			
567	福岡市板付周辺遺跡調査報告書第19集	7714	7837	7838	7844	
568	麦野Ｂ遺跡－第３次・第４次発掘調査報告－	9613	9661			
569	雑餉隈遺跡４－雑餉隈遺跡５次・８次･10次調査－	9407	9550	9670		
570	中南部５	9538	9704	9648		
571	井尻B遺跡６－第８次調査報告－	9667				
572	和田B遺跡II－野多目台住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告－	9608				
573	野方岩名隈１・藤崎12	9614	9629			
574	有田・小田部31－有田遺跡群第181次、184次調査報告書－	9607	9676			
575	野芥遺跡２－野芥遺跡第４次調査－	9450				
576	野芥遺跡３－第７次・第８次調査の報告－	9616	9631			
577	入部VIII－東入部遺跡群第１次調査報告(1)・第７次調査報告－	9074	9312			
578	松木田遺跡第２次・第３次調査	9540	9641			
579	金武古墳群－金武古墳群吉武G群の調査－	9635				
580	吉武遺跡群X飯盛・吉武圃場整備事業関係調査報告書	8102	8234	8335	8416	8518
581	外環状道路関係調査報告４	9307				
582	福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告５	9327	9510			
583	国道202号線今宿ﾊﾞｲﾊﾟｽ関係調査報告書VII	9535	9536	9642		
584	今山遺跡	9622				
585	飯氏古墳群B群14号墳	9674				
586	鴻臚館跡９	9736				
	福岡市埋蔵文化財年報Vol.11					
	福岡市文化財分布地図（西部Ⅲ）					

福岡市埋蔵文化財年報Vol.12
－平成９(1997)年度－

発　行　日　1999年3月31日
編集・発行　福岡市教育委員会埋蔵文化財課
福岡市中央区天神１丁目8－１

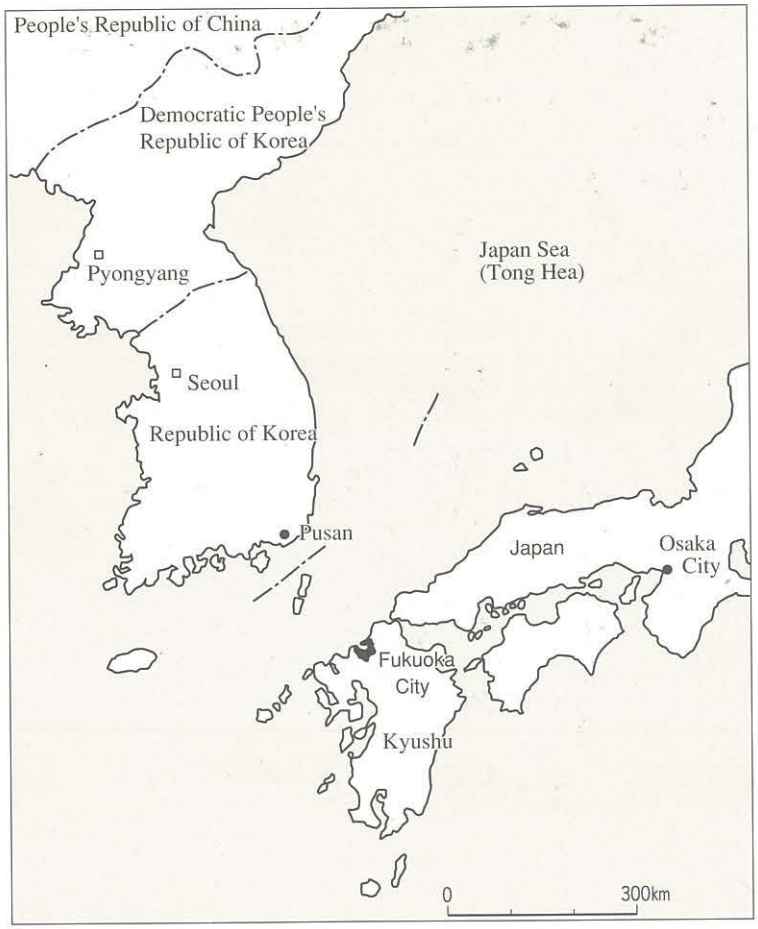
印　　刷　松影堂印刷株式会社
福岡市博多区吉塚５丁目13－40

THE ANNUAL REPORT

OF THE

BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY

Volume 12



THE BOARDS OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

March 1999

Japan